

博士学位論文

韓国語の文末名詞化構文・連体終止形に関する
認知類型論的研究
—日本語との対比を通じて—

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

日本語文化専攻

呉 守鎮

平成 27 年 9 月

目次

第1章 序論.....	1
1.1 はじめに.....	1
1.2 研究対象.....	3
1.3 研究背景と研究目的.....	7
1.4 研究方法.....	8
1.5 論文の構成.....	10
第2章 本研究の理論的背景.....	12
2.1 はじめに.....	12
2.2 認知類型論.....	12
2.3 文法化.....	15
2.4 ポライトネス理論.....	17
第3章 先行研究.....	20
3.1 はじめに.....	20
3.2 文末名詞化構文に関する先行研究.....	20
3.2.1 韓国語の文末名詞化構文に関する研究.....	20
3.2.2 日韓対照の観点からみた文末名詞化構文に関する研究.....	25
3.3 従属節の主節化に関する先行研究.....	30
3.3.1 韓国語の従属節の主節化に関する研究.....	30
3.3.2 日韓対照の観点からみた従属節の主節化に関する研究.....	32
第4章 韓国語の文末名詞化構文「kes(-ita)」の文法的位置づけと語用論的機能 ：日本語の文末名詞化構文との対比を通じて.....	37
4.1 はじめに.....	37
4.1.1 本研究の研究対象.....	39
4.2 先行研究.....	39
4.2.1 連体形語尾「tanun」の位置づけ.....	40

4.2.2	韓国語の「tanun kes-ita」に関する先行研究.....	41
4.3	韓国語の「tanun ke(s-ita)」に関する分析.....	42
4.3.1	「tanun kes-ita」の機能.....	43
4.3.2	「tanun ke」の機能.....	49
4.3.2.1	「tanun ke」の語用論的機能.....	51
4.4	韓国語のコピュラ無しの「ke(s)」構文の位置づけ.....	55
4.4.1	「N ke」の機能.....	55
4.4.1.1	「N ke」の語用論的機能.....	56
4.4.2	韓国語のコピュラ無しの「ke(s)」構文の機能.....	58
4.5	実現可能性の観点からみた「kes(-ita)」構文の相対的位置づけ.....	59
4.6	韓国語の「tanun ke(s-ita)」と日本語の「ということ(だ)」との対比.....	60
4.6.1	コピュラ付きの「ということだ」に関する分析.....	61
4.6.2	コピュラ無しの「ということ」に関する分析.....	64
4.7	まとめ.....	68

第5章 韓国語の名詞化辞から文末名詞化構文への機能拡張

	: 日本語との対比を通じて.....	71
5.1	はじめに.....	71
5.2	先行研究.....	71
5.2.1	韓国語における名詞化辞の機能拡張.....	71
5.2.2	本研究の立場.....	75
5.3	韓国語の「kes-ita」の位置づけ.....	77
5.3.1	「kes-ita」の機能と分割可能性.....	77
5.3.2	分割可能性の観点からみた「N kes-ita」と「I kes-ita」の相違点.....	80
5.4	韓国語の「um-ita」に関する分析.....	83
5.4.1	韓国語の「sim-ita」に関する分析.....	85
5.4.1.1	敬語表現の機能拡張の傾向性.....	86
5.4.1.1.1	韓国語の尊敬の先語末語尾「si」の機能拡張.....	88
5.4.1.2	「sim(-ita)」からみた「si」の非尊敬の機能.....	91
5.4.1.3	考察.....	97

5.4.2	韓国語の「sim(-ita)」と日本語との対比.....	103
5.4.2.1	日韓両言語における尊敬のマーカ―と無情物との共起可能性.....	103
5.4.2.2	韓国語の「sim-ita)」と日本語の「お～だ」文との対比.....	106
5.5	韓国語の「ki-ita)」に関する分析.....	108
5.5.1	分割可能な「ki-ita)」の機能.....	109
5.5.2	一語化した「ki-ita)」の機能.....	112
5.5.3	過去のマーカ―と共起するコピュラ無しの「ki)」の機能.....	119
5.6	まとめ.....	122

第6章 韓国語における連体終止形の機能

	: 日本語の連体終止形との対比を通じて.....	124
6.1	はじめに.....	124
6.2	連体終止形の枠組みからみた本研究の研究対象.....	124
6.3	インターネットのブログに現れる「kes-kathun)」に関する分析.....	126
6.3.1	類似性から引用への機能拡張.....	126
6.3.2	韓国語の「kes-kathun)」の機能.....	126
6.3.3	韓国語の「kes-kathun)」と日本語の「みたいな」との対比.....	130
6.3.4	韓国語における「kes-kathun)」の位置づけ.....	132
6.4	テレビ番組のテロップに現れる「一般述語」の連体終止形に関する分析.....	134
6.4.1	塩田(2005)によるテロップの種類と特徴.....	135
6.4.2	調査方法.....	136
6.4.3	調査結果.....	137
6.4.3.1	テロップに生起する連体終止形の出現様相.....	140
6.4.3.1.1	(I)「連体形以外の発話」.....	140
6.4.3.1.2	(II)「非発話」.....	148
6.4.3.1.3	(III)「連体形の発話」.....	149
6.4.4	考察.....	150
6.5	まとめ.....	156

第7章	結論.....	159
-----	---------	-----

7.1 本研究のまとめ.....	159
7.2 言語学への示唆.....	163
7.3 今後の課題と展望.....	165
謝辞.....	167
参考文献.....	169

第1章 序論

1.1 はじめに

韓国語は言語類型論的に SOV を基本語順とする言語である。V（述語）が生起する文末は命題に対する主観的あるいは間主観的マーカーなどが生起する位置でもあり、類型論的に多くの共通点を有する日本語においても同様のことが言える (Ohori 1995, 1998, Suzuki 1998, 2007, Shinzato 2007, 堀江・金 2011, Rhee 2012)。そして文末では典型的に動詞や形容詞など、述語が出現しやすいが、それ以外にも名詞（節）と述語が組み合わさった形式が出現することも可能である。

本研究では実質的意味を持たない形式名詞¹に注目し、その形式名詞が文末に出現することによって、どのような機能を体現するのかについて探究する。具体的には韓国語の形式名詞のうち使用頻度が高く、形式名詞でありつつ名詞化辞の振る舞いを見せると同時に、文末形式への機能拡張が見られる「kes (것)」に着目する。まず以下の (1)～(3) を見られたい。

(1)²* 것이 있다.

Kes-i iss-ta.

KES-が ある-終結語尾

「ものがある。」

(2) 책상 위에 먹을 것이 있다.

Chayksang wi-ey mek-ul kes-i iss-ta.

机 上-に 食べる-未来連体形 KES-が ある-終結語尾

「机の上に食べるものがある。」

(3) 말하고 싶은 것이 있다.

Malha-ko siph-un kes-i iss-ta.

話す-希望-現在連体形 KES-が ある-終結語尾

「話したいことがある。」

¹ 韓国語研究においては「不完全名詞」または「依存名詞」という名称が一般的に使われているが、日本語の「形式名詞」とほぼ等価であるため、本研究では便宜上「形式名詞」と称する。

² 以下出典のない用例は筆者による作文である。また、韓国語のローマ字はyale式で示しており、本研究の研究対象（と関わる形式）に関しては一重線（ ）で示す。

(1)～(3) の形式名詞の「kes」に関して、(1) のように単独で自立することができないため、非文になる一方、日本語の「もの」「こと」に相当する (2) (3) のごとく、それぞれ「具体的存在・事物」、「抽象的事象」を表すことができる。しかし、文中に単独で生起することは不可能であるため、連体修飾節を伴って出現していることが分かる。

さらに (4) (5) の「kes」は文中に生起する名詞化辞（補文化辞）として、日本語の「の」「こと」のような認知的意味を区別しないため、日本語の「の」「こと」をカバーすることができる。

(4) 메리는 존이 길을 건너는 것을 보았다.

Mary-nun John-i kil-ul kenne-nun kes-ul po-ass-ta.

マリーは ジョンが 通りを 渡る-現在連体形 KES-を 見る-過去-終結語尾

「マリーはジョンが通りを渡るのを見た。」

(5) 메리는 존이 길을 건넌 것을 알았다.

Mary-nun John-i kil-ul kenne-n kes-ul al-ass-ta.

マリーは ジョンが 通りを 渡る-過去連体形 KES-を 知る-過去-終結語尾

「マリーはジョンが通りを渡ったことを知った。」

(堀江・パルデシ 2009 : 147; ハングルは筆者によるもの、グロスは微修正)

上記の (4) (5) の「kes」と同様に、韓国語の代表的な名詞化辞として、以下に示す (6) (7) のような「um (음)」と「ki (기)」³が挙げられ、前者は「現実」、後者は「非現実」を表象する対立が見られる。

(6) 비가 음을 알았다.

Pi-ka o-m-ul al-ass-ta.

雨が 来る-UM-を 知る-過去-終結語尾

「雨が降ることを知った。」

(7) 비가 오기를 바란다.

Pi-ka o-ki-lul pala-n-ta.

雨が 来る-KI-を 願う-現在-終結語尾

「雨が降ることを願っている。」

(堀江・パルデシ 2009 : 102; ハングルは筆者によるもの、グロスは微修正)

³ 述語に対する「um」「ki」の結合のし方に関しては頁71の注67を参照されたい。

以上、単独で生起することができず、必ず連体修飾節を伴う形式名詞の「kes」および名詞化辞の「kes」、さらに「kes」と同じく名詞化辞の役割を果たしている「um」「ki」について簡単に紹介した。

本研究では形式名詞及び名詞化辞として用いられる「kes」の機能を踏まえながらも、「SOV 言語における語用論的变化の重要な「開始時点」のひとつである「文末」という位置 (Suzuki 1999)」⁴に注目し、「kes」からなる文末形式に着目する。そして、文末に生起する「kes」に由来する諸形式はもとより、それと関連する周辺的な形式 (1.2 節で詳述) にも目を向け、それらの機能や特徴を解明する。次節では本研究における具体的な研究対象について述べる。

1.2 研究対象

まず、本研究の考察対象である「kes」を含んでいる文末の諸形式を紹介する前に、「kes」に由来する既存の文末形式を概観する。以下にその例を示す。

(8) 어제는 비가 온 것이다.

Ecey-nun pi-ka o-n kes-ita.

昨日-は 雨-が 降る-過去連体形 KES-ITA

「昨日は雨が降ったのだ。」

(9) 내일은 비가 올 것이다.

Nayil-un pi-ka o-l kes-ita.

明日-は 雨-が 降る-未来連体形 KES-ITA

「明日は雨が降るだろう。」

(10) 내일은 비가 올 것 같다.

Nayil-un pi-ka o-l kes-kathta.

明日-は 雨-가 降る-未来連体形 KES-KATHTA

「明日は雨が降りそうだ。」

従来の研究では「kes」に由来する文末形式として、以上の (8)~(10) に示される「kes-ita (것이다)」と「kes-kathta (것 같다)」とがあり、これらは形式名詞からなる数多くの文末形式の中でも圧倒的に使用頻度が高い⁵。まず「kes」とコピュラ「ita(이다)」

⁴ 堀江・金 (2011 : 194) から引用した。

⁵ 特に안효경 (2001 : 200) では形式名詞49個のうち、形式名詞「kes」が含まれている「kes-ita」の使用頻度が一番高いとされている。

⁶が組み合わされた「kes-ita」は、前接する連体形語尾⁷の時制によって機能の分化が見られ、過去・現在連体形が前接する (8) は「説明」、未来連体形が前接する (9) は「推量」を表す。これに対して、(10) の「kes-kathta」は前接する連体形語尾の時制によって機能の分化を見せず、一貫して証拠性 (evidentiality) の「様態」を表す形式として用いられている。このように、両方とも文末形式としてはすでに定着したため、本研究では両者に対してこれ以上詳細な分析は行わない。

近年インターネットやテレビなどメディアにおいて、規範的なものと認められてきた「kes-ita」「kes-kathta」のような形式以外に、多少規範的なものから逸脱したものと見なされる形式がよく観察される。

- (11)⁸ 예전부터 아이폰 3GS 를 사용하면서 느낀 점은 참 케이블의 흰색이 예쁘...다는 것이다.

Yeycen-pwuthe aiphon 3GS-lul sayongha-myense nukki-n cem-un

前-から アイフォン 3GS-を 使う-ながら 感じる-過去連体形 点-は

cham kheyipul-uy huynsayk-i yeypu...-tanun kes-ita.

とても ケーブルの 白色-が かわいい-TANUN KES-ITA

「前からアイフォン 3GS を使いながら感じた点はケーブルの白色がとてもかわいいということだ。」

- (12)⁹ 7 번방의 선물~조조할인으로 보고 오니 완전 공짜영화 본 것 같은!!! ^^

Chilpenpang-uy senmwul~cocohalin-ulo pokon oni wancen kongcca

7番部屋-の 贈り物 早朝割引-で 見て 来たら 完全 ただ

yenghwa po-n kes-kathun!!!^^

映画 見る-過去連体形 KES-KATHUN

「7番部屋の贈り物～早朝割引で見て来たら完全ただの映画を見たような。」

従来の「kes-ita」構文では過去・現在連体形語尾が前接すると「説明」、未来連体形語尾¹⁰が前接すると「推量」を表すという、「N kes-ita」と「I kes-ita」に焦点を当てた研

⁶ 日本語学では「判定詞」、韓国語学では「繫辞」や「指定詞」のような用語が用いられているが、本研究では便宜上「コピュラ」と統一する。

⁷ 韓国語学では「冠形詞形語尾」という用語が使われているが、本研究では便宜上「連体形語尾」という用語を用いる。韓国語の連体形語尾に関しては3.2.1節に詳細な説明がある。

⁸ <http://blog.naver.com/xyrho123/40207269044> (2014年3月22日検索)

⁹ <http://blog.naver.com/kds3226/10159664345> (2013年7月15日検索)

¹⁰ 連体形語尾は一般的に述語の語幹に結合する特徴があり、語幹が子音 (パッチム) で終わるか、母音で終わるかによって結合のし方が異なる。例えば動詞の場合、過去連体形語尾はパッチ

究が行われてきており(野間 1990, 신선경 1993, 김상기 1994, 홍사만 2006, 김종복・이승한・김경민 2008 など)、引用連体形式「tanun (다는)」が前接する (11) の「tanun kes-ita (다는 것이다)」に関しては殆ど研究されていない。さらに、(12) の「kes-kathun (것 같은)」は「kes-kathhta」の現在連体形であり、文中に現れるべき連体形が文末に出現しているといった、典型的な文末形式とは言い難い。

そこで本研究では、韓国語の文末名詞化構文「kes-ita」のうち、コピュラ付きの「説明」の「N kes-ita」と「推量」の「I kes-ita」、コピュラ無しの「命令・忠告」の「I kes (ㄷ/을 것)」¹¹、また「様態」を表す文末形式「kes-kathhta」はすでに定着したものであるため、詳細に述べない。本研究における主な研究対象の大枠としては (11) の「tanun kes-ita」、(12) の「kes-kathun」を出発点とし、さらにそれらの周地的な形式に関しても視野に入れている。まず、「tanun kes-ita」に関してはコピュラ付きの「kes-ita」構文の 1 つとして位置づけながら、その機能を明らかにする。さらに、コピュラ無しの「命令・忠告」を表す「I kes」を除き、今まで非文とされてきた (13) (14) のようなコピュラ無しの「tanun kes (다는 것)」 「N kes (ㄷ/은 것)」¹²をも併せて考察することによって、コピュラの有無による「kes-ita」構文の全体像を描くことを試みる。

(13)¹³ 오늘은 던킨에 갔다는 거~~

Onul-un tenkhin-ey ka-ss-tanun ke~~

今日-は tenkhin-に 行く-過去-TANUN KE

「今日はダンキン(ドーナッツ)に行ったということ。」

(14)¹⁴ 미친 ㅋㅋ 나 얼마나 잔 거.

Michi-n ㅋㅋ na elmana ca-n ke.

狂う-過去連体形 私 どれぐらい 寝る-N KE

「頭おかしくなった。私どれぐらい寝たの。」

ムの有無によって「un (은)」、「n (ㄴ)」が結合するのに対して、現在連体形語尾は語幹のパッチムの有無に関係なく、語幹に「nun (는)」が結合する特徴を持つ。本研究では便宜上過去・現在連体形語尾両方とも「N」と総称する。また、未来連体形語尾は語幹のパッチムの有無によって「ul (을)」と「l (ㄹ)」のような使い分けが見られるが、本研究では便宜上未来連体形語尾は「l」と総称する。

¹¹ 「命令・忠告」の「I kes」に関しては頁37の例文 (57) を参照されたい。

¹² 文末に生起するコピュラ無しの「tanun kes」「N kes」構文は「kes」の「s」が省略された形態で現れる場合が殆どである。

¹³ <http://blog.naver.com/hwangwj3/60044659257> (2013年2月12日検索)

¹⁴ <http://dusgus20200.blog.me/150185194983> (2014年2月22日検索)

次に、「kes-ita」の「kes」は形式名詞でありながら、「um」「ki」と同様に名詞化辞の機能を有することから、「kes」のような名詞化辞から文末名詞化構文への機能拡張を、近年インターネットで生産的に観察される (15)「um-ita(음이다)」、(16)「ki-ita(기이다)」においては、どのような機能を体現しているのかについて分析する。

(15)¹⁵ 이번에도 연휴에 우에노 시장을 갔음이다.

Ipen-eyto yenh-yey wueyno sicang-ul ka-ss-um-ita.

今回にも 連休に 上野 市場-を 行く-過去-UM-ITA

「今回も連休に上野市場に行った。」

(16)¹⁶ 고속도로 주행에서 가장 편한 운전은 앞차따라가기이다.

Kosoktolo cwuhayng-eyse kacang phyenanha-n wuncen-un aphcha

高速道路走行で 一番 楽だ-現在連体形 運転は 前車

ttalaka-ki-ita.

ついて行く-KI-ITA

「高速道路走行で一番楽な運転は前の車について行くことだ。」

最後に、(12)の「kes-kathun」のように単独で文を完結する「連体終止形」¹⁷という現象について、(17)のように「一般述語」においても頻繁に見られることから、その機能や特徴および動機づけについて考えてみたい。

(17)¹⁸ 친구들에겐 보여 주기 싫은!

Chinkwu-tul-eykeyn poye cwu-ki silh-un!

友達-複数-には 見せてあげる-名詞化辞 嫌だ-現在連体形

「友達には見せてあげるのは嫌な。」

以上のように、本研究では「kes-ita」「kes-kathta」のような「kes」に由来する文末形式を踏まえながら、「tanun kes-ita」、「kes-kathun」を主な研究対象として取り上げ、さらにそれらと関わる今まで不完全なものに見なされてきた新奇表現に関しても注目している。

¹⁵ <http://haru3050.blog.me/60095580550> (2014年3月22日検索)

¹⁶ <http://blog.naver.com/mentitas/10110462738> (2014年3月22日検索)

¹⁷ 「連体終止形」の定義に関しては6.2節を参照されたい。

¹⁸ 用例出典に関しては6.4.2節で後述する。

1.3 研究背景と研究目的

1.2 節で見たように本研究の研究対象は、「kes」からなる諸形式と、それらと形態・統語・機能的に密接な関わりを持つ形式であり、韓国語学では殆ど研究成果が見られない未開拓の分野でもある。というのも、これらは従来の規範的な形式から逸脱するものと思われる現象として、ジャンルの限定もあり、言葉の乱れや誤用と認識されがちであるのも明らかな事実である。しかし、近年インターネットやテレビで頻繁に現れる新奇表現は、書き言葉と話し言葉の中間に位置するジャンルでありながら、インターネットやテレビのようなメディアで使用される社会方言の一種とも言え、ゆれはあるものの、韓国語の文法体系の変質と見られ、文末形式の1つとして位置づけられることが期待される。

韓国ではネット上で多くの新しい言葉が作り上げられる傾向があり、日本語の「する」に相当する韓国語の「hata (하다)」を例として取り上げると、「hasam (하삼)」「haseym (하셈)」や「haseyyong (하세용)」「hapnitang (합니당)」などの文末形式が一時期流行り、新奇表現として位置づけようとする試みがあったが、完全に文末形式として認められたという報告は未だにないようである。ただ、一時期流行って頻繁に用いられていた当時に比べると、その使用は減少気味であることは確かであるが、その新奇表現が衰退したとは言い難く、インターネットやチャットなどでは依然として使われている。ここで着目すべきは、言語はいつも変わるものであり、その言語変化は随分時間が経過してから定着の度合いが明らかになるものであるため、新奇表現と見られるものが完全に定着するか否かは長い間その推移を観察する必要があるという点である。そのため、本研究で新奇表現として見なしているものが韓国語の文末形式として定着する可能性もある反面、完全に衰退する可能性もあるということである。

「言語変化（文法・語彙・音韻）において、変化が生じる際に、初期段階では局所的に特定の言語形式同士が高頻度で共起する現象が見られ、言語変化の先導的役割を果たすことがある (Bybee and Hopper 2001)」あるいは「特定の言語形式同士の共起現象が固定化・習慣化し、formulaic expression (定型表現) として定着することがある (Hopper 1998, Wray 2002)」¹⁹とされている。インターネットのブログやテレビ番組の文字テロップのような、メディア言語は、ジャンルの限定があり、既存の典型的な文法体系からは多少離れていた形式であるものの、単なるエラーと取り扱うより、一定の頻度で現れ、

¹⁹ 堀江 (2014b) から引用した。

ある種の機能を体現しているのであれば 1 つの新奇表現として位置づけられるべきであろう。

そこで本研究では、近年インターネットやテレビなどメディアにおいて、規範的形式から逸脱したものと見なされる、引用連体形式「tanun」が前接する「tanun kes-ita」のような「文末名詞化構文」と、「kes-kaththa」の現在連体形である「kes-kathun」のような「連体終止形」を主な研究対象として取り上げる。さらに、「um-ita」「ki-ita」のような「文末名詞化構文」や「一般述語」の「連体終止形」といった、形態・統語・機能的に深く関連する周辺的な諸形式にも注目し、その背後にあるメカニズムに関連させつつ、それらの機能および特徴について明らかにすることを目的とする。

1.4 研究方法

本研究では、形式名詞「kes」に由来する既存の文末形式だけでなく、今まで非規範的なものと見なされてきた「kes」に由来する諸形式、さらにそれらと形態・統語・機能的に関わりを持つ周辺的な諸形式などを主な研究対象としている。そして、これまでの先行研究の研究成果を参照し、これらの新奇表現を以下の 3 つの方法論を援用し、考察を行う。

そこで、まず、(I) 本研究では、基準言語である韓国語の諸形式を分析する手法として認知・機能言語学的観点を取り、新奇表現としてそれぞれ担っている機能を解明することによって、1 つの「構文 (Goldberg 1995)」として位置づけることを試みる。また、韓国語の研究対象の一部の形式と、それに対応する日本語との対比を通して、両言語の類似点や相違点を明らかにする。ただし、両言語は多くの類型論的特徴を共有しており、両言語のみに限ると相違点に比べ類似点が浮かび上がってくる可能性が高いため、言語類型論的観点を導入することにより、世界の諸言語の中での両言語の顕著な特徴が明確になると思われる。つまり、韓国語学では殆ど研究成果が見られない本研究の研究対象に対して、「認知・機能言語学」と「言語類型論」を融合させた「認知類型論 (堀江・パルデシ 2009)」の知見を取り入れることによって、認知的・談話的・处理的基盤を解明することが期待される（「認知類型論」に関しては第 2 章で後述）。これは形式名詞「kes」からなる新奇表現や形態・統語・機能的に深い関連性を持つその周辺的なものまで視野に入れることによって、「kes」を含んでいる諸形式を一律に説明することができると同時に、「kes」に由来する諸形式の全体像を描くことができるだろう。

次に、(Ⅱ) 韓国語と日本語は世界の言語の中で類型論的に最も類似した言語と言われているが、連体形の形態に限っては非常に異なる²⁰。時制によって使い分けられる韓国語の連体形語尾は形式名詞を伴う文末形式の場合、文末形式による共起制約があり、同じ文末形式であっても時制によって機能の分化が見られることもある。特に韓国語の「kes-ita」は連体形語尾の時制によって機能の分化が見られる代表的な文末名詞化構文であり、「連体終止形」の「kes-kathun」においても、前接する連体形語尾の時制によって異なる機能を果たしている。そのため、前接する連体形語尾と組み合わせて本研究の研究対象の「kes」からなる諸形式を分析することは、これらの機能を分析する有効な指標となる。

本研究では、「kes」からなる諸形式およびそれらの周辺の諸形式における機能を考察するため、その諸形式に前接する連体形語尾の時制を重要な道具立てとして捉えている。つまり、連体形語尾が組み合わされたそれぞれの諸形式をひとまとまりの形式として捉えるからこそ、その諸形式が担っている機能を見出すことができる。

最後に、(Ⅲ) 本研究では「kes」からなる諸形式およびそれらの周辺の諸形式が実際にどのように用いられているのかを調べるために、インターネットのブログやラジオ番組、テレビ番組の実例に焦点を当てる。近年多くの言語で、電子媒体（電子メール、ブログやチャット）を介在した、「話し言葉」と「書き言葉」の両方の性質を持った、従来のコミュニケーションにおいてあまり見られなかった文法形式や語彙項目の新奇な用法が観察されるようになってきている (Crystal 2006)。

本研究で注目しているインターネットやラジオ、テレビなどのようなメディアは言語使用の変化に影響を与えており (岡本他 2008)、そこで使用され始めている新奇表現は「言葉の乱れ」や「誤用」と思われがちで、そのような言語使用に対する批判的な見方もあるが、その背後には普遍的な言語の変化の特徴も伺われる (窪菌 2006)。そのため、本研究ではインターネット、ラジオ、テレビなどのようなメディアで使用されている言語形式に注目し、その機能や特徴を明らかにする。

²⁰ 日韓両言語における連体形の形態的相違に関しては3.2.1節で詳述する。

1.5 論文の構成

本論文は以下のように構成される。

第1章 序論

第2章 本研究の理論的背景

第3章 先行研究

第4章 韓国語の文末名詞化構文「kes(-ita)」の文法的位置づけと語用論的機能

：日本語の文末名詞化構文との対比を通じて

第5章 韓国語の名詞化辞から文末名詞化構文への機能拡張

：日本語との対比を通じて

第6章 韓国語における連体終止形の機能

：日本語の連体終止形との対比を通じて

第7章 結論

本章に続く第2章では、本研究の議論を進めるために必要な、「認知類型論」「文法化」「ポライトネス理論」など、理論的・方法論的な知見を簡単に概観する。

第3章では、本研究の議論に先立ち、基準言語となる韓国語および日韓対照の観点からみた「文末名詞化構文」と「連体終止形」に関する先行研究を概観した上で、その研究の問題点を指摘する。

第4章から第6章までは、3つのケーススタディを提示する。第4章では韓国語の文末名詞化構文「kes(-ita)」の文法的位置づけと、語用論的機能に関して考察を行う。具体的には「N」と「I」といった連体形語尾以外に、「tanun」も連体形語尾の1つと見なすことによって、既存のコピュラ付きの「N kes-ita」「I kes-ita」、コピュラ無しの「I kes」はもちろんのこと、コピュラ付きの「tanun kes-ita」、コピュラ無しの「tanun ke」「N ke」も「kes(-ita)」構文に位置づけることができる。つまり、第4章ではすでに定着した文末名詞化構文「kes(-ita)」を踏まえた上で、不完全なものに見なされてきた「kes(-ita)」の諸形式に焦点を絞って考察を行い、連体形やコピュラの有無による機能の分化を明らかにする。さらに、韓国語の「tanun ke(s-ita)」に対応する日本語の「ということ(だ)」と対比を行うことにより、韓国語と日本語の類似点や相違点を明らかにする。

第5章では、第4章で明らかにした日韓両言語の文末名詞化構文の研究成果を踏まえ

て、韓国語の名詞化辞「kes」「um」「ki」から文末名詞化構文「kes-ita」「um-ita」「ki-ita」への形態・機能上の拡張を主張し、考察を行う。まず、「kes-ita」は、既に定着した形式であるため、前接する連体形語尾の時制に着目しそれらの文法化の度合いについて検証する。また、「um-ita」に関しては、尊敬のマーカー「si」が共起する「sim-ita (심이다)」の分析を通して、無標形式の「終止形」が「um-ita」のような文末名詞化構文に置き換えられて現れる動機づけはもとより、「si」の機能拡張についても解明する。さらに、韓国語の「sim-ita」ともとても類似した形式と見られる日本語の尊敬述語形式「お〜だ」文との対比を通じて、両者の類似点や相違点を精緻に解明する。最後に、「ki-ita」に関しては、「ki」と「ita」が分割可能な場合と一語化した場合とがあり、前者の「ki」は名詞化辞の振る舞いをしているのに対して、後者の「ki」はコピュラ「ita」と結びついた1つの文末名詞化構文として出現していることに注目したい。そして、両者を見分ける明確な基準を提示することによって、いずれのカテゴリーにも属さない、両者の間に位置づけられるコピュラ無しの「ki」についても述べる。つまり、第5章では韓国語の「kes-ita」「um-ita」「ki-ita」に焦点をあて、名詞化辞から文末名詞化構文への機能拡張を検証し、韓国語の文末名詞化構文への志向性について論じる。

第6章では、第4章、第5章とは異なって、韓国語の「従属節の主節化」現象の1つである「連体終止形」について述べる。そして、従来の先行研究を踏まえつつ、「kes」からなる「連体終止形」の「kes-kathun」と共に、「一般述語」の「連体終止形」に視野を広げて分析することによって、連体終止形における機能や特徴、その動機づけなどを統一的に説明する。また、韓国語の「kes-kathun」と日本語の「みたいな」との対比を通じて、両言語の類似点や相違点を明らかにする。

最後に第7章では、本研究の議論を総合的にまとめた上、言語学への示唆および今後の課題と展望について述べる。

第2章 本研究の理論的背景

2.1 はじめに

従来日本語は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語など、類型論的に相違点の多い言語との対照研究が頻繁に行われてきているなど（堀江 2001）、類型論的に相違点の多い言語との対照は有意義である。しかし、多くの類型論的特徴を共有している日韓両言語の対照言語学的研究は相互の類似点及び相違点を探ることによって個々の言語の特徴を明らかにする手がかりとなり得る。

本研究では韓国語を基準言語とし、具体的には「kes(-ita)」「um-ita」「ki-ita」のような「文末名詞化構文」、「kes-kathun」「一般述語」の「連体終止形」などに着目して、それらの一部の形式と日本語を対照することによって、両言語の類似点や相違点を明らかにする。そこで本章では、分析に先立って、まず、本研究の研究対象となる韓国語の諸形式を分析するためのアプローチとして「認知・機能言語学」と「言語類型論」、いわゆる「認知類型論（堀江・パルデシ 2009）」を取り入れ論を進める。今までは逸脱したものと認められた本研究の研究対象を新奇表現として確立するため、認知類型論的アプローチは有益な手がかりとなる。また、それらの機能の特徴づける道具立てとして「文法化」や「ポライトネス理論」を援用し、本研究において密接な関連性を持っていることを追求する。

2.2 認知類型論

言語研究において生成文法に代表される「形式主義言語学」は、従来「機能主義言語学」と対比されるものであったが、近年は「機能・類型論的言語学」のみならず、「認知言語学」も広義の「機能主義言語学」に含まれて「認知・機能言語学」という用語が用いられている（辻編 2013 : 271）。認知言語学と機能言語学との接点として「言語とは自律的な「心的器官」ではなく、認知的・社会的な性質をもったコミュニケーション活動からなる複合体であり、言語以外の人間の心理と緊密に統合されたものだ（Tomasello 1998 : ix (邦訳 p.4)）」という点が挙げられる。また、「認知・機能言語学」²¹では、「文法を、日常的な相互行為および人間の認知能力と深く関わりを持ち、社会生

²¹ 「認知・機能言語学」に関しては堀江（2004）が詳しい。

活の根底にある幅広い範囲の資源の一部が習慣化されたもの（堀江 2004：252）」として捉えている。

本研究では、研究対象を分析する手法として「認知・機能言語学」の立場をとり、新奇表現としてそれぞれ担っている機能を解明する。また、「2つ、あるいは、2つ以上の言語について、音、語彙、文法などの言語体系、さらにはそれらを用いる言語行動のさまざまな部分をつきあわせ、どの部分とどの部分が相対応するか、あるいは、しないかを明らかにしようとする言語研究の一分野である（石綿・高田 1990：9）」という「対照言語学」的観点から韓国語と日本語との対照を行う。従来の対照言語学は単に言語間の個別的な異同にのみ焦点を当ててきたが、近年は言語の普遍性と多様性についても目を向けている（生越 2002）とされている。このような対照言語学の研究動向は諸言語の種類の普遍性を求めようとする「言語類型論」と重なる部分がある。本研究では、日韓両言語のみに注目するのではなく、言語類型論の知見を取り入れることにより、両言語の特徴がより顕著に観察されることを期待する。

このように、「認知・機能言語学」と「言語類型論」を融合させた「認知類型論」は「言語間で繰り返し現れる言語表現、特に文法的表現のパターン」すなわち「言語がどのように意味の違いを表すために形式上の区別を体系的に行っているか」を観察し、「人間言語において、特定の種類の事象や状況を表すために特定の表現形式が用いられているパターンを見つけ出すこと」である（辻編 2013：285）」²²とされている。また、「認知類型論」の特徴としては以下が挙げられる。

「認知類型論」は、(i) 構文の使用頻度と機能拡張の程度、(ii) 言語構造に見られる形式と意味の対応関係の直接性（意味的透明性）の度合い、(iii) 当該言語の言語形式に直接反映した（認知）意味的区別や談話の中で言語形式に付与される談話機能などに関する通言語的変異と共通性を研究対象とする。そして、主観性・間主観性を含む広義の社会・文化的認知、伝達習慣（コミュニケーション・プラクティス）、言語処理など (i)～(iii) の要因となる各言語の文法・語彙構造の認知・談話・处理的基盤の解明を

²² 原文内容 “The approach of cognitive typology is to observe cross-linguistically recurrent patterns of linguistic expression, particularly grammatical expression. That is, we look at how languages systematically make distinctions in form to express differences in meaning, or, equally systematically, fail to make such distinctions. Thus we can find patterns in the ways that particular forms of expression are used in human languages to convey particular kinds of events or situations. ” (Kemmer 2003：90)

目指す（堀江・パルデシ 2009：viii）。

本研究の主な研究対象は、従来の韓国語学では不完全なものとされてきた文末形式であるため、人によっては誤用として捉えられる可能性もある。そのため、これらが単なる誤用でなく、新奇表現として確立するための道具立てとして「構文」という概念について考えてみたい。

「構文 (construction)」とは、「特定の形式に特定の意味が結びついて一つのまとまりをなす、「意味と形式の対応物 (form-meaning correspondence)」である (Goldberg 1995：1(邦訳 p.1, 313))」ため、「いかなる言語パターンも、その形式的・機能的側面が、その構成要素あるいは他の構文から厳密に予測できない場合、それを構文として認める。加えて、そうした側面が、たとえ構成要素や他の構文から完全に予測できたとしても、そのパターンが高頻度で生起する場合には「構文」として認められる (Goldberg 2006)」²³とされている。つまり、近年観察されるようになってきている第4章の「tanun kes-ita」、第5章の「um-ita」「ki-ita」、第6章の「連体終止形」という研究対象が1つの構文と見なされ、それらが体现している機能が安定したものであれば「構文文法 (construction grammar)」²⁴の枠組みから説明が可能であろう。

本研究の研究対象は近年インターネットのブログやテレビ番組の文字テロップ、ラジオ番組などに頻繁に観察される形式である。生起頻度が高いということは、認知的に高度に慣習化され、話し手がよく用いる形式であり、当該の形式が安定化して定着する可能性を示すものとされる (Kemmer and Barlow 2000, Tomasello 2003, 堀江 2004)。そのため、本研究においても生起頻度を提示するということは新奇表現の研究対象に対する定着度の度合いの指標として有効であり、それが高頻度であれば、1つの構文として認められる信憑性が高くなるということと言うまでもない。しかし、本研究の研究対象であるメディア言語の場合、ある種の範囲を限定してデータを収集する量的調査は実際には困難であるため、本研究では質的調査を基本とするが、テレビの文字テロップから用例を抽出する「一般述語」の「連体終止形」に限っては量的調査を行い、生起頻度を示すこととする。

²³ 辻編 (2013：109) より引用した。

²⁴ 構文文法とは、表現が構文の具体的事例であるとみなすことにより、言語事象全般の研究を推し進めるアプローチであり、意味と形式の対応物では「構文」の認識のもと、語用論的な情報や文脈を考慮に入れて構文の成立条件を定式化し、周辺の現象も射程に含めて言語構造全体をあきらかにしようというものである (Goldberg 1995 (邦訳 p.313-314))。

そこで本研究では、「認知類型論」の側面から韓国語の新奇表現がどのような機能を獲得しているのかについて考察する。さらに、韓国語の一部の形式に対応する日本語との対比を通じて、両言語の類似点や相違点を明らかにする。これは本研究の主な研究対象である「文末名詞化構文」と「連体終止形」という、構文における新たな知見を得ることにつながると期待される。

本研究では新奇表現を 1 つの構文として位置づけられる有効な概念として「文法化」と「ポライトネス理論」を取り上げ、簡単に紹介する。まず、次節では「文法化」について述べる。

2.3 文法化

一般的に、文法化 (grammaticalization) とは、語彙的意味を持つ内容語 (content word) が歴史的変化の中で文法的機能を有する機能語 (functional word) へ変化する通時的プロセスを示す (Bybee *et al.* 1994, Hopper and Traugott 2003)。そして文法化という言語現象に関しては、歴史的な言語変化のプロセスを辿る通時的観点が有効であることは間違いないが、認知・機能言語学の観点からの研究では共時的プロセスとして文法化を捉える立場が見られる。

文法化とは、談話に繰り返し現れる言語形式、構文が次第に固定化し、一定の文法的意味を表すようになる動的な現象として捉えられる。この観点の特長は、文法化を、既に終結した通時的現象として捉えるのではなく、談話（実際の言語使用）の中から、いずれ文法体系の中に組み込まれていく可能性のある規則性が姿を現そうとしているまさにその始発的段階を、談話文脈の分析、使用頻度の計量的分析を通じて捉えようとする点にある (堀江 2004 : 257)。

このように、現在共存している多様な言語形式の分析は、相互の意味・用法の有機的な連続性及び全体像を検証していく有効な手がかりとなることが期待され、本研究では共時的観点に立ち考察を行う。つまり、本研究の研究対象である「kes」に由来する諸形式が 1 つの構文として位置づけられるには、すでに定着した「kes」に由来する「kes-ita」「kes-kaththa」のような文末形式の存在が必須不可欠であり、既存の形式を視野に入れて

いるからこそ、それらの形態・統語・機能上の全体像が見えてくる。

以下、Traugott (1995, 2003)によって提唱された「主観化 (subjectification)」「間主観化 (intersubjectification)」を取り上げ、文法化の概念について述べる。

まず、主観化とは、「命題に対する話し手の主観的な信念や態度に基づいた意味を、より顕著に表すようになる語用論的・意味的過程」であるとしている。

‘Subjectification’ refers to a pragmatic-semantic process whereby ‘meanings become increasingly based in the speaker’s subjective belief state/attitude toward the proposition’, in other words, towards what the speaker is talking about.
(Traugott 1995 : 31)

さらに、「主観化は意味が話し手/書き手中心により顕著になっていくメカニズムであるのに対して、間主観化は意味がより顕著に聞き手中心になっていくメカニズムである」とされている。

Subjectification is a mechanism whereby meanings become more deeply centred on the SP/W, intersubjectification is a mechanism whereby meanings become more centred on the addressee. (Traugott 2003 : 129)

このように、文法化における「主観化」「間主観化」といった概念は、以下に示されるような順序が見られるとしている。

(18) nonsubjective > subjective > intersubjective (Traugott 2003 : 134)

つまり、非主観的なものが話し手の信念や態度を表す主観的な意味へ変化し、さらに聞き手の信念や社会的地位などを表す意味へ変化していき、その逆の順序は存在しないという「一方向性の仮説 (unidirectional hyphothesis)」が支持されており、この方向性は文法化の程度の度合いと密接な関連性を持つ。

さらに、文法化の度合いを示す指標として、「形態の拘束性 (boundedness)」²⁵は特に

²⁵ 大堀 (2002 : 183) によれば、「形態の拘束性 (boundedness)」とは、自立した語から、他の

「(形式) 名詞 (化辞) + コピュラ」からなる文末名詞化構文において有用な手法となる。例えば日本語の「ものだ」が一語化している場合は、「もの」と「だ」とに分割できる場合よりも文法化の程度がより進んでいるものと見なすことができるだろう。このように、形態的な側面に関しても着目し、本研究の研究対象を考察する上で、この概念が有用な分析手法であることを検証する (5.3 節、5.5 節で後述)。

2.4 ポライトネス理論

本節では、前節で述べた「文法化」とともに、本研究の新奇表現を 1 つの構文として位置づけられる有効な概念として「ポライトネス理論」について述べる。

まず、韓国語と日本語は敬語が発達しているという特徴を持っており、両言語では「ポライトネス」＝「敬語」と受け取られる傾向があったのも事実である。しかし、Brown and Levinson (1987) が理論化した「ポライトネス」は「“敬避” 的な方向性だけでなく、それとは反対の“共感” 的な方向性も持った二面的な概念である (滝浦 2008 : 50)」とされている。

Brown and Levinson (1987) によれば、「ポジティブ・フェイス (positive face)」と「ネガティブ・フェイス (negative face)」とがあり、前者は「すべての構成員が持っている、自分の欲求が少なくとも何人かの他者にとって好ましいものであってほしいという欲求」、後者は「すべての能力ある成人構成員が持っている、自分の行動を他者から邪魔されたくないという欲求」と定義している (Brown and Levinson 1987, 田中他 2011 : 80)。そして、それぞれのフェイスに関わるストラテジーを行う行為が「ポジティブ・ポライトネス (positive politeness)」と「ネガティブ・ポライトネス (negative politeness)」であると言い換えられる。

そこで本研究では具体的に、「ポジティブ・ポライトネス」では、ストラテジー1「相手に気づき・注意を向ける」、ストラテジー7「共通基盤を想定・喚起・主張する」、ストラテジー8「冗談を言う」、また、「ネガティブ・ポライトネス」では、ストラテジー1「習慣的な間接性に訴える」、ストラテジー2「質問・曖昧化する」、ストラテジー5「敬

語と必ず結びついて現れる形態へと変わることである。具体的には、屈折 (動詞の活用など)、接頭語・接尾語、その他の非自立語 (指示語、前置詞、助動詞など) への変化を含む。文法化の進行の反映として、拘束性が増すときには音韻の縮約がともなうことがある。例えば、「(て) しまう」>「ちゃう」や「(て) おく」>「とく」のような縮約はよく見られる。また、英語の *be going to* > *be gonna* という縮約について見ると、*go (ing)* の自立性が下がると同時に、縮約された形では空間的な移動を表すことができない (**I'am gonna the station*)。

意を示す」、ストラテジー9「名詞化する」(滝浦 2008, 田中他 2011)」に着目する。これらは本研究と深く関連する「ポライトネス」の下位分類であるため、以下のようにそれぞれ具体例を示す。

「ポジティブ・ポライトネス」

- (19) ストラテジー1「相手に気づき・注意を向ける」

What a beautiful vase this is! Where did it come from?

きれいな花瓶ですね! どこで手に入れたのですか。(田中他 2011 : 137)

- (20) ストラテジー7「共通基盤を想定・喚起・主張する」

I really had a hard time learning to drive, you know.

私、車の運転を覚えるのにほんと苦労したじゃないですか。(田中他 2011 : 163)

- (21) ストラテジー8「冗談を言う」

OK, if I tackle cookies now?

次はクッキーをやっつけてもいいかな。(田中他 2011 : 171)

「ネガティブ・ポライトネス」

- (22) ストラテジー1「習慣的な間接性に訴える」

You couldn't perhaps pass the salt (please), (could you?)

(すみませんが) できたら塩を取っていただけないでしょうか。

(田中他 2011 : 187)

- (23) ストラテジー2「質問・曖昧化する」

Would you close the window, if you want to help me?

もしお手伝いいただければ、窓を閉めていただけますか。(田中他 2011 : 226)

- (24) ストラテジー5「敬意を示す」

The library wishes to extend its thanks for your careful selection of volumes from your uncle Dr Snuggs's bequest.

当図書館は、伯父上、スナッグズ博士の寄贈図書の選定における貴殿のご助力に深謝申し上げます。(田中他 2011 : 254)

- (25) ストラテジー9「名詞化する」

It is my pleasure to be able to inform you...

...とお伝えできることは光栄なことです。(田中他 2011 : 296)

「ポジティブ・ポライトネス」のうち、ストラテジー1 とストラテジー7 に関しては、第4章と第6章、ストラテジー8 に関しては第4章と第5章が深く関わっている。また、「ネガティブ・ポライトネス」のうち、ストラテジー1 は第4章と第6章、ストラテジ

ー2 は第 6 章、ストラテジー5 とストラテジー9 は第 5 章と結び付け、分析をする。

つまり、本研究で注目している韓国語の諸形式を分析するにあたって、それらが担っている機能を明らかにする手法として、ポライトネス理論が用いられている。

第3章 先行研究

3.1 はじめに

本章では本研究の主な研究対象である文末名詞化構文（第4章、第5章）と従属節の主節化（第6章）に関する先行研究を概観する。そして、その研究成果を踏まえながらその問題点を指摘し、本研究の立場を明確にする。以下、文末名詞化構文に関する先行研究、従属節の主節化に関する先行研究の順に見ていく。

3.2 文末名詞化構文に関する先行研究

文末名詞化構文は世界の言語において特殊な構文であり、特にアジアの言語に限って発達している（角田 2011）とされるが、韓国語と日本語においても文末名詞化構文が非常に発達している。以下では韓国語の文末名詞化構文に関する研究、日韓対照の観点からみた文末名詞化構文に関する研究の順に紹介する。

3.2.1 韓国語の文末名詞化構文に関する研究

現代韓国語における文末名詞化構文は多くの研究があるが（안주호 1997, 정희정 2000, 남길임 2004, 한명주 2005, 최정도 2007）、名詞の種類（実質名詞か形式名詞か）や後接する述語によって多様な形式が存在しているため、どのような基準で枠組みを立てるかによってその種類が異なってくる。そこで本研究では、形式名詞を中心に、さらに述語においてはコピュラ「ita」が結合した文末名詞化構文の先行研究に焦点を当て紹介する。

それに先立って、日韓両言語の文末名詞化構文は、連体形が前接する構造を持つが、韓国語は日本語に比べ、前接する連体形語尾が細分化されていることを見る。以下では日韓両言語の連体形について表1に示す。

表 1 日韓両言語の連体形の形態²⁶

言語	日本語		韓国語		
時制 述語の分類	過去	非過去	現実		非現実
			過去	現在	未来
動詞	タ形	ル形	ㄴ/은 (n/un) (았/었) 던 ((ass/ess)ten)	는 (nun)	ㄹ/ (았/었) 을 (l/(ass/ess)ul)
形容詞			(았/었) 던 ((ass/ess)ten)	ㄴ/은 (n/un)	ㄹ/을 (l/ul)
指定詞			(었) 던 ((ess)ten)	ㄴ (n)	ㄹ (l)
存在詞			(었) 던 ((ess)ten)	는 (nun)	을 (ul)

以上の表 1 から分かるように、日本語の連体形は「タ形」と「ル形」という、「過去」「非過去」の 2 つの体系を持っているのに対し、韓国語の連体形語尾は大きく「現実 (realis)」「非現実 (irrealis)」と 2 分類され (堀江 2002)、過去・現在連体形は「現実」、未来連体形は「非現実」と大別される。また、韓国語の連体形は日本語の形容動詞やコピュラを除く動詞やイ形容詞のような述語と異なり、述語の種類や時制によって、バリエーションがあるなど、連体形と終止形が同形ではなく、複雑な体系をなしている。

(26) { 읽은 / 읽는 / 읽을 } 신문

{ ilk-un / ilk-nun / ilk-ul } sinmwun

読む-過去連体形 / 読む-現在連体形 / 読む-未来連体形 新聞

「読んだ / 読んでいる / 読む (予定の) 新聞」

(27) 신문을 { 읽었다 / 읽는다 / 읽겠다 }.

Sinmwun-ul { ilk-ess-ta / ilk-nun-ta / ilk-kyess-ta }.

新聞-を 読む-過去-終結語尾 / 読む-現在-終結語尾 / 読む-未来-終結語尾

「新聞を読んだ / 読んでいる / 読むだろう。」

²⁶ 韓国語の連体形語尾に関しては梅田 (1991 : 88-91)、이익섭 (2006)、中島 (2012) が詳しい。

(26) では、韓国語の名詞の「sinmwun (신문, 新聞)」に前接する「ilk-un (읽은)」「ilk-nun (읽는)」「ilk-ul (읽을)」といった、「ilk-ta (읽다, 読む)」の過去・現在・未来連体形を示している。一方、(27) では、文末に現れる「ilk-ess-ta (읽었다)」「ilk-nun-ta (읽는다)」「ilk-kyess-ta (읽겠다)」といった、「ilk-ta」の過去・現在・未来終止形を示しており、韓国語は日本語とは違って、連体形と終止形は同形ではないことが分かる。以下、韓国語の複雑な連体形語尾の使い分けを念頭に置きながら、韓国語の文末名詞化構文についてみていく。

まず、韓国語の文末名詞化構文は、「kes-ita (것이다)」「nolus-ita (노릇이다)」「ttalum-ita (따름이다)」「moyang-ita (모양이다)」「pa-ita (바이다)」「pep-ita (법이이다)」「ppwun-ita (뿐이다)」「seym-ita (셈이다)」「cikyeng-ita (지경이다)」「cham-ita (참이다)」「the-ita (터이다)」「phyen-ita (편이다)」「phan-ita (판이다)」(안주호 1997, 남길임 2004, 한명주 2005, 최정도 2007) など、日本語に比べて多数存在する。以下は文末名詞化構文に前接する連体形語尾との共起制約を説明するため、代表的なものを示す。

(28) 過去・現在連体形語尾 + 「kes-ita」: 「説明」

未来連体形語尾 + 「kes-ita」: 「推量」

=====

過去・現在・未来連体形語尾 + 「moyang-ita」: 証拠性の「様態」

現在連体形語尾 + 「pep-ita」: 「傾向・当為」

未来連体形語尾 + 「the-ita」: 「推量・予定」

まず、「kes-ita」は「現実」「非現実」を表す連体形語尾との共起によって、それぞれ「説明」の「N kes-ita」、「推量」の「I kes-ita」というように機能が分化している。一方、「moyang-ita」は複数の連体形語尾と共起するが、連体形語尾による機能の分化を見せず、一貫して証拠性(evidentiality)の「様態」を表す形式として用いられる。また「pep-ita」は「現実」を表す現在連体形語尾とのみ共起して「傾向・当為」を表し、「the-ita」は「非現実」を表す未来連体形語尾とのみ共起して「推量・予定」を表している。

このように、韓国語の文末名詞化構文は前接する連体形語尾の時制に制約が見られるなか、特にここで注目すべき点は「現実」「非現実」を表す連体形語尾が両方共起する

「kes-ita」や「moyang-ita」のような形式が存在し、さらに構文によっては機能の分化も見られるということである。まず、韓国語の文末名詞化構文において、「現実」「非現実」を表す連体形語尾が両方共起する形式は表 2 のようにまとめられる。

表 2 「現実」「非現実」の連体形が前接可能な形式

先行研究	韓国語の文末名詞化構文
안주호 (1997)	「kes-ita」 「moyang-ita」 「seym-ita」 「the-ita」 「phan-ita」
남길임 (2004)	「kes-ita」 「moyang-ita」 「seym-ita」 「the-ita」
한명주 (2005)	「kes-ita」 「moyang-ita」 「seym-ita」
최정도 (2007)	「kes-ita」 「moyang-ita」 「seym-ita」 「nolus-ita」 「cham-ita」

このように表 2 に示される先行研究からすると、「現実」「非現実」の連体形語尾が両方前接可能な文末名詞化構文は、研究者によってばらつきがあるが、そのうち連体形語尾によって機能の分化が見られる形式としては「kes-ita」と「seym-ita」が取り上げられる。まず、「seym-ita」の例を見られたい。

(29) 시어머니께서 나를 살려 주신 셈이다.

Siemeni-kkeyse na-lul sallye cwusi-n seym-ita.

姑-(尊敬語) 私-を 助けてくださる-過去連体形 SEYM-ITA

「姑が私を助けてくださったわけだ。」

(30) 난 여기서 잠시 쉴 셈이야.

Nan yeki-se camsi swi-l seym-iya.

私は ここで しばらく 休む-未来連体形 SEYM-ITA

「私はここでしばらく休むつもりだ。」

(남길임 2004; 原文はハングル, 訳とグロスは筆者)

「seym-ita」は (29) のように「現実」の過去連体形語尾が前接すると「状況・結果」を表すのに対して、(30) のように「非現実」の未来連体形語尾が前接すると「意図・意向」を表すなど、連体形語尾の時制によって機能が使い分けられている。

また、連体形語尾によって機能の分化が見られる「kes-ita」は、「seym-ita」と同様に、過去・現在・未来連体形語尾が前接可能であり、本研究の主な研究対象でもあるため、

表 1 を参考にし、連体形語尾との共起関係を示す。以下の (31) は「現実」を表す過去連体形語尾の「ㄴ・ㅆ던・던」、(32) は「現実」を表す現在連体形語尾の「ㄴ」、(33) は「非現実」を表す未来連体形語尾の「ㄹ」が共起する場合である。

(31) 비가 { 온 / 왔던 / 오던 } 것이다.

Pi-ka { o-n / wa-ssten / o-ten } kes-ita.

雨-が 降る-過去連体形(完了) / 降る-過去連体形(過去の経験) / 降る-過去連体形(未完了) KES-ITA

「雨が降ったのだ。」

(32) 비가 오는 것이다.

Pi-ka o-nun kes-ita.

雨-が 降る-現在連体形 KES-ITA

「雨が降る (降っている) のだ。」

(33) 비가 올 것이다.

Pi-ka o-l kes-ita.

雨-が 降る-未来連体形 KES-ITA

「雨が降るだろう。」

このように、「現実」「非現実」と大別される「kes-ita」は、(31)(32) では「説明」、(33) では「推量」を表すという、機能の分化が見られるが、両者における文法化の度合いに関してはまだ検証されていないため、第 5 章で詳しく述べる。

今までの「kes-ita」に関する先行研究では、過去・現在・未来連体形語尾が前接する場合に焦点がおかれてきたが、本研究では特に「kes-ita」において、「tanun」が前接する場合、既存の「説明」「推量」とは異なって新しい機能を表すことを主張する。以下にその例を示す。

(34)=(11) 예전부터 아이폰 3GS 를 사용하면서 느낀 점은 참 케이블의 흰색이 예쁘...다는 것이다.

Yeycen-pwuthe aiphon 3GS-lul sayongha-myense nukki-n cem-un

前-から 아이폰 3GS-を 使う-ながら 感じる-過去連体形 点-は

cham kheyipul-uy huynsayk-i yeypu...-tanun kes-ita.

とても ケーブル-の 白色-が かわいい-TANUN KES-ITA

「前から 아이폰 3GS を使いながら感じた点はケーブルの白色がとてもかわいい ということだ。」

今まで「tanun」は連体形語尾ではなく、連体引用形式として分類されてきたが、「tanun」を1つの連体形語尾と見なすことによって、頻繁に観察される「tanun kes-ita」を1つの構文として認めつつ、「kes-ita」構文に位置づけることができよう。

そこで本研究では過去・現在連体形語尾が前接する「説明」の「N kes-ita」と未来連体形語尾が前接する「推量」の「I kes-ita」はすでに定着しているため、連体引用形式の「tanun」が前接する「tanun kes-ita」は「間接説明」を表すということを中心に指摘する。さらにコピュラ無しの「ke(s)」構文に関してはどのような秩序の下で用いられているのかについて十分に検証されていないため、「ke(s)」に前接する連体形語尾に注目して第4章で詳細に述べる。

以上、「形式名詞＋コピュラ」の構造を持つ韓国語の文末名詞化構文のうち、前接する連体形語尾の共起制約の観点から、特に本研究と密接な関わりを持つ「kes-ita」構文を中心に紹介した。次節では日韓対照の観点からみた文末名詞化構文に関する研究について述べる。

3.2.2 日韓対照の観点からみた文末名詞化構文に関する研究

現代日本語の文末名詞化構文は寺村（1984）の一連の研究をはじめ、新屋（1989）、益岡・田窪（1992）、角田（1996, 2011）、日本語記述文法研究会（2003）らによって言語・意味的観点から多角的・精力的に研究がなされ、その機能や特徴が解明されてきている。本節では、角田（1996, 2011）による文末名詞化構文²⁷の研究成果を基にして、韓国語との対照を行った김정민（2011）の研究を紹介する。これは日本語の文末名詞化構文を基準にして韓国語を対照することによって、両言語の文末名詞化構文における類似点や相違点を明らかにした点で意義がある。以下、角田（2006, 2011）の研究を簡単に概観した上、김정민（2011）の研究について述べる。

角田（2006, 2011）では名詞を大きく実質名詞と形式名詞とに分類した。まず、実質名詞にコピュラが後接する文末名詞化構文は「意志」の類、「段取り，見込み」の類、「状況，結果」の類、「感情」の類、「印象，雰囲気」の類、「習慣」の類、「人間の性格」の類、「役目」の類、「体の特徴」の類、「無生物の構成」の類、「疑い」の類などに分類している²⁸。ここでは、形式名詞の意味分類の詳細については表3に示す。

²⁷ 角田（1996, 2011）では、「体言締め文」「人魚構文」と名づけているが、本研究では「文末名詞化構文」と呼ぶ。

²⁸ 詳細は角田（1996, 2011）を参照されたい。

表 3 形式名詞と文末名詞化構文としての意味²⁹

分類	意味	
	形式名詞	文末名詞化構文
つもり	意図	(a) 意志, 決定 (b) 評価
はず	予定, 予期	(a) 予定, 予期 (b) 悟り
わけ	原因, 理由	(a) 原因, 理由, 説明 (b) 結論 (c) その他, 様々な意味
もの	物	(a) 義務, 助言 (b) 説明 (c) 過去の経験 (d) 驚き, 強い感情 (e) 文体的な効果 (f) その他, 様々な意味
次第	過程, 経緯	文体的な効果
方, 向き	方向	人間の習性
一方	一方向	「ますます」
ところ	場所	(a) aspectual な意味 (b) 文体的な効果
こと	事	(a) 助言, 指示, 義務 (b) 強い感情
由	手がかり	伝聞

以上の表 3 では「形式名詞」と「文末名詞化構文」とに分類したように、前者は形式名詞それ自体の意味、後者は文末名詞化構文として使われる場合の意味を示しており、特に「つもり」「はず」「わけ」「もの」「ところ」「こと」などは、文末名詞化構文とし

²⁹ 表3は角田（2011：63）を引用したものであり、用語の統一のため、一部修正を施した。

て複数の意味を持っていることが分かる。

3.2.1 節で述べたように、韓国語の連体形語尾の場合、「現実」と「非現実」とに大別される特徴を有しており、韓国語の文末名詞化構文のうち、「kes-ita」「seym-ita」は連体形語尾の時制によって機能を異にすることが分かった。それでは「ル形」「タ形」と大別される連体形の特徴を有する日本語の文末名詞化構文では、韓国語と同じく連体形の時制による機能の分化が見られるのであろうか。

表3からすると、文末名詞化構文として複数の意味を持つとされる「つもり」「はず」「わけ」「もの」「ところ」「こと」という6つの日本語の文末名詞化構文のうち、前接する連体形による機能の分化に焦点を当てると、以下のようにまとめることができる。

- (35) 太郎は明日東京へ行くつもりだ。
- (36) 花子是一所懸命努力したつもりだ。
- (37) 男の子は泣かないものだ。
- (38) 太郎はよく東京へ行ったものだ。
- (39) 学生是一所懸命勉強することだ。
- (40)?? 君はよくもそんな嘘を言えたことだ。
- (41) 太郎は今出かけるところだ。
- (42) 太郎は今出かけたところだ。(角田 2011)

角田(2011)によれば、(35)(36)の「つもりだ」は前接する連体形が「ル形」の場合は「意志」、「タ形」の場合は「評価」を表している。また、(37)(38)の「ものだ」は前接する連体形が「ル形」の場合は「義務・助言」、「タ形」の場合は「過去の経験」を表している。(39)(40)の「ことだ」は前接する連体形が「ル形」の場合は「助言・指示・義務」、「タ形」の場合は人によって多少ゆれはあるが、「強い感情」を表しているという。(41)(42)の「ところだ」はモーダルな意味を表す(35)～(40)とは異なって、アスペクト的意味を表しており、「ル形」「タ形」両方とも前接することが可能であるとされている。つまり、日本語の連体形は複雑な体系を持っている韓国語の連体形語尾とは異なって「ル形」「タ形」と2分類されているが、韓国語と同じく、連体形の時制による機能の分化が見られるという共通点が確認できた。

また、김정민(2011)では、角田(1996)で指摘されている日本語の「動詞・形容詞(形容動詞)の連体形+体言+指定詞」いわゆる「体言締め文」(角田の用語)に注目

し、韓国語にも存在・発達していることから、角田の意味分類を参考にして、「文末名詞化構文」の体言に生起する韓国語の名詞を、(Ⅰ) 実質名詞、(Ⅱ) 形式名詞 1 形、(Ⅲ) 形式名詞 2 形とに分類した。以下では 3 つの分類のうち、本研究と関連性の深い形式名詞を中心に取り上げる。

表 4 形式名詞 1 形

種類	機能
[1] moyang (모양)	様態, 証拠性
[2] pep (법)	義務, 道理, 当為性
[3] kil (길)	アスペクト的意味
[4] seym (셈)	意志, 状況, ～した結果
[5] phan (판)	(否定的) 状況, 局面
[6] phok (쪽)	状況, 局面
[7] phyen (편)	傾向, 性向
[8] the (터)	アスペクト的意味, 話し手の意志, 推測

表 5 形式名詞 2 形

種類	機能
[1] kes (것)	説明, 断定, 推量, 意志 (コピュラ付き) 強い命令 (コピュラ無し)
[2] pa (바)	義務, 道理, 当為性
[3] cikyeng (지경)	(否定的) 状況, 状態
[4] nolus (노릇)	(否定的) 状況, 状態
[5] cham (참)	アスペクト的意味
[6] cha (차)	アスペクト的意味
[7] cwung (중)	アスペクト的意味

以上の表 4 と表 5 は、個々の形式名詞からなる文末名詞化構文としての機能を挙げており、モーダルな意味やアスペクト的意味を表すものが見られる。特に「kes-ita」と

「seym-ita」は前接する連体形の時制によって機能の分化が見られ、日本語の「つもりだ」「ものだ」においても同様の現象が観察されると指摘している（김정민 2011）。

さらに、김정민 (2011) では韓国語の文末名詞化構文は (43) のように、コピュラ「ita」の有無による機能上の違いがないため、コピュラを省略することが可能であるという。

(43) 나는 나를 도와준 사람들에게 꼭 보답할 { 터 / 터이다 }.

Na-nun na-lul towacwu-n salam-tul-eykey kkok potapha-l { the / the-ita }.

私は 私-を 助けてくれる-過去連体形 人-複数に 必ず 報いる-未来連体形 THE / THE-ITA
「私は私を助けてくれた人々に必ず報いるつもりだ。」

（김정민 2011; 原文はハングル, 訳とグロスが筆者）

つまり、文末に生起するコピュラ付きの「the-ita」と、コピュラ無しの「the」はコピュラの有無に関わらず「意志・推測」を表している。しかし、コピュラ付きの「kes-ita」が「説明」「推量」を表しているのと異なって、以下の (44) のコピュラ無しの「kes」は「命令」を表しているなど、文末名詞化構文のうち、未来連体形語尾が前接する「kes」を除けば、コピュラ「ita」の有無による機能の分化はないと指摘している（김정민 2011）。

(44) 주말마다 해외 여행을 갈 것.

Cwumal-mata hayoy yehayng-ul ka-l kes.

週末-たび 海外 旅行-を 行く-未来連体形 KES
「週末のたび海外旅行に行くこと。」

（김정민 2011; 原文はハングル, 訳とグロスが筆者）

しかし、実際コピュラ無しの「ke(s)」構文として、「命令」の「I kes」以外にも、「tanun ke」「N ke」が観察されること、さらにそれらがコピュラ付きの「tanun kes-ita」「N kes-ita」とは多少異なる機能を有することなど、「I kes」以外のコピュラ無しの「ke(s)」構文の出現可能性やコピュラの有無による機能上の分化など、「kes(-ita)」構文に対して修正を加える必要があると思われる（詳細は第4章で後述）。

日本語のコピュラ無しの文末名詞化構文の場合、コピュラ付きの文末名詞化構文に比べ、「聞き手目当て」の意味を表し、より語用論的・文脈的解釈の幅が広い（堀江・パルデシ 2009, 김정민 2011）と述べられている。しかし、日本語のコピュラ付きの文末名詞化構文に比べ、コピュラ無しの文末名詞化構文の方は積極的に研究されていないの

も事実である。韓国語においても「命令」の「I kes」以外は、コピュラ無しの文末名詞化構文に関して論じられることはあまりない。

以上、日韓対照の観点からみた文末名詞化構文に関する先行研究のうち、前接する連体形の時制によって機能の分化が見られる研究を中心に紹介した。次節では従属節の主節化に関する先行研究について述べる。

3.3 従属節の主節化に関する先行研究

日本語では従属節が主節として独立して用いられる現象が特に話し言葉で頻繁に観察され (Maynard 1997)、「言いさし (文) (白川 2009)」という用語が当該現象を示すために用いられてきた。言語類型論の分野では最近この現象に対する関心が高まり、“insubordination (Evans 2007)” という用語が定着しつつあり、日本語でも「中断節構文 (大堀 2002)」、「従属節の主節化 (堀江・パルデシ 2009)」といったこれに対応する用語が提案されている。本研究では「従属節」のうち、主として副詞節を構成する「から」「けど」のような「接続形式」や、連体修飾節を構成する「連体形」が、それ自体で直接主節の文末に生起する現象を「従属節の主節化」と総称する。

次節では、韓国語の従属節の主節化に関する研究、日韓対照の観点からみた従属節の主節化に関する研究の順に見ていく。

3.3.1 韓国語の従属節の主節化に関する研究

現代韓国語の従属節の主節化現象として、本来文中に生起すべき接続形式や連体形が文末に単独で生起する場合がある。その1つの表れとして、「nuntey (는데, けど)」「nikka (니까, から・ので)」「myense (면서, って)」のような、接続形式の従属節の主節化現象が話し言葉を中心に生産的に観察されている (Sohn 1995, 2003, Park and Sohn 2002, Rhee 2002, 2012, 2014)。これは日本語においても同様のことが言え、「から」「けど」「し」のような副詞節接続形式で導かれた従属節が文末に単独で用いられている。

統語的観点からすると、接続形式と連体形は、本来は単独で文末に生起し文を終結する形式ではないという共通点があるが、特に接続形式の場合は (45) のように話し言葉でもかなり安定した形式で、頻繁に用いられている。

(45) 비가 온다니까.

Pi-ka o-n-ta-nikka.

雨-が 降る-現在-終結語尾-連結語尾

「雨が降っている (んだ) から。」 (Rhee 2014; 原文はローマ字, 訳とグロスは筆者)

一方、韓国語の連体形が単独で文末に生起することは、現代韓国語の文法体系からするとかなり逸脱した現象であるため、これまでは体系的に研究されてこなかった。その大きな理由として、野間 (1997) では以下に引用されるように、他の節に比べて連体節は独立性が低いということがある。

連体節 (冠形節) は用言の連体形をもって統合され、体言を修飾する節である。連体形は常に終止形と形が異なる点が、日本語と大きな違いである。また、連体節はそれ自体で完結できず、被修飾体言を必須の後続要素として要求する点で、主節や名詞節はもちろん、連用節と比べてさえ連体節は独立性がはるかに弱い。言うならば、「連体節+被修飾体言」という組み合わせになって初めて一つの名詞節として全き独立性を維持できるわけで、構造上の独立性という点で、連体節は他の節からは1層下位の節だということができる (野間 1997: 106)。

このような連体節の構造上の特徴のため、韓国語における連体終止形に関する研究は多くないが、近年この形式を取り上げた研究が一部に見られる。金 (2009) は、本研究でいう「連体終止形」と同様の意味として使われる「連体形終止文」を、「「完全な」文としての明確さを失わせ、ぼかしたり、間接化する、「話し手のモーダルな態度」を示す「緩衝表現」(p.4)」と定義し、(46) のような例を挙げている。

(46) 나? 어-향수. 그냥 시원한 향 나는.

Na? e-hyangswu. kunyang siwenha-n hyang na-nun.

私 うん 香水 ただ さっぱりする-現在連体形 香り する-現在連体形

「私? うーん、香水。ただのさっぱりした香りする。」

(金 2009: 42; 原文はハングル, グロスは筆者)

金は、(46) において「後続して存在すべき被修飾語たる体言をあえて「欠如」させ

ることにより、文の明言を避ける (p.44)」働きをしているもので、書き言葉よりは話し言葉のすべての用言で現れていると述べている。また、「連体形終止文」は後続すべき被修飾語の不在と、文末の生起が相まって、連体修飾節でありながら主節としての役割も果たさなければならない、非常に曖昧な形式であるという。さらに、日本語の「っていう」と「みたいな」のような文末表現として定着している連体形は、韓国語には見出せない、日本語独特の「緩衝表現」であるとしている。

しかし、近年ネット上で日本語「っていう」、「みたいな」に対応する韓国語「tanun」、「kes-kathun」が生産的に観察されるにも関わらず、金の研究では韓国語における連体終止形の機能や特徴を体系的に分析していない。

以上、韓国語の従属節の主節化に関する先行研究のうち、特に連体終止形を中心に紹介した。次節では日韓対照の観点からみた従属節の主節化に関する研究について述べる。

3.3.2 日韓対照の観点からみた従属節の主節化に関する研究

本節では日韓対照の観点からみた連体終止形について述べる前に、日本語の従属節の主節化現象の1つの表れである以下の例を提示する。まず、従属節の主節化の最も典型的な例は「から」「けど」「し」のような副詞節接続形式で導かれた従属節が単独で用いられる (47) のようなものである。

(47) <A と B は大学院生、授業補助のアルバイトの話をしている。Ling-5 は受講者が多くて仕事もきつい。>

A : 何これ？

B : Ling-5 やれって。

A : んんそう、最初はそう言われるのよ。

B : 5 だけはいやだっつったんだけどな。

A : 私だってこないだそう言ったら、オリジナリーに 5 になったんだから。

(大堀 2002 : 128; 下線は筆者によるもの)

(47) のような従属節に生起すべき接続形式の「から」は、従属節の主節化現象の表れとして、文末に単独で生起することができ、生産的に観察されている。また従属節の主節化現象として、接続形式のみならず連体終止形においても顕著に見られていることに注目したい。

現代日本語には (48) の「みたいな」、(49) の「っていう (という)」のように、通常は連体修飾節内において後続名詞を修飾する連体形が、名詞を伴わず、単独で文末に生起する現象が見られており、数多くの先行研究がある (Suzuki 1995, 佐竹 1997, 大堀 2002, メイナード 2004, 2008, 加藤 2005, Fujii 2006, 甲田 2013)。

(48) 島田：あ～、買えたチケットとか思って (笑) すごく嬉しくて。

小境：初めての生ブロード

島田：生ブロードウェイ。もう、生チケットを買ったぞみたいな。

小境：ウェイ。ええ。何観たんですか。(加藤 2005 : 43)

(49) <「オートマティック」と呼ばれる友人のあだ名の由来が A によって語られており、A がその当時の状況を説明している。>

A：実は教室中に聞こえてたっていう。(甲田 2013 : 436)

現代日本語では形容動詞とコピュラを除いた大部分の述語においては連体形と終止形が同形である。このため、終止形の「みただ」と形態的に区別される (48) の「みたいな」や、連体修飾形式として慣用化した (49) の「っていう (という)」のように、明確に「連体形」が文末に生起していると同定できるケースは少数である。また、前述したように、日本語と文法・語彙面で多くの共通点が見られる韓国語は、「連体形」と「終止形」が形態的に明確に区別されている (3.2.1 節が詳細) ため、連体形で文を終結する、(48) (49) のような日本語の「連体終止形」は、従来の韓国語文法の記述においては不完全なものと思われ、これまでは研究対象として注目されてこなかった。

しかし、堀江・金 (2011)、金 (2014) など、近年日本語と韓国語を対比して連体終止形の特徴を論じた研究も少数見られる。堀江・金 (2011) は日本語の「という」に相当する韓国語の引用連体形式の「tanun」が文末に単独で現れる (50) のような用法に着目する。

(50) <ビールの写真付きのブログで>

새로 나온 맥주 넘넘 맛있다는...

Saylo nao-n maycwu nemnem masiss-tanun...

新しく出る-過去連体形 ビール とても おいしい-TANUN

「新しく出たビール。とてもおいしいという…」(堀江・金 2011 : 204)

近年韓国のネット上でよく観察される (50) の「tanun」に関して、堀江・金 (2011) は「読み手にとっては直接知ることが難しい書き手自身の感想、考え、感情、経験などを、まるで他人事のように距離を置いて提示することによって、より客観化していると同時に、連体形止めで文を断定しないことによって、命題の事実性にはコミットせず解釈を読み手に委ねるという「判断保留」の働きをしている (p.207)」と述べている。これは「話し手自身の経験でありながら出来事を他者から見たように提示して話し手の情報源を不明瞭にする」という「反明証性 (anti-evidential) (大堀 2002)」の機能を持つ日本語の「という」と平行的である。

また、金 (2014) では堀江・金 (2011) の分析を発展させ、「tanun」と「という」の体系的な対照分析が行われ、両者ともに主観化・間主観化への文法化が進んでいるという考察がなされている。まず主観化を表す場合である。

(51) <化粧品の使用後の感想を記述したブログで>

남편이 칭찬 해 줬어요^^ 피부가 좋아졌다고. 아는 분도 왜 자꾸
젊어지나는...ㅋㅋ

Namphyen-i chingchan hay cwu-ess-eyo^^ phipwu-ka coh-a ci-ess-ta-ko.

旦那が 賞賛 してくれる-過去-終結語尾 肌-が いい-くなる-過去-終結語尾-と

a-nun pwun-to way cakkwu celm-e ci-nya-nun...ㅋㅋ

知る-現在連体形 方-も なぜ よく 若い-くなる-疑問-現在連体形

「旦那が褒めてくれました。肌がよくなったと。知り合いの方もなんでどんどん若くなるのかという (笑)」(金 2014: 701; ハングルは筆者, グロス是一部修正)

(52) <アイドル歌手のインタビュー記事>

……(中略)

酒井：お互い掃除ができなくて…… (笑)。初日のリビングは初歩の初歩で、各自の部屋からどんどんリビングに汚染が広がっていきましてね。足の踏み場もなく、事務所内でも汚部屋として有名でしたね。本当、ひどかったです。

小明：こんな美少女が住んでいて、可愛い声は聞こえるけど、部屋は汚いっていう……。(金 2014: 707)

金 (2014) によれば、韓国語の「tanun」と日本語の「という」が文末に単独で生起する際、両形式は話し手の主観性を表す主観化の指標とも言えるという。(51) は自分の褒められた自慢話を言うことに対する書き手の「照れくささ」を示しており、(52) はインタビューを通して、顔立ちもきれいだし、声もかわいいので、「きっと部屋もきれ

いにしているはずだ」と思っていた話し手（＝小明）が、自分の想定とは違うことに対する「驚き」や「意外性」を表出しているとされている。

さらに「tanun」と「という」は以下に示すように、間主観化を表す場合も見られるという。

(53) ㅋㅋ 혹시 아직 있는지. 교회 같이 가자는?

ㅋㅋ Hoksi acik iss-nunci. Kyohoy kathi ka-ca-nun?

もしかして まだ いる-のか 教会 一緒に 行く-勧誘-現在連体形

「もしかしてまだいるのか。教会一緒に行こう という(?)」

(金 2014 : 705; ハングルは筆者, グロス是一部修正)

(54) <部屋探しの話を>して>

A : あのう、失礼ですが、どの辺りにお住まいですか。

B : 我孫子です。

A : あ、そこ成田空港に行きやすい駅ですよ。成田線で

B : え、知ってますか。

A : なんか友達に聞いたんですよ。成田線が通って成田空港まで行きやすいって。

B : あ、そうなんですね。普段あまり知らない場所ですよ、我孫子なんて。

A : そうですか(笑)。ほかに、どっか、いい場所ご存知ですか。

B : いいえ、知りません。私あまりそういうタイプじゃない という。(実例)

(金 2014 : 709)

金(2014)では韓国語の「tanun」と日本語の「という」が文末に単独で生起する際、(53)は「ca-nun (자는)」の直後に「?」を付け加えることによって、断定しないだけでなく、「教会に一緒に行こうと誘いたいんだけど、どうですか」といった、相手の意向を聞いている。また、(54)は自分の性格というものは自分自身がもっともよく知っている事柄であるにも関わらず、「自分はあまりそういう(場所などの周辺情報に詳しい)タイプではない」ということを「という」を用いて終結している。文末に「という」が共起する場合に比べ、言い切りの終結形を使った「私あまりそういうタイプじゃないです」のほうが、話し手から聞き手へ一方的に伝えるようなニュアンスが感じられると述べている。つまり、(53)(54)は聞き手(読み手)に命題内容をいかに伝達するかというような、聞き手を意識した態度が感じられることから、両形式は間主観化の指標とも言えるという。

以上、本節で取り上げた日韓両言語において、連体終止形に関する先行研究は「って

いう（という）」「tanun」のような、引用連体形式とも言える形式にとどまっており、特定の形式に限らず広く観察される「一般述語」の「連体終止形」に関する体系的な研究はまだ十分に行われていない。これに関しては、日本語の「っていう」と「みたいな」のような連体終止形は、韓国語には見出せない、日本語独特の「緩衝表現」である（金 2009）と指摘されているが、実際には日本語の「っていう（という）」に対応する「tanun」以外にも、日本語の「みたいな」に相当する「kes-kathun」が生産的に観察されている。

したがって、「tanun」の先行研究から得られた研究成果を踏まえつつ、「kes-kathun」のような、いわば特定の「構文」として慣習化した形式を検討すると同時に、近年頻繁に観察される「一般述語」の「連体終止形」についても考察を行う（第 6 章で後述）。

以上、本章では、広く文末名詞化構文、従属節の主節化に関する先行研究を取り上げ、その中で特に本研究と深く関連する研究を中心に紹介し、その問題点を指摘した。

第4章 韓国語の文末名詞化構文「kes(-ita)」の文法的位置づけと

語用論的機能：日本語の文末名詞化構文との対比を通じて

4.1 はじめに

現代韓国語における代表的な名詞化辞には日本語の「の」「こと」に相当する「kes (것)」が存在し、それは文中の補文標識としての機能以外にも、文末に生起することができる。そして、文末の「kes(-ita)」構文は、未来連体形語尾「l」が前接する場合、コピュラ「ita」の有無によって (55) は「推量」、(57) は「命令・忠告」を表す。これに対して、過去連体形語尾あるいは現在連体形語尾のような「N」が前接する場合、コピュラ「ita」を伴う (56) は「説明」、コピュラを伴わない (58) は生起できないという制約があるとされている (안효경 2001) ³⁰。

(55) 내일은 비가 올 것이다.

Nayil-un pi-ka o-l kes-ita.

明日は 雨-が 降る-未来連体形 KES-ITA

「明日は雨が降るだろう。」

(56) 어제는 비가 온 것이다.

Ecey-nun pi-ka o-n kes-ita.

昨日は 雨-が 降る-過去連体形 KES-ITA

「昨日は雨が降ったのだ。」

(57) 책을 읽을 것.

Chayk-ul ilk-ul kes.

本-を 読む-未来連体形 KES

「本を読むこと。」

(58)* 책을 { 읽은 / 읽는 } 것.

Chayk-ul { ilk-un / ilk-nun } kes.

本-を 読む-過去連体形 / 読む-現在連体形 KES

「本を読んだ / 読んでいること。」

本研究は、近年インターネットのブログで頻繁に観察されるようになり、既存の文法

³⁰ 안효경 (2001 : 98) では、コピュラを伴わない「kes」構文において、前接する連体形語尾の時制による共起可能性について述べている。詳細は5.3.1節を参照されたい。

体系では共起不可能であった (58) のような「N ke(s)」³¹という連鎖を含みつつも容認される以下の (59) (60) の「tanun kes-ita」と「tanun ke(s)」³²という形式に着目し、その文法的位置づけと語用論的機能を明らかにする。

(59)=(34)=(11) 예전부터 아이폰 3GS 를 사용하면서 느낀 점은 참 케이블의 흰색이 예쁘...다는 것이다.

Yeycen-pwuthe aiphon 3GS-lul sayongha-myense nukki-n cem-un

前-から アイフォン 3GS-を 使う-ながら 感じる-過去連体形 点-は

cham kheyipul-uy huynsayk-i yeyppu...-tanun kes-ita.

とても ケーブル-の 白色-が かわいい-TANUN KES-ITA

「前からアイフォン 3GS を使いながら感じた点はケーブルの白色がとてもかわいいということだ。」

(60)³³ 아이들이 먹는 거 보면 안 먹어도 배가 부르다는 거...

Ai-tul-i mek-nun ke po-myen an meketo pay-ka pwulu-tanun ke...

子供-複数-が 食べる-現在連体形 の 見る-条件 否定 食べても お腹-が いっぱいになる-TANUN KE

「子供が食べているのを見ると、食べなくてもお腹がいっぱいになるということ。」

具体的には、共起する連体形語尾の時制によって文法的意味や容認性が異なってくる文末名詞化構文の特徴を踏まえつつ (3.2 節を参照)、コピュラ付きの「tanun kes-ita」とコピュラ無しの「tanun ke」構文を中心に、どのような機能を体現しているかについて考察する。また、今まで非文とされてきた過去・現在連体形語尾「N」に「ke」が付加された「N ke」構文も併せて分析することによって、「kes-ita」構文に前接する連体形語尾及びコピュラ「ita」の有無による機能や特徴を明らかにする。

さらに、韓国語の文末名詞化構文「kes(-ita)」と日本語の文末名詞化構文との対比を通して、両言語における類似点や相違点を解明する。次節では本研究の研究対象をまとめて示す。

³¹ 文末に単独で生起するコピュラ無しの「N kes」構文は「kes」の「s」が省略された「N ke」の形態で頻出されるため、これ以後は「N ke」と表記する。

³² 文末に単独で生起するコピュラ無しの「tanun kes」構文は「N kes」と同じく、「kes」の「s」が省略された「tanun ke」の形態で現れる場合が殆どであるため、これ以後は「tanun ke」と表記する。

³³ <http://blog.naver.com/jkk3237?Redirect=Log&logNo=90133905093> (2013年1月23日検索)

4.1.1 本研究の研究対象

本章で注目している韓国語の研究対象をまとめると以下のようになる。

表 6 本研究における韓国語の研究対象

文末名詞化構文		先行研究	本研究
コンピュータ付き	「N kes-ita」	○	○
	「tanun kes-ita」	△	○
	「I kes-ita」	○	○
コンピュータ無し	「N ke」	×	○
	「tanun ke」	×	○
	「I kes」	○	○

本章で注目している韓国語の文末名詞化構文「kes(-ita)」のうち、「説明」の「N kes-ita」、「推量」の「I kes-ita」、「命令・忠告」の「I kes」はすでに定着した形式であるが、「tanun kes-ita」に関する先行研究は少ない(남가영 2009, 한송화 2013)。さらに、「tanun kes-ita」を「kes-ita」構文に位置づける認識はあまりないため、本研究では既存の研究成果を認めながら、新たな機能の獲得を主張し、コンピュータ付きの「kes-ita」構文の1つとして位置づけることを試みる。また、コンピュータ無しの「tanun ke」や「N ke」に関しては今まで不完全なものと思われてきたため、その機能を見出すことによって、それらをコンピュータ無しの「ke(s)」構文として位置づける。

次節では「kes-ita」構文のうち過去・現在連体形語尾「N」、未来連体形語尾「I」が前接する「N kes-ita」「I kes-ita」はすでに固定化した形式であるため、連体形語尾「tanun」の位置づけと「tanun kes-ita」の先行研究について述べる。

4.2 先行研究

本節では「tanun kes-ita」に関する先行研究について紹介するが、それに先立って、「tanun kes-ita」を「kes-ita」構文に位置づける主要な手がかりとなる「tanun」の位置づけについて触れておきたい。

4.2.1 連体形語尾「tanun」の位置づけ

韓国語の連体形語尾の体系として、過去・現在連体形語尾は「現実」、未来連体形語尾は「非現実」を示すと言える。それは連体形語尾との共起による機能の分化が見られる文末名詞化構文にも当てはまることから、韓国語において連体形語尾の時制はその機能と深く関わっていることが分かる。韓国語の「kes-ita」に関する研究は今まで統語・意味的観点から生産的に行われてきており、多くの研究の蓄積があるが（野間 1990, 신선경 1993, 김상기 1994, 홍사만 2006, 김종복・이승한・김경민 2008 など）、それらは過去・現在連体形語尾「N」、未来連体形語尾「I」が前接する場合に限って議論されてきた。

このように、韓国語の連体形語尾は過去・現在（現実）・未来（非現実）というテンス体系が明確に分化しているなかで、それらと共起する「N kes-ita」「I kes-ita」構文が主流であったが、ここでは今まで連体形語尾として取り上げられてこなかった「tanun」に着目する。

本来「tanun」は日本語の「だという」に相当する「ta-ko ha-nun (다고 하는)」という引用連体形式の縮約形とみる立場が殆どであったが、最近「tanun」が「ta-ko ha-nun」に復元できない場合は、過去・現在連体形語尾「N」、未来連体形語尾「I」のような 1 つの連体形語尾として認める立場も見られる（이원표 2001, 김선효 2004, 이관규 2007, 野間 2009）。特に김선효 (2004) では、「tanun」について当該の事柄に対する「蓋然性」の認識を表す連体形語尾であるとされている。

本研究では김선효 (2004) の観察を受け入れつつも、「蓋然性」という用語の持つ潜在的な曖昧さを避けるために「実現可能性」という用語を用い、「tanun」は「実現可能性」（に対する認識の程度）を表す連体形語尾の 1 つであると見なす。つまり、「現実」を表す「N」、「非現実」を表す「I」と同様に、「tanun」に関しては、「実現可能性」の程度を表す連体形語尾の一種であると捉え、「tanun kes-ita」という形式は、文末に生起する (55) の「推量」の「I kes-ita」と (56) の「説明」の「N kes-ita」と同様に、「kes-ita」構文の 1 つとして位置づけられると考えられる。

次節では実現可能性の程度を表す連体形語尾「tanun」が共起する「tanun kes-ita」を中心に先行研究を紹介する。

4.2.2 韓国語の「tanun kes-ita」に関する先行研究

文中に生起する「tanun」は「報告 (reporting)」や「伝聞 (hearsay)」を表す連体形の1 つとして、「主張、話、告白、見解、言葉、報告、報道、事実、先入観、噂、意見」などの名詞と共起する傾向がある (Kim-Renaud 2012 : 158) とされているが、本研究では「tanun」に形式名詞「kes」が結合して文末に出現する、いわゆる文末名詞化構文として働く「tanun kes-ita」に着目する。

「tanun kes-ita」は今まで研究対象としてあまり注目されておらず、それゆえ管見の限り先行研究は多くないが、以下、文末名詞化構文の「N kes-ita」と「tanun kes-ita」を比較した남가영 (2009) について述べる。

まず、남가영 (2009) では「N kes-ita」と「tanun kes-ita」は話し手の主観性を表す形式として、両者の比較を通してそれぞれの機能の解明を試みた。両者は先行する内容に対する話し手の解釈や評価を示す「解釈的換言」の役割を果たしているという共通点を有するという。しかし、「N kes-ita」は話し手の確信と断言を強調することができるのに対して、「tanun kes-ita」は「N kes-ita」に比べ、話し手が先行する内容の事実性に対して確信していないことを表しており、先行する内容をそのまま述べるため、「～という話・言葉だ」のような形式に言い換えることができると指摘している。つまり、「tanun kes-ita」は話し手が事実性について確信できない場合によく用いられるということである。

そのため、「N kes-ita」は先行する内容を話し手が換言していながらも、その換言は話し手自身によるものとして、解釈の責任は話し手にあり、解釈の事実性を強調する効果をもたらす。その反面「tanun kes-ita」は自分の解釈を客観・中立的にし、それに対する責任は比較的自由であることを相違点として挙げている。

- (61) 한 시중 은행 자금 담당자는 ‘한동안 하루짜리 초단기대출로 의존했던 은행들이 가격 불문하고 기간물 차입에 나서고 있다’고 말했다. 높은 가격을 주고서라도 달러 확보에 나선다는 것이다.

Han sicwung unhayng cakum tamtangca-nun ‘hantongan halwuccali
 ある 都市 銀行 資金 担当者-は しばらく その日のうちに
 chotanki taychwul-lo uyconhay-ssten unhayng-tul-i kakyek pwulmwunhako
 超短期 貸し出し-で 依存する-過去経験連体形 銀行-複数-が 価格 問わず
 kikanmwul chaip-ey nase-ko iss-ta’-ko malhay-ss-ta.
 期間物 借入-に 乗り出す-ている-終結語尾-と 話す-過去-終結語尾

noph-un kakyek-ul cwukoselato talle hwakpo-ey nasen-tanun kes-ita.
 高い-現在連体形 値段-を払ってもドル 確保-に 乗り出す-TANUN KES-ITA

「ある都市銀行の資金担当者は‘しばらくその日のうちに超短期貸し出しに依存していた銀行が価格を問わず期間物借り入れに乗り出している’と述べた。高い値段を払ってもドルの確保に乗り出すということだ。」

(62)(前略) 높은 가격을 주고서라도 달러 확보에 나서는 것이다.

noph-un kakyek-ul cwukoselato talle hwakpo-ey nase-nun kes-ita.
 高い-現在連体形 値段-を払ってもドル 確保-に 乗り出す-現在連体形 KES-ITA

「.....(前略) 高い値段を払ってもドルの確保に乗り出すのだ。」

(남가영 2009 : 327; 原文はハングル, 訳とグロスは筆者)

つまり、(61) の「tanun kes-ita」は「解釈的換言」を客観的に捉える効果があり、話し手が意図しているのは客観性及び中立性、非関与性の表出であり、命題内容と心理的に距離を置きたいという。これに対して、(62) の「N kes-ita」は先行する命題内容に対する話し手の断言、判断を表しており、与えられた情報に対して、話し手が解釈的換言をし、これを新しい情報として提示する役割を果たしているとされている (남가영 2009)。しかし、「tanun kes-ita」に対して、「解釈的換言」を客観的に表しているとは言い難く、近年インターネットのブログなどで、単なる話し手自身の感想・考えを表明する際に、「tanun kes-ita」が付随する場合が多く見られている (4.3 節で詳述)。さらに、「tanun kes-ita」からコピュラ「ita」が省略されたと見られる「tanun ke」が生産的に観察されているが、コピュラ無しの「tanun ke」に関する先行研究はまだない。

そこで本研究では先行研究を参照しつつ、「tanun kes-ita」の用例分析を通してその機能をより明らかにすることによって、コピュラ付きの「kes-ita」構文の1つとして位置づけるを試みる。そうすることによって、「tanun ke」においても、コピュラ無しの「ke(s)」構文の1つとして位置づけられる手がかりを見出すことができよう。

以上「tanun kes-ita」の先行研究について簡単に述べた。次節では先行研究を踏まえ「tanun ke(s-ita)」の綿密な分析を通して、その機能を明らかにする。

4.3 韓国語の「tanun ke(s-ita)」に関する分析

韓国語において連体形語尾「N」と「I」は、「現実」と「非現実」という認知的な意味の対立を見せており、当該の事柄の成立において、前者は実現可能性が確定した断定を示す標示、後者は実現可能性の程度が低い標示とも言え、その間に位置づけられるの

が「実現可能性」が相対的に高い事柄を表す連体形語尾「tanun」であると考えられる。

本節では前節で紹介した連体形語尾としての「tanun」の位置づけと、「tanun kes-ita」に関する先行研究の知見を踏まえながら、コピュラの有無による「tanun ke(s-ita)」の機能を考察する。

4.3.1 「tanun kes-ita」の機能

前述したように、文末名詞化構文のうち「kes-ita」構文の代表的なものとしては、「説明」の「N kes-ita」と「推量」の「I kes-ita」とがあるが、「tanun」を1つの連体形語尾として見なすことによって、今までは殆ど論じられてこなかった「tanun kes-ita」を「kes-ita」構文の枠組みに取り込むことができる。

本節ではインターネットのブログを中心にして、韓国語の「tanun kes-ita」がどのような機能を担っているのかについて分析する。議論に先立ち、まず以下に例を示す。

- (63)³⁴ 인상적인 것 한가지는 연인들이나 아이들 뿐 아니라 가족끼리 친척끼리 친구끼리 선물을 주고 받는다는 것이다.

Insangceki-n-kes hankaci-nun yenin-tul-ina ai-tul ppwun anila kacok-kkili
印象的だ-現在連体形-こと 1つは 恋人-複数-や 子供-複数 だけ なくて 家族-同士
chinchek-kkili chinkwu-kkili senmwul-ul cwuko pat-nun-tanun kes-ita.

親戚-同士 友達-同士 プレゼント-を やって もらう-現在-TANUN KES-ITA

「印象深かいことの1つは恋人たちや子供たちだけでなく家族同士、親戚同士、友達同士、プレゼントを交換するということだ。」

- (64)³⁵ 카운터 오마카세. 오늘 우리가 먹을 메뉴이다. 오마카세는 말긴다는 뜻이다. 다시 말해 셰프가 그날 그날의 재료에 맞게 즉석에서 만들어 내어주는 요리를 먹는다는 것이다. 예전에도 느꼈지만 가격대가 좀 있다. 1인당 165000 원.

Khawunthe omakasey. onul wuli-ka mek-ul meynyu-ita. omakasey-nun
カウンター おまかせ 今日 私たち-が 食べる-未来連体形 メニュー-だ おまかせ-は
mathki-n-tanun ttus-ita. tasi malhay sweypfu-ka ku-nal ku-nal-uy caylyo-ey
任せる-現在-という 意味-だ また 話して シェフ-が その-日 その-日-の 材料-に
mackey cuksek-eyse mantule naye cwu-nun yoli-lul mek-nun-tanun kes-ita.
合わせて 即席-で 作って 出してくれる-現在連体形 料理-を 食べる-現在-TANUN KES-ITA
yeycen-eyto nukki-ess-ciman kakyekta-ka com iss-ta. lintang 165000wen.

³⁴ <http://blog.naver.com/dldofl0550/40204540704> (2014年3月22日検索)

³⁵ <http://blog.naver.com/dogdog1974?Redirect=Log&logNo=60207830170> (2014年3月22日検索)

前-にも 感じる-過去-けど 価格帯-が 少し ある-終結語尾 1人当たり 165000 ウォン
「カウンターおまかせ。今日私たちが食べるメニューだ。おまかせは任せるという意味だ。言い換えるとシェフがその日その日の材料に合わせて即席で作って出してくれる料理を食べるということだ。前にも感じたが、少し値が張る。1人当たり 165000ウォン。」

具体的には (63) では留学生の書き手がアメリカのクリスマスの文化について述べており、「恋人たちや子供たちだけでなく家族同士親戚同士友達同士プレゼントを交換する」、また (64) では、和食屋での「おまかせ」というメニューについて説明しており「シェフがその日その日の材料に合わせて即席で作って出してくれる料理を食べる」という事柄に対して「tanun kes-ita」で文を締めくくっている。

つまり、「tanun kes-ita」は (63) のように第3者から得られた当該の事実・情報を間接的に述べるといった「伝聞」、また、(64) のように当該の事実・情報を言い換えて聞き手に再確認させるといった「換言」の機能を呈しており、両者とも「tanun kes-ita」に導かれる「アメリカのクリスマスの文化」や「おまかせ」に対する事柄を中立的・間接的に捉えている。

また、남가영 (2009) で論じられた「tanun kes-ita」の機能として、前節で取り上げた (61) のような相手の発話を「換言」する場合以外に、話し手自身の発話に対して「換言」することも可能であり、この場合は主観的な事柄とも捉えられる自分の判断を第3者から得られたかのような事実・情報として客観的に捉えることができるとしている。以下の (65) はインターネットのブログで見つかった話し手自身の感想や考えに対して「換言」する場合である。

(65)³⁶ 물론 과제도 많고 시험도 많다. 그치만 그 과정을 헤쳐 나가는 순간이 너무 즐겁다. 여태까지 한국에서 공부하던 것과 미국에서 공부하는 거의 차이점을 짧게 요약하자면 ‘즐겁’ 다는 것이다.

Mwullon	kwacey-to	manhko	sihem-to	manh-ta.	kuchiman	ku
勿論	課題-も	多いし	試験-も	多い-終結語尾	それにも関わらず	その
kwaceng-ul	heyhye	naka-nun	swunkan-i	nemwu	culkep-ta.	yetay-kkaci
過程-を	乗り越えていく-現在連体形	瞬間-が	とても	楽しい-終結語尾	今-まで	

³⁶ <http://rhqudtjs1234.blog.me/50188166675> (2014年5月30日検索)

hankwuk-eyse kongpwuha-ten kes-kwa mikwuk-eyse kongpwuha-nun
 韓国-で 勉強する-過去回想連体形 こと-と アメリカ-で 勉強する-現在連体形

ke-uy chaicem-ul ccalbkey yoyakha-camyen ‘culkep’-tanun kes-ita.

こと-の 違い-を 短く まとめる-と 楽しい-TANUN KES-ITA

「勿論宿題も多いし、試験も多い。それにも関わらず、その過程を乗り越えていく瞬間がとても楽しい。今まで韓国で勉強したこととアメリカで勉強することの違いを短くまとめると‘楽しい’ ということだ。」

(65) では、アメリカで留学している書き手が「アメリカでは宿題も試験も多いが、その過程を乗り越えていくことが楽しい」という感想や考えを、「今まで韓国で勉強したこととアメリカで勉強することの違いをまとめると楽しい」という「換言」を用いて表している。

しかし、先行研究で述べている「tanun kes-ita」の機能である当該の事柄に対する「換言」とは言い難い例がよく観察されている。

(66)³⁷ 어릴 땐 무조건 화장품은 이름 있는 거 비싼 거가 좋은 줄만 알았다. 나이 들면 SK-II 나 설화수, 샤넬 이런 거 써야지 했는데 웬걸...최근 들어 느낀 점은 국내 천연성분의 자연주의 화장품 브랜드의 제품이 나에게 훨씬 잘 맞는다는 것이다. 물론 가격도 훨씬 착하고^^

Eli-l ttayn mwucoken hwacangphwum-un ilum iss-nun ke
 幼い-未来連体形 ときは 無条件 化粧品-は 名前 ある-現在連体形 もの
 pissa-n ke-ka coh-un cwul-man al-ass-ta. nai tul-myen SK-II-na
 高い-現在連体形 もの-が よい-現在連体形 こと-ばかり 分かる-過去-終結語尾 年 取る-条件 SK-II-や
 雪花秀, シャネル ilen ke sse-yaci hay-ss-nuntey waynkel...choykun tule
 雪花秀 シャネル こんな もの 使う-意志 思う-過去-が なんと 最近 入って
 nukki-n cem-un kwuknay chenyensengpwun-uy cayencwuuy hwacangphwum
 感じる-過去連体形 の-は 国内 天然成分-の 自然主義 化粧品
 pulayntu-uy ceyphwum-i na-eykey hwelssin cal mac-nun-tanun kes-ita.
 ブランド-の 製品-が 私-には ずっと よく 合う-現在-TANUN KES-ITA
 mwullon kakyek-to hwelssin chakhako^^

勿論 値段-も ずっと 安くて
 「幼いときは無条件に化粧品は名前があるもの高いものがよいのだと思っていた。年を取ると SK-II や雪花秀、シャネルのようなものを使おうと思ったが、なんと..最近

³⁷ <http://blog.naver.com/klj3486?Redirect=Log&logNo=50189360076> (2014年5月30日検索)

感じたのは国内の天然成分の自然主義化粧品ブランドの方が私にずっとよく合っているということだ。勿論値段もずっと安くて。」

(67)³⁸ 실내도 예뻐...ㅎㅎ 근데 제일 좋은 건 직원들이 정말 친절하다는 것이다.
매니저인지 사모님인지 정말 친절하심!!! ^0^

Silnay-to yeyppu-m...ㅎㅎ kuntey ceyil coh-un ken cikwen-tul-i cengmal

室内-も かわいい-名詞化辞 ところで 一番 よい-現在連体形 のは 店員-複数-が 本当に

chincelha-tanun kes-ita. maynice-incı samonim-incı cengmal chincelha-si-m!!! ^0^

親切だ-TANUN KES-ITA マネージャー-なのか 奥さん-なのか 本当に 親切だ-尊敬-名詞化辞

「室内もかわいい。ところで一番良いのは店員たちが本当に親切だということだ。マネージャーなのか、奥さんなのか本当にご親切だ。」

(66) では、書き手自身が幼い時は SK-IIや雪花秀、シャネルのような高価な化粧品がよいと認識していたが、「最近感じたのは国内の天然成分の自然主義化粧品ブランドの方が私にずっとよく合う」、(67) では、書き手自身があるカフェに対して交通の便やカフェの屋外からみた景色について述べているなかで、「室内のインテリアがかわいいのはもちろん、店員が本当に親切だ」という主観的に捉えられる書き手の感想や考えを示している。

従来「tanun kes-ita」は「伝聞」「換言」を代表とする形式であり、特に「換言」においては第3者から得られた事実・情報だけでなく、話し手自身の感想や考えに基づいた「換言」を表す(남가영 2009, 例文 (65)) ことが可能であったが、「換言」とは言えない話し手自身の感想や考えが「tanun kes-ita」と共起していることが分かった。

つまり、「tanun kes-ita」構文は、話し手自身の感想や考えのように、主観的に捉えられる実現可能性が確定した、もしくは相対的に実現可能性が高い事柄を表すことができ、これは機能上既存の「伝聞」「換言」とは異なる。特に、この場合は、書き手自身の感情、評価や考えを表明する際に、終結語尾「ta (다)」が用いられた断定で表してもいいはずである。

(66')(前略) cal mac-nun-ta (잘 맞는다, よく合っている).

(67')(前略) chincelha-ta (친절하다, 親切だ).

³⁸ <http://blog.naver.com/soyun5026/220265606625> (2015年3月16日検索)

しかし、(66) (67) では「cal mac-nun-tanun kes-ita (잘 맞는다는 것이다, よく合っているということだ)」「chincelha-tanun kes-ita (친절하다는 것이다, 親切だということだ)」のように、「tanun kes-ita」で文を締めくくることによって、書き手自身の感情、評価や考えなどを自ら引用しているような「自己引用」の効果が窺える。本研究では先行研究で指摘していなかった「tanun kes-ita」の新たな機能として、書き手自身によって主観的に捉えられる事柄に対して「間接説明」の機能を体現していると考ええる。

한송화 (2013) における「断言回避の婉曲的手段として、命題に対する引用話者の評価を避け、客観化することによって、事実に対する断言を避ける婉曲的な機能を果たしている」といった、「tanun kes-ita」に関する解説は、近年よく観察される (66) (67) のような「tanun kes-ita」の機能に当てはまる指摘であると考えられる。

以下、先行研究を踏まえ、本研究で「tanun kes-ita」が体現していると見られる機能をまとめると表 7 のようになる。

表 7 「tanun kes-ita」の機能

分類	先行研究	本研究
機能	「伝聞」「換言」	「伝聞」「換言」 「間接説明」

このように、近年「自己引用」のマーカースとして「間接説明」を表す「tanun kes-ita」がよく見受けられるが、これと類似した形式として、Rhee (2013) では以下のような「makilay (막이래)」³⁹を取り上げて説明している。

(68) 난 정말 착하고 이뻐. 막이래.

Nan cengmal chakhako ippu-e. makilay.

私は 本当に 優しくて かわいい-終結語尾 MAKILAY

「私は本当に優しくてかわいいうっていう。」

(69) 오빠 나 오늘 점심 사 줘. 막이래.

Oppa na onul cemsim sa cwu-e. makilay.

お兄ちゃん 私 今日 昼ごはん おごってくれる-終結語尾 MAKILAY

³⁹ 「makilay (막이래)」は「makwu ilehkey hay (마구 이렇게 해, 無謀にもこのように言う)」という文が縮まったものと述べている (Rhee 2013 : 482)。

「お兄ちゃん私に今日昼ごはんおごってくれっていう。」

(Rhee 2013 : 481; 原文はローマ字, 訳とグロスは筆者)

(68) では話し手が「私は本当に優しくてかわいい」といった話し手自身に対する感想や考え、(69) では彼氏に対して「昼ごはんをおごってほしい」という話し手自身の希望や要求を表しており、それらに「makilay」を付随して文を締めくくっている。

つまり、(68) (69) に示されるように、話し手が「自分に対する褒め」や「相手に対する要求」を表明する際に、文末に「makilay」が生起することによって、あたかも第 3 者によって発話されたかのように当該の事柄に対する断定を和らげる効果が生まれ、聞き手に対する押し付けがましさを軽減する役割を果たし、これは間主観化を示すマーカ一である (Rhee 2013 : 485) と述べられている。

また、メイナード (1997 : 151-166, 2000 : 296) によると、「自己引用」とは、自分が言う (言いたい) ことや考えることといった、自分の言動や思考を引用することであり、その機能として発話行為の軽減、強調、躊躇などが挙げられるという。そして「とかいって」「なーんちゃってな」「って」のような自己引用を通して、その意味は間接的になり、表現される感情はその分コントロールされるものとされている。

つまり、韓国語の「tanun kes-ita」は、「伝聞」「換言」だけでなく、書き手自身が当該の事柄に対して感想や考えなどを表明する際に、韓国語の「makilay」や日本語の「とかいって」「なーんちゃってな」「って」のような、「自己引用」のマーカ一として「間接説明」の働きを体現する。そして、表面的には「kes-ita」構文の 1 つとして位置づけながらも、「自己引用」の一種とも見なすことができよう。以下の表 8 は、「tanun kes-ita」を含めた韓国語のコピュラ付きの「kes-ita」構文を簡単にまとめたものである。

表 8 韓国語のコピュラ付きの「kes-ita」構文の機能

前接形式	文末形式	機能
「N」	「kes-ita」	「説明」
「tanun」		「伝聞」「換言」 「間接説明」
「I」		「推量」

本節では「tanun」を1つの連体形として認めることによって、「tanun kes-ita」を韓国語のコピュラ付きの「kes-ita」構文に位置づけることができた。さらに、「kes-ita」構文では、連体形語尾によって機能の分化が見られ、連体形語尾はそれぞれの機能の特徴付ける重要な役割を担っていることが分かった。

次節では「tanun kes-ita」からコピュラが省略された「tanun ke」について分析し、コピュラ無しの「ke(s)」構文に位置づけるを試みる。

4.3.2 「tanun ke」の機能

コピュラ無しの「tanun ke」は、コピュラ付きの「tanun kes-ita」からコピュラ「ita」が脱落した形式であり、さらに「kes」から子音「s」が省略された形態で現れるのが一般的である。4.1節で示した(57)の「命令・忠告」を表す「l kes」は、韓国語のコピュラ無しの文末名詞化構文としてもっとも代表的なものである。しかしながら、近年インターネットのブログでは「命令・忠告」の「l kes」以外にも、(70)～(73)に示すように、文末の「tanun ke」がよく見受けられる。

(70)=(60) 아이들이 먹는 거 보면 안 먹어도 배가 부르다는 거...

Ai-tul-i mek-nun ke po-myen an meketo pay-ka pwulu-tanun ke...

子供-複数-が 食べる-現在連体形 の 見る-条件 否定 食べても お腹-が いっぱいになる-TANUN KE

「子供が食べているのを見ると、食べなくてもお腹がいっぱいになるということ。」

(71)⁴⁰ 대구인데도!! 추워도 너~~무 춥다는 거!~~

Taykwu-inteyto!! chwuweto ne~~~mwu chwup-tanun ke!~~

地名-なのに 寒くても あまりにも 寒い-TANUN KE

「大邱なのに、（今年がいくら）寒いと言ってもあまりにも寒いということ。」

(72)=(13) 오늘은 던킨에 갔다는 거~~

Onul-un tenkhin-ey ka-ss-tanun ke~~

今日-は tenkhin-に 行く-過去-TANUN KE

「今日はダンキン（ドーナッツ）に行ったということ。」

(73)⁴¹ 오늘은 더 재밌게 놀았다는 거~♥

Onul-un te caymisskey nol-ass-tanun ke~♥

今日-は もっと 楽しく 遊ぶ-過去-TANUN KE

「今日はもっと楽しく遊んだということ。」

⁴⁰ <http://blog.naver.com/kbsnann/70155338588> (2013年1月17日検索)

⁴¹ http://first_1124.blog.me/70169057178 (2014年7月2日検索)

まず、(70) (71) は「お腹がいっぱいになる」「寒い」という書き手自身の評価や考え、(72) (73) は「行った」「遊んだ」という書き手自身の経験を表しており、それぞれ書き手にとって実現可能性が確定した実現の事柄を表す際に「tanun ke」が用いられている。

次に (74) (75) はそれぞれ書き手自身の意志、予想、推測のような非現実の事柄の「生きていくことにする」「作ることができそうだ」を表す際に「tanun ke」が用いられている。

(74)⁴² 결국 내린 결론은...아이의 그림자가 되어 살아야겠다는 거!^^

Kyelkwuk nayli-n kyellon-un...ai-uy kulimca-ka toyé salaya keyss-tanun ke!^^

結局 出す-過去連体形 結論-は 子供-の 影-になって 生きていくことにする-TANUN KE

「結局出した結論は...子供の影になって生きていくことにするということ。」

(75)⁴³ 아무튼...집에서 만들 수 있을 것 같다는 거ㅋㅋㅋ

Amthun...cip-eyse mantu-l swu issu-l kes kath-tanun ke ㅋㅋㅋ

とにかく 家-で 作る-未来連体形 こと ある-未来連体形 そうだ-TANUN KE

「とにかく...家で作ることができそうだということ。」

以上の (70)~(75) は、書き手自身が現実あるいは非現実の事柄を表明する際に、以下の (70')~(75') に示されるように、韓国語の言い切りの終結語尾「ta (다)」を用いて表してもいいはずである。

(70')(前略) pay-ka pwulu-ta (배가 부르다, お腹がいっぱいになる).

(71')(前略) ne~~~mwu chwup-ta (너무 춥다, あまりにも寒い).

(72')(前略) tenkhin-ey kass-ta (던킨에 갔다, ダンキンに行った).

(73')(前略) te caymiss-key nolass-ta (더 재밌게 놀았다, もっと楽しく遊んだ).

(74')(前略) salaya keyss-ta (살아야겠다, 生きていくことにする).

(75')(前略) mantu-l swu issu-l kes kath-ta (만들 수 있을 것 같다, 作ることができそうだ).

しかしながら、なぜ書き手自身は感情・考え、経験、意志、予想、推測などの事柄に対して「tanun ke」という形式を用いているのであろうか。

文末の「tanun ke」は、実現可能性が相対的に高い事柄を表す連体形語尾「tanun」と

⁴² <http://blog.naver.com/rlatnwjd41/110143969160> (2012年12月8日検索)

⁴³ <http://blog.naver.com> (2012年12月8日検索)

「ke」の共起によって、書き手が自分の感情・考え、経験のような実現可能性が確定した事柄（書き手にとっての現実）、あるいは厳密には非現実であるが、自分の意志、予想、推測のように相対的に実現可能性が高いと主観的に捉えられる事柄を間接的に「報告・伝達」する機能を有すると考えられる。

次節では「報告・伝達」を表す「tanun ke」がどのような語用論的機能を表しているのかについて述べる。

4.3.2.1 「tanun ke」の語用論的機能

前節では文末の「tanun ke」が、コピュラ無しの「ke(s)」構文の1つとして「報告・伝達」を表していることが分かった。本節では「報告・伝達」を表す「tanun ke」の語用論的機能について検討する。

まず、「tanun ke」は、(76)～(78)のように書き手における評価や考え、経験に対して意外感、ユーモア、残念さ、嬉しさなど、主観的な態度を表す例が観察される。

(76)⁴⁴ 외고에서 러시아어를 전공한 신랑...영어도 조금 하는 우리 신랑.

헌데 이곳은...독일어를 사용한다는 거ㅋㅋㅋ

Oyko-eyse lesiae-ul cenkongha-n sinlang...yenge-to ccokkum ha-nun

外高-で ロシア語-を 専攻する-過去連体形 主人 英語-も 少し する-現在連体形

wuli sinlang. hentey ikos-un...tokile-ul sayongha-n-tanun ke ㅋㅋㅋ

うち 主人 ところが ここは ドイツ語-を 使う-現在-TANUN KE

「外高（外国語高等学校の略語）でロシア語を専攻した主人...英語も少し喋るうちの主人。ところがここは...ドイツ語を使うということ。」

(77)⁴⁵ 다용양을 위해 만든 리본!! 하지만 다용양이 시리 (ママ) 한다는 거-;-;

Tayong-yang-ul wihay mantu-n liponppin!! haciman tayong-yang-i

人名-ちゃん-を ために 作る-過去連体形 リボンフィン しかし 人名-ちゃん-が

sileha-n-tanun ke-;-;

嫌がる-現在-TANUN KE

「ダヨンちゃんのために作ったリボンフィン。しかしダヨンちゃんが嫌がるということ。」

(78)⁴⁶ 도보이동의 좋은 점 중 하나는 이런 대형마켓에서 군것질이 가능하다는 거..ㅎ

Topoitong-uy coh-un-cem-cwung hana-nun ilen tayhyeng makheys-eyse

⁴⁴ <http://blog.naver.com/sso22sso22/192721726> (2013年7月15日検索)

⁴⁵ <http://blog.naver.com/bbo1777/90162429837> (2013年7月15日検索)

⁴⁶ <http://blog.naver.com> (2013年6月8日検索)

徒歩移動-の 良い-現在連体形-点-中 1つは こんな 大手 マーケット-で
kwunkescil-i kanungha-tanun ke..ㅎ

買い食い-が 可能だ-TANUN KE

「徒歩移動の良い点の1つはこんな大手マーケットで買い食いが可能だということ。」

(76) では主人は外高でロシア語を専攻し、しかも英語も少し喋れるが、旅行先のオーストリアではドイツ語が用いられているといった客観的な事柄に対して、「tanun ke」を後接させることによって、期待とは異なる事柄に遭遇した意外感とその事柄がユーモラスに捉えられていることが伝わる。また、(77) は文末に「tanun ke」が生起することによって、書き手の母が娘のためにせっかくリボンフィンを作ったが、意外と気に入ってもらえなかったという事柄に対する意外感と残念な気持ちが示されている。(78) では徒歩移動の良さは大手マーケットで買い食いが可能であるという事柄に対して「tanun ke」が後接することによって、当該の事柄に対する嬉しさという書き手の主観的態度が示されている。

つまり、以上の (76)~(78) は当該の事柄に対して、「tanun ke」で文を締めくくることによって意外感、ユーモア、残念さ、嬉しさなど様々な主観的な態度を表している。

次に「tanun ke」は箇条書きにすることも可能であり、いくつかの項目に分けて書き並べることによって、当該の事柄に対する注意喚起、関心を呼びかけている。

(79) ⁴⁷ 슬로푸드의 대명사인 떡...사는데 훨씬 쉽다는 거...사는데 훨씬 맛있다는 거...사는데 훨씬 예쁘다는 거...그래도 사는 건 설탕 덩어리라는 거...만든건 조금 더 몸에 좋을 거라는 거...

Sulowuphutu-uy taymyengsa-in ttek... sa-nun-key hwelssin swip-tanun ke...

スローフード-の 代名詞-の 餅 買う-現在連体形-のが ずっと 易しい-TANUN KE

sa-nun-key hwelssin masiss-tanun ke... sa-nun-key hwelssin

買う-現在連体形-のが ずっと 美味しい-TANUN KE 買う-現在連体形-のが ずっと

yeyppu-tanun ke... kulayto sa-nun-ken selthang tengeli-lanun ke...

可愛い-TANUN KE それにしても 買う-現在連体形-のは 砂糖 固まり-LANUN KE

mantu-n-ken cokumte mom-ey coh-ul ke-lanun ke...

作る-過去連体形-のは もっと 体-に 良い-未来連体形 KES(ITA):推量-LANUN KE

「スローフードの代名詞の餅...買うのが（作るより）ずっと易しいということ...買うのが（作るより）ずっと美味しいということ...買うのが（作るより）ずっと可愛

⁴⁷ http://minihp.cyworld.com/pims/main/pims_main.asp?tid=21686421 (2013年6月21日検索)

いということ...それにしても買うのは砂糖の固まりだということ...作ったのはもっと体に良いだろうということ...

以上の (79) はスローフードの代名詞の餅に対して、書き手が「買うのが（作るより）ずっと易しい、買うのが（作るより）ずっと美味しい、買うのが（作るより）ずっと可愛い、買うのは砂糖の固まりだ、作ったのはもっと体に良いだろう」といった、主観的な評価や考えを述べる際に、「tanun ke (lanun ke)」⁴⁸を後接して文を締めくくっている。よって、主観的に捉えられる事柄に対して、間接的な捉え方を獲得しつつ、注意喚起、呼びかけを引き起こしており、この機能は「tanun ke」によるものであると考えられる。

また、(79) と同様に、以下の (80) (81) においても書き手自身の感情、評価や考えに対して、相手（読み手）の注意を向けようとしている機能が顕著に見られる。

(80)⁴⁹ 제가...느낀 것이...자상하고 센스있는 남자들이 많다는 거~ㄷ

Cey-ka... nukki-n kes-i...casanghako seynsuiss-nun namca-pwun-tul-i

わたくしが 感じる-過去連体形 のが 優しくて センスある-現在連体形 男性-尊敬-複数-が

manh-tanun ke~ㄷ

多い-TANUN KE

「わたくしが...感じたのが...優しくてセンスのある男性の方が多いということ。」

(81)⁵⁰ 사진으로 보면 감이 잘 안오실테지만, 음식 양이 어마어마하다는 거~ㅎ

Sacin-ulo po-myen kam-i cal an-o-si-l-theyciman, umsik yang-i

写真-で 見る-条件 見当-が あまり 否定-付く-尊敬-未来-が 食べ物 量-が

emaemaha-tanun ke~ㅎ

とてつもない-TANUN KE

「写真で見ると見当がお付きにならないと思うが、食べ物の量がとてつもないということ。」

以上の (80) (81) では、書き手が自分の感情、評価や考えを読み手に訴える際に敬語表現が用いられている。具体的には、(80)「優しくてセンスのある男性の方が多い」、(81)「食べ物の量がとてつもない」という書き手自身の評価や考えのような、主観的な事柄を提示する際に、波線で示した「私」を表す謙譲語「cey (제)」、「人」を表す尊

⁴⁸ 「tanun ke」の異形態として、特に名詞が前接する場合、その名詞が母音で終わると「lanun ke (라난 거)」、その名詞が子音（パッチム）で終わると「ilanun ke (이러난 거)」となる。

⁴⁹ <http://blog.naver.com> (2013年6月8日検索)

⁵⁰ <http://blog.naver.com> (2013年7月20日検索)

敬語「pwun (분)」、尊敬を表す先語末語尾「si (시)」などの敬語表現が用いられている。「実際ブログで使われている敬語表現は読み手に対する意識や配慮と捉えており、多くのブログが読み手を意識して書いている(渡辺 2007)」という報告があるように、敬語表現は、読み手の存在を認識し、当該の事柄に対して注意を向けさせたい標識とも言えよう。

さらに、「tanun ke」は以下のようにある話題を持ち出すような前置きとしての機能が窺える。

(82)⁵¹ 주머니도 있다는 거~~!! 완전 퀄리티 짱짱~~ㅋㅋ

Cwumeni-to iss-tanun ke~~!! wancen khwellithi ccangccang~~ㅋㅋ

ポケットも ある-TANUN KE 完全 クオリティ 最高

「ポケットもあるということ。完全クオリティ最高。」

(83)⁵² 대박!! 완전 감놀했다는 거!!!....예쁜 거 같아요!

Taypak!! wancen kkamnolhay-ss-tanun ke!!!....yeyppu-n-ke kath-ayo!

ラッキー 完全 びっくりする-過去-TANUN KE 可愛い-現在連体形-みたいだ-終結語尾

「ラッキー。完全にびっくりしたということ。可愛いみたいです。」

(82) (83) の書き手は「ポケットもある」「びっくりする」に「tanun ke」を後接させることによって、それぞれ「完全クオリティ最高」「可愛いみたいです」といった主要内容に先立ち、それを導入する前置きの機能をしている。

つまり、「tanun ke」構文は (70)~(75) に示されるように、書き手自身が当該の事柄に対する感情や評価、考え、意志、推測などを表す際に、「tanun ke」を付加することによって、その主観的な事柄を読み手に対して間接的に「報告・伝達」する機能が確認できた。さらに、「tanun ke」の語用論的機能としては、大きく2つの機能に分けられる。まず、(76)~(78) では当該の事柄に対して「tanun ke」で文を締めくくることによって、その事柄に対する意外感、ユーモア、残念さ、嬉しさなど、主観的な態度を表明する「主観化」のマーカースとして用いられているとともに、ストラテジー8「冗談を言う」といった「ポジティブ・ポライトネス」のマーカースとしても見て取れる。

また、(79)~(83) では、読み手に注意を向けさせたり、共感や気づきを感じさせたりするような「間主観化」のマーカースとして機能している。これは相手に抵抗なく受け入

⁵¹ <http://blog.naver.com> (2013年5月6日検索)

⁵² <http://blog.naver.com> (2013年5月7日検索)

れられやすく伝え、相手との距離を縮めることによって親密さを表すなど、ストラテジー1「相手に気づき・注意を向ける」、ストラテジー7「共通基盤を想定・喚起・主張する」といった、「ポジティブ・ポライトネス」のマーカであるとも解釈できる（「ポジティブ・ポライトネス」については Brown and Levinson 1987, 「主観化」「間主観化」については Traugott 2003 を参照）。

要するに、本研究で取り上げているコピュラ無しの「tanun ke」は、コピュラ付きの「tanun kes-ita」と形態上連続していながら、書き手自身の感情や評価、考え、経験などを述べる際に用いられるなど、書き手自身による主観的な事柄に対して「tanun ke」が付加する点で「tanun kes-ita」と共に「自己引用」のマーカとして捉えることができる。また、コピュラ無しの「tanun ke」はコピュラ付きの「tanun kes-ita」に比べ、より読み手を意識・配慮するような敬語表現が使われることもあり、さらに、書き手自身による主観的な事柄に対して、読み手の注意や関心を引こうとするなど、間接的な「報告・伝達」の機能を有しつつ、様々な語用論的機能を果している。

次節では「tanun ke」と一緒に、コピュラ無しの「ke(s)」構文に位置づけられる「N ke」について述べる。

4.4 韓国語のコピュラ無しの「ke(s)」構文の位置づけ

従来韓国語においてコピュラを伴わない「ke(s)」構文としては、唯一「命令・忠告」の「I kes」が取り上げられてきており、それは未来連体形語尾が結合するという特徴を有している。前節では「実現可能性」を表す「tanun」を連体形語尾の1つとして見なすことによって、コピュラ無しの「tanun ke」に関してコピュラ無しの「ke(s)」構文に位置づけることができた。

以下では「命令・忠告」の「I kes」と「報告・伝達」の「tanun ke」を踏まえ、過去・現在連体形語尾が前接する「N ke」の機能も併せて分析する。

4.4.1 「N ke」の機能

ここでは、既存の先行研究で扱っている「I kes」、前節で取り上げた「tanun ke」以外にも、従来には不完全なものが見なされてきたコピュラ無しの「N ke」が観察されることに注目したい。

(84)⁵³ 부러우면 지는 거...

Pwulewu-myen ci-nun ke...

うらやましがる-条件 負ける-N KE

「うらやましがると、負けるの。」

(85)⁵⁴ 하루종일 집에만 있는데도 위메 겁나게 피곤한 거..

Halwucongil cip-ey-man iss-nuntay-to wemey kepnakey phikonha-n ke..

終日 家-に-だけ いる-けれども ああ とても 疲れる-N KE

「終日家(の中)にだけいるけれども、ああとても疲れたなあ。」

(86)=(14) 미친 ㅋㅋ 나 얼마나 잔 거.

Michi-n ㅋㅋ na elmana ca-n ke.

狂う-過去連体形 私 どれぐらい 寝る-N KE

「頭おかしくなった。私どれぐらい寝たの。」

(87)⁵⁵ 노랑진 길거리 음식!은 그냥 먹으러 간 거...★

Nolyangcin kileli umsik!-un kunyang mekule ka-n ke...★

地名 路上 食べ物-は ただ 食べに 行く-N KE

「鷺梁津の路上の食べ物はただ食べに行ったの。」

以上の「N ke」は、過去・現在連体形が前接する特徴を持っており、それぞれ書き手の感情や評価、考え、経験といった現実の事柄を表す際に用いられており、実現可能性が確定した、もしくは実現可能性が高い事柄として捉えられている点で「tanun ke」と平行的である。

しかし、「実現可能性」を表す連体形と共起し、より間接的に「報告・伝達」を表す「tanun ke」とは異なって、過去・現在連体形のような「現実」を表象するマーカーと共起する「N ke」は、当該の事柄に対してより直接的に「断言・主張」する機能が窺える。次節では「断言・主張」を表す「N ke」の機能を踏まえながら、その語用論的機能について述べる。

4.4.1.1 「N ke」の語用論的機能

本節では「断言・主張」を表す「N ke」の語用論的機能について検討する。

以下の (88) (89) では「疲れる」「美味しい」といった書き手の感情や考えを表す際に、

⁵³ http://blog.naver.com/modern_k_/60207028791 (2014年8月18日検索)

⁵⁴ <http://blog.naver.com/harada01/50152828795> (2013年1月25日検索)

⁵⁵ <http://blog.naver.com/duddms3310/20179586736> (2013年1月25日検索)

「N ke」で文を締めくくることによって「詠嘆・感嘆」を表すことができる。

(88)⁵⁶ 새벽 2 시에 도착하다. 워메 피곤한 거...ㄷ

Saypyek twusi-ey tochakhata. wemey phikonha-n ke...ㄷ

明け方 2時-に 到着する ああ 疲れる-N KE

「明け方2時に到着する。ああ疲れたなあ。」

(89)⁵⁷ 밥 먹으며 반주로 에비스. 워메 맛있는 거~~

Pap mek-umye pancwu-lo eypisu. wemey masiss-nun ke~~

ご飯 食べる-ながら 晩酌-で エビス ああ 美味しい-N KE

「ご飯を食べながら晩酌でエビス（ビール）。ああ美味しいなあ。」

文末に用いられた「N ke」は、日本語の「ああ・まあ」に相当する感動詞の「wemey」と共起することで、さらに「詠嘆・感嘆」の機能が強められている。本来「wemey」は「詠嘆・感嘆」を示す全羅道地域の方言であるが、「N ke」との組み合わせによって、(88)の「wemey phikonha-n ke (워메 피곤한 거, ああ疲れたなあ)」、(89)の「wemey masiss-nun ke (워메 맛있는 거, ああ美味しいなあ)」以外にも、「wemey coh-un ke (워메 좋은 거, ああ良いなあ)」「wemey siwenha-n ke (워메 시원한 거, ああ涼しいなあ)」といった「疲れる」「美味しい」「良い」「涼しい」のような事柄に対する「詠嘆・感嘆」を表すことができる。

また、以下の(90)～(92)は書き手が何らかの答えや情報を期待せず、独話的な言い方で事柄に対する再認識を示すような働きをしている。

(90)⁵⁸ 두 손 가지런히 모으고 뭐 하고 있는 거?

Twu son kacilenhi mouko mwe ha-ko iss-nun ke?

両手 丁寧に 揃えて 何 する-ている-N KE

「両手を丁寧に揃えて何をしているの。」

(91)⁵⁹ 내 ophimesu G 는 언제 오는 거...

Nay ophimesu G-nun encey o-nun ke...

私 optimusG-は いつ 来る-N KE

「私のoptimusG（スマホ）はいつ来るの。」

⁵⁶ <http://blog.naver.com/handa0/20114025173> (2013年9月23日検索)

⁵⁷ <http://parosh.blog.me/10169834347> (2013年9月23日検索)

⁵⁸ <http://blog.naver.com> (2013年7月15日検索)

⁵⁹ <http://blog.naver.com/bulkokibuger/20179795531> (2013年7月15日検索)

(92)⁶⁰ 일본빵 /9층 생크림 크레프, 정말 이렇게 맛있어도 되는 거?

Ilponppang /9chung sayngkhulim khuleyphu, cengmal ilehkey masisseto

日本パン /9層 生クリーム クレプ 本当に こんなに 美味しくても

toy-nun ke?

いい-N KE

「日本のパン /9層の生クリーム・クレプ、本当にこんなに美味しくてもいいの。」

(90) は両手を丁寧に揃えている自分の子供に対して、直接的に答えを求めているのではなく、ただ疑問に思っているだけでそれを独話的に述べており、(91) も読み手に何かを積極的に伝えるのではなく、独話的な言い方を示している。また、(92) は 9 層の生クリームのクレプが美味しいという驚きに基づいた再認識を示しており、読み手に何らかの答えや情報を求めているわけではない。このように、「N ke」構文は、聞き手の存在を前提とせず、「詠嘆・感嘆」を表明する場合や、独話的な言い方で再認識を表す場合など、話し手の主観的な態度を表す語用論的機能への拡張が見られた。次節では、韓国語のコピュラ無しの「ke(s)」の位置づけとその機能について述べる。

4.4.2 韓国語のコピュラ無しの「ke(s)」構文の機能

本研究では、コピュラ無しの「ke(s)」構文として、すでに安定した「命令・忠告」を表す「l kes」を踏まえながら、「tanun ke」は「報告・伝達」、「N ke」は「断言・主張」を表す形式として、コピュラ無しの「ke(s)」構文への位置づけを試みた。特に、従来の研究で取り上げることのなかった「tanun ke」と「N ke」は書き手自身の感情や評価、考え、経験といった実現可能性の程度が高い現実の事柄に対して述べている共通点はあるながらも、「tanun ke」に限っては書き手の意志、予想、推測のような非現実の事柄を表すことができるため、両者の間には実現可能性の程度の相違が見られる。韓国語のコピュラ無しの「ke(s)」構文の機能を簡単にまとめると以下の表 9 のようになる。

表 9 韓国語のコピュラ無しの「ke(s)」構文の機能

前接形式	文末形式	機能
「N」	「ke(s)」	「断言・主張」

⁶⁰ <http://japankuru.com/150168897373> (2013年7月15日検索)

「tanun」		「報告・伝達」
「I」		「命令・忠告」

さらに、コピュラ無しの「ke(s)」構文はコピュラ付きの「kes-ita」構文と同じく、前接する連体形語尾によって機能の分化が見られ、それぞれの「N ke」「tanun ke」「I kes」はコピュラ付きの「N kes-ita」「tanun kes-ita」「I kes-ita」と形態的連続性が見られることが分かった。次節では、実現可能性の観点から「kes(-ita)」構文の相対的位置づけについて述べる。

4.5 実現可能性の観点からみた「kes(-ita)」構文の相対的位置づけ

韓国語の文末名詞化構文「kes-ita」に位置づけられる「I kes-ita」「N kes-ita」「tanun kes-ita」は、前接する連体形語尾による機能の使い分けのみならず、実現可能性の程度の度合いにおいても相違が見られる。要するに、実現可能性の観点から考えてみると、まず、「推量」の「I kes-ita」はまだ行われていない事柄に対して述べているため、実現可能性が一番低い。そして「説明」の「N kes-ita」は現在行われている事柄、あるいは既に行われた事柄に対して述べていることから実現可能性が一番高い。また実現可能性の度合いにおいて、その間に位置づけられるのが「間接説明」の「tanun kes-ita」である。つまり、「tanun kes-ita」は前接する連体形語尾の「tanun」から分かるように、表面的に現在連体形語尾の形態をとっているが、「N kes-ita」のように「現実」を表象するのではなく、「蓋然性」の度合いとも言える「実現可能性」を表すものである。そのため、当該の事柄に対してあくまでも書き手自身の感情や評価、考えを断言せず、その実現可能性を間接的に表している。

また、コピュラを伴わない「ke(s)」構文に関しては、(84)～(87)の「N ke」構文は、書き手自身の現実の事柄に対する感情や評価、考え、経験などを「現実」として捉え、表しているため、実現可能性の程度が高い。これに対して、(57)の「I kes」の場合、書き手は非現実の事柄に対して述べているのは確かであるが、その動作を行う主体は読み手（聞き手）になることから、実現可能性の程度は相対的に低い。そして、この両者の中間に位置づけられる「tanun ke」に関しては、書き手が現実の事柄を表現する場合、より間接的な捉え方を示すことや、書き手の意志、予想、推測のような非現実の事柄に対して共起可能など、「N ke」より相対的に実現可能性の程度が低くなる。また、非現

実の事柄を表明する場合、書き手自身がその動作の主体となるため、「I kes」に比べ、相対的に実現可能性の程度は高くなると考えられる。

前接する連体形語尾による「kes(-ita)」構文の実現可能性の度合いに関して、ここまでの観察をまとめると、図1のように実現可能性の度合いの高さの異なりを示すことができる。

形式	「I kes(-ita)」	「tanun ke(s-ita)」	「N ke(s-ita)」
実現可能性の度合い	低 ←=====→ 高		

図1 文末の「kes(-ita)」構文の表す実現可能性の度合い

つまり、「tanun ke(s-ita)」を「kes(-ita)」構文の1つとして見なしつつ、実現可能性の観点から「I kes(-ita)」と「N ke(s-ita)」の間に位置づけられることが分かった。

以上、当該の事柄の成立における実現可能性の観点からコピュラ付きの「kes-ita」構文、コピュラ無しの「ke(s)」構文を取り上げ、それらの機能および相対的な位置づけを検討した。次節では韓国語の「tanun ke(s-ita)」に対応する日本語の「ということ(だ)」との対比を通して両者の類似点や相違点を明らかにする。

4.6 韓国語の「tanun ke(s-ita)」と日本語の「ということ(だ)」との対比

以上、韓国語の「kes(-ita)」構文では、前接する連体形やコピュラの有無による機能の分化や、実現可能性の観点からそれらの相対的位置づけを検討した。その「kes(-ita)」構文のうち、本研究で新奇表現として認めているコピュラ付きの「tanun kes-ita」は、既存の「伝聞」「換言」を表す機能以外にも、「自己引用」のマーカースとも言える「間接説明」を表すことも可能であった。また、コピュラ無しの「tanun ke」は「報告・伝達」、コピュラ無しの「N ke」は「断言・主張」を表すことが分かった。

本節では韓国語の「tanun ke(s-ita)」に相当する日本語の「ということ(だ)」を取り上げる。そして日本語のコピュラ付きの「ということだ」は「伝聞」「換言」以外に、新たな機能拡張が見られるのか。また、日本語の「ということ(だ)」は前接する連体形やコピュラの有無によって機能の分化が見られるのかという、2点に絞り、韓国語の「tanun ke(s-ita)」と対比を行う。

4.6.1 コピュラ付きの「ということだ」に関する分析

まず、日本語の「ということだ」について分析する前に、先行研究で取り上げている具体的な例を提示する。

(93) 専門家の話では、もう噴火の可能性はあまりないということだ。

(94) A : 安全確認を怠ったために起きた事故だ。

B : つまり、人災だということですね。(日本語記述文法研究会 2003 : 228)

日本語の「ということだ」は、(93) では「伝聞」、(94) では「換言」を表しており、韓国語の「tanun kes-ita」と同様の機能が見られる。

4.3 節で述べたように、韓国語の「tanun kes-ita」は「伝聞」「換言」を表す機能を表しており、特に「換言」を表す場合は、相手の発話に対する「換言」だけでなく、話し手自身の発話に対して「換言」することも可能であったが、日本語の「ということだ」においても同様のことが見られる。以下に例を示す。

(95)⁶¹ うさぎの喜ぶことって何ですか？

先週ライオンラビットを衝動買いしてしまったのですが理想としては何処へ行くにも勝手についてきたり寝るときは隣で寝たり...

とにかく「めっちゃなついて欲しい(^ 〇 ^)」ってことです。

ま〜無理なのは分かっていますが(ーΩー;) 現在の状況は外出時はゲージで家に居るときは部屋の中を放し飼いです^^ 呼んでも来てくれませんが、興味本位かけっこう寄って来てくれますし、ほお擦りやなでなでしても嫌がるそぶりはみせません。ただ...もっとなついて欲しい...

(95) では、書き手は先週からラビットを飼っているが、今よりもっとなついてもらいたいという気持ちを「めっちゃなついて欲しい(^ 〇 ^)」ってことですと述べている。これは一見書き手自身の感情や考えを述べているように見えるが、先行する文脈「先週ライオンラビットを衝動買いしてしまったのですが理想としては何処へ行くにも勝手についてきたり寝るときは隣で寝たり...」という書き手自身の感情や考えに基づいて、「換言」の機能を果たしていることが分かる。

韓国語の「tanun kes-ita」は近年ネット上で書き手自身の感情や考えを述べる際に、「換

⁶¹ http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1463645454 (2013年7月15日検索)

言」ではなく、「自己引用」のマーカースとして「間接説明」を表す機能が生産的に観察されている。これに対して、日本語の「ということだ」はネット上のブログの書き込みや話し言葉などで、「換言」を表す機能は顕著に見られるものの、「tanun kes-ita」のように「自己引用」のマーカースとして「間接説明」を表す機能はあまり見当たらない。

次に、日本語の「ということだ」は、韓国語の「kes-ita」と同じく前接する連体形による機能の分化は見られるのであろうか。まず、「ことだ」の用法において、「という」の介在の有無に着目した以下の例を見られたい。

- (96) なにかどうもやれなくて、もっぱらロールシャッハをやっていたんです。
つまりその頃、ぼくはカウンセリングをしなかったということですね。
- (97) 卒論のときもそういうふうにすることだね。
- (98) このまま廻りつづけ、きりきり舞いをして、点のように小さく凝り固まる前に、渦巻きから自分をはじき出してみることだ。(益岡 2007 : 99)

まず、(96) は帰結説明の伝達系として、主として「という」が介在する「ということだ」の形態をとっている。また、(97) と (98) は当為内容説明の用法を持ち、前者は伝達系として聞き手がすべき事柄を、後者は認識系として話し手がすべき事柄を表す場合に用いられると述べている (益岡 2007 : 98-99)。以上を簡単にまとめると表 10 の通りである。

表 10 益岡 (2007) による「ことだ」の機能

前接形式	文末形式	機能	
「という」が介在	「ことだ」	帰結説明	伝達系
「という」が介在しない		当為内容説明	伝達系
			認識系

益岡は文末に生起する「ことだ」において、前接する「という」を弁別基準として扱ってはいるが、既存の「ことだ」の多様な機能をまとめたとは言い難い。そのため、本節では「という」のみならず「ことだ」に前接する形態を「ル形」「タ形」「という」という、3 種類に分類しそれぞれの機能を考えてみたい。まず、以下に例を示す。

(99) 早く治りたいのなら、とにかくゆっくり休むことだ。

(日本語記述文法研究会 2003 : 219)

(100) まったく世話の焼けることだ。(日本語記述文法研究会 2003 : 227)

(101) よく、こんなにたくさん集めたことだ。(日本語記述文法研究会 2003 : 227)

(102)⁶² 彼は去年死亡したということだ。

(103)⁶³ 結局われわれは信用されていないということだ。

(99) の「助言・忠告」を表す「ことだ」は、「ル形」のみ前接することが可能であり、(100) (101) の「感心・あきれ」を表す「ことだ」は、「ル形」と「タ形」両方とも共起可能である。また、(102) (103) の「ことだ」は「という」が前接してそれぞれ「伝聞」、「換言」という機能を果たしている。以上を簡単にまとめると表 11 のようになる。

表 11 日本語のコピュラ付きの「ことだ」構文の機能

前接形式	文末形式	機能
「ル形」	「ことだ」	「助言・忠告」 「感心・あきれ」
「タ形」		「感心・あきれ」
「という」		「伝聞」「換言」

以上「tanun kes-ita」を含む「kes-ita」構文を踏まえて、「ということだ」が含まれている表 11 の「ことだ」構文との対比の結果を述べると以下のようである。

「kes-ita」は前接する連体形語尾によって明確な機能の分化が見られ、過去・現在連体形が前接すると「説明」、未来連体形が前接すると「推量」、実現可能性を表す連体形「tanun」が前接すると「間接説明」を表す(表 8 を参照)。これに対して、「ことだ」の場合、「ル形」が前接すると「助言・忠告」や「感心・あきれ」、「タ形」が前接すると「感心・あきれ」、「という」が前接すると「伝聞」「換言」を表すことが分かった。逆に言うと、「感心・あきれ」を表す場合は「ル形」や「タ形」両方が共起できる一方、「助言・忠告」を表す場合は「ル形」のみ、「伝聞」「換言」を表す場合は「という」のみ共起するなど、後者においては前接する形式による明確な機能の分化が見られた。

⁶² <http://kotobank.jp> (デジタル大辞泉)

⁶³ <http://kotobank.jp> (デジタル大辞泉)

このように、日本語の「ことだ」は部分的に前接する連体形による機能の分化が見られることが分かった。次節ではコピュラ無しの「ということ」について分析する。

4.6.2 コピュラ無しの「ということ」に関する分析

韓国語のコピュラ無しの文末名詞化構文は未来連体形語尾「l」が共起する「l kes」に限って、(57) のような「命令・忠告」の機能を有するなど、コピュラ付きの文末名詞化構文「kes-ita」以外はコピュラの有無による機能の分化がないと指摘されてきた(김정민 2011)。しかしながら、本研究では「l kes」以外にも、コピュラ無しの「tanun ke」「N ke」に関して、それぞれ「報告・伝達」「断言・主張」の機能を有する形式としてコピュラ無しの文末名詞化構文に位置づけることができた。

以下、韓国語のコピュラ無しの「tanun ke」に対応する日本語のコピュラ無しの「ということ」の例を取り上げる。

- (104)⁶⁴瑞恵：何やってるんだらう私。いい気になって調子に乗って、やっぱり家を空けるなんて間違ってたのよ。仕事を始めたのも間違いだったと思う。
- 聡子：え、どうして。
- 瑞恵：ガラスに自分で手を突っ込むなんて、主人が言う通り母親失格よ。
- 聡子：仕事、もう辞めるってこと？
- 奈央：契約とれてあんなに嬉しそうだったし、生き生きしていたじゃないですか。
- 聡子：瑞恵が仕事を辞めれば解決する問題なのかな。
- 瑞恵：え～
- 聡子：瑞恵があんなに働きたいと思った気持ちはどうなるの。無理に押し込めると別の形で歪が出てくるかもしれない。

(104) では息子がガラスに自分で手を突っ込んで怪我をした事故があり、主人から母親失格と言われたことを認めていると同時に自分(瑞恵)を責めている場面である。こういった状況から、友達である聡子は瑞恵の心境を察し、「仕事、もう辞めるってこと」という言い換えを通して発言の適否を聞き手に確認するような働きが見られる。これは、おかれた状況から読み取れる内容を「換言」して推量・確認していると考えられる。

韓国語の「tanun kes-ita」が先行研究で指摘された「伝聞」「換言」の機能以外に、4.3

⁶⁴ 2008 年 TBS テレビで放送された「Around 40」の第 9 話から抽出した用例である。

節の (66) (67) のように、書き手自身の感情や評価、考えを表す際に「間接説明」の機能を体現しているのとは異なり、日本語の「ということだ」は「伝聞」「換言」の機能のみが主として用いられている。

また、コピュラ「だ」が省略され、文末に単独で生起する「ということ」は、縮約された「ってこと」という形式で頻繁に見られるが、コピュラの有無による語用論的機能の異同はあまり感じられない。例えば相手が目上の人であると想定する場合、(104) のコピュラ無しの「ということ」を (105) のコピュラ付きの「ってことですか」のような丁寧体と言い換えることが可能であろう。

(105) 仕事、もう辞めるってことですか？

また、以下の (106) のようにコピュラ付きの「ってことですか」を、(107) のようなコピュラ無しの「ということ」に置き換えることも可能である。

(106)⁶⁵黒岩：里中君、聞いたわよ。小笠原さん、いなくなっちゃうんだって。

森：小笠原さんが？

浅野：本当ですか、主任。

里中：契約が切れるまでは働いてもらいます。

浅野：今月いっぱい...ってことですか。

近：まあ、しかたないことじゃないかな。年も年だし、あまり役に立ってなかったし。

黒岩：まあね。これだけ派遣がいたら小笠原さんやることなくなっちゃうわよ。

(107) 今月いっぱい...ってこと？

(106) では小笠原は定年退職後嘱託社員として会社で働いているが、年齢や仕事ぶりを理由についに人事部が契約の打ち切りを決定し、同僚たちがそれを知るようになった場面である。同じ部署の同僚なら契約の打ち切り期間は暗黙の了解で知っている可能性が高いため、「契約が切れるまでは働いてもらいます」という発話から、「今月いっぱい...ってことですか」といった、自分なりに知っている情報から推察あるいは換言を示すフレーズであると考えられる。これは、おかれた状況から読み取れる内容を「換言」して当該の事柄に対して推量もしくは確認していると考えられる。この場合は対等な関

⁶⁵ 2007年日本テレビで放送された「ハケンの品格」の第5話から抽出した用例である。

係であれば (107) のようにコピュラ無しの「ということ」を用いて表してもいいはずである。つまり、「(という/ていう/って) こと (だ)」は話し手が聞き手の解釈を押し量りつつ聞き手との共通基盤を作り上げるために用いられる形式である(堀江 2014a : 46)」とあるように、コピュラの有無はその機能に大きく影響を与えないように思われる。ただし、用いられる場面の丁寧度の違いを除けば、コピュラ無しの「ということ」は、疑問文として用いられたり、「かな」のような疑問を表すマーカーと共起する傾向が見られるという相違点がある⁶⁶。

また、コピュラ無しの「ということ」を踏まえ、文末に生起するコピュラ無しの「こと」について考えてみたい。まず、コピュラ無しの「こと」は (108) のように「助言・忠告」を表しており、この場合は「ル形」のみ共起することができる。

(108) 窓から顔や手を出さないこと。(日本語記述文法研究会 2003 : 201)

また、コピュラ無しの「こと」は、以下のように「詠嘆」を表す例も観察されている。

(109) まー、よく降ること！(新屋 2014 : 231)

⁶⁶ ここではコピュラの有無による日本語の「ということ (だ)」の機能上の相違を検証するため、『千葉大学 3 人会話コーパス』(千葉大学で収録された、大学生・院生・ポスドクを含む同性 3 人からなる友人同士 12 組の雑談を収めたもので、1 組約 10 分の会話で合計約 2 時間の会話データである)を用いた。この会話データから文末に現れた「ということ (だ)」は 10 例にすぎなかったが(以下の表を参照)、コピュラ無しの「ということ」は計 7 例のうち、「ってこと?」のような疑問文が 4 例、「ってことかな」のような疑問の意を表す「かな」と共起する場合が 1 例観察された。今回抽出された「ということ (だ)」の用例は少ないため、特にコピュラを伴わない「ということ」の機能上の特徴を断言するのは難しい。今後用例を集めてコピュラの有無による日本語の「ということ (だ)」の機能上の相違を再検討する必要がある。

<表>

分類	類型	頻度	
コピュラ無しの 「ということ」	ってこと?	4	7
	ってことかな	1	
	ってことか	1	
	ってことよ	1	
コピュラ付きの 「ということだ」	ってことでしょ（う）	2	3
	ってことなのかな	1	
合計		10	

(110) そんな乱暴な扱い方をしてよく壊れなかったこと！（新屋 2014：231）

(109) (110) のコピュラ無しの「こと」は、前接する形式が「ル形」か「タ形」かに拘らず「詠嘆」を表すことができる。さらに「こと」に呼応する「よく」は単に驚嘆や意外さを表しており、「こと」はモダリティ形式として文法化が進んだ（新屋 2014：231）」と述べている。

また、新屋（2014：231）によると、以下に示されるように、コピュラ無しの「こと」は「よくも」が「よくもー動詞ーこと」というパターンで用いられると、「こと」と呼応して行為の遂行に対する「非難」を表すことができ、動詞は可能動詞ないし可能形が多いと指摘している。この場合も「ル形」「タ形」両方とも共起する統語的特徴を持つ。

(111) よくもそんな図々しいことが言えたこと！（新屋 2014：231）

(112) よくもこんな小さい子に重い荷物を持たせること！（新屋 2014：231）

以上のコピュラ無しの「こと」を、前接する形式と関連させてまとめると表 12 のようになる。

表 12 日本語のコピュラ無しの「こと」構文の機能

前接形式	文末形式	機能
「ル形」	「こと」	「助言・忠告」「詠嘆」「非難」
「タ形」		「詠嘆」「非難」
「という」		「換言」

このように、コピュラ無しの「こと」構文は、「ル形」が前接すると「助言・忠告」「詠嘆」「非難」、「タ形」が前接すると「詠嘆」「非難」、「という」が前接すると「換言」を表す機能を有している。特に、「詠嘆」「非難」を表す場合は「ル形」「タ形」が両方とも共起可能であり、「助言・忠告」は「ル形」、「換言」は「という」に限って共起するなど、韓国語のコピュラ無しの「ke(s)」構文のほうが前接する連体形語尾によって、よりそれぞれの機能分担を明確にしていることが分かった。

また、韓国語のコピュラ無しの文末名詞化構文としては、「ke(s)」構文が代表的であ

る。一方日本語のコピュラ無しの文末名詞化構文は、表 12 のコピュラ無しの「こと」構文以外にも、「の」「もの」「わけ」などが挙げられる。まず、「の」の場合、「ル形」「タ形」が前接すると、現実への「説明・確認」を表すが、(113) のように「指示・命令・教示」を表す場合は「ル形」のみと共起するなど、連体形のテンスによる機能の分化が見られる。

(113) 電車の中では静かにするのよ。(日本語記述文法研究会 2003 : 201)

これに対して、以下に示すように「もの」と「わけ」は「ル形」「タ形」が前接して、それぞれ「理由づけ・背景説明・正当化」、「正当化・客観性の主張」を示し、連体形のテンスによる機能の分化は見られない。

(114) 心配しないで。私、あんな話、気にしてないもの。

(日本語記述文法研究会 2003 : 271)

(115) 「トマト、また残したでしょ？」

「食べたもん！」(日本語記述文法研究会 2003 : 272)

(116) その問題、私、全然わかんなかったわけ。それでほかの人に聞いたわけ。

そしたら、誰も知らないって言うわけ。(日本語記述文法研究会 2003 : 209)

このように、日本語のコピュラ無しの文末名詞化構文は、韓国語に比べ、複数存在しており、そのうち「助言・忠告」の「こと」、「指示・命令・教示」の「の」、「換言」の「という」は、前接する形式による機能の分化が明確に見られることが分かった。これに対して、韓国語ではコピュラ無しの文末名詞化構文として「ke(s)」のみが存在し、その機能的特徴は前接する連体形語尾に依存している。両言語の共通点としては、それぞれの言語で最も多機能的な名詞化辞である「こと」「の」「kes」が前接する形式（連体形）による機能の分化を見せるということであろう。

4.7 まとめ

本章では韓国語の文末名詞化構文「kes(-ita)」の文法的位置づけと、語用論的機能に関して考察を行った。特に既存の「N」と「I」のような連体形語尾以外に、「tanun」も連体形語尾の1つとして見なすことによって、すでに定着した「説明」の「N kes-ita」、「推量」の「I kes-ita」はもちろんのこと、「tanun kes-ita」も「kes-ita」構文に位置づけ

ることができた。さらに、今までコピュラ無しの文末名詞化構文に関する研究成果は殆どなかったが、すでに固定化した「命令・忠告」の「I kes」を踏まえ、「tanun ke」や「N ke」に関してもコピュラ無しの「ke(s)」構文への位置づけを試みた。

第4章ではコピュラ付きの「tanun kes-ita」やコピュラ無しの「tanun ke」「N ke」を主な研究対象として考察を行った上で、日本語の文末名詞化構文との対比を行った。その結果をまとめると次のようである。

まず、(I) 韓国語のコピュラ付きの「tanun kes-ita」やコピュラ無しの「tanun ke」「N ke」について述べた上で、韓国語の文末名詞化構文「kes(-ita)」への位置づけについて述べる。コピュラ付きの「tanun kes-ita」は「伝聞」「換言」の機能以外に、当該の事柄に対する書き手自身の感情や評価、考えなどを表す際に、「自己引用」のマーカースとして現れ、「間接説明」という新たな機能への拡張が見られた。

また、コピュラ無しの「tanun ke」は「報告・伝達」の機能を獲得し、自分が置かれている当該の事柄に対して、主観的態度を表しつつ、読み手にアピールしようとする様々な語用論的機能が窺える。この機能は「主観化」「間主観化」や「ポジティブ・ポライトネス」を示すマーカースと密接な関わりを持つ。さらに、コピュラ無しの「N ke」はコピュラ無しの「tanun ke」とは異なって読み手をあまり前提とせず、書き手自身に関わる事柄を「断言・主張」する機能が見られる。

本研究では実現可能性を表す「tanun」を連体形語尾の1つとして認めることによってコピュラ付きの文末名詞化構文「N kes-ita」「I kes-ita」はもとより、「tanun kes-ita」においても韓国語の「kes-ita」構文に位置づけることができた。さらにコピュラ無しの「ke(s)」構文においても「I kes」はもちろん、「tanun ke」や「N ke」をもコピュラ無しの「ke(s)」構文として認めることにより、コピュラ付きの「kes-ita」構文とコピュラ無しの「ke(s)」構文において、両方の間の形態的連続性が示唆された。

また、実現可能性の観点から考えてみると、「推量」の「I kes-ita」、「命令・忠告」の「I kes」は実現可能性の度が一番低く、「説明」の「N kes-ita」、「断言・主張」の「N ke」は実現可能性の度が一番高い。そして、その間に位置づけられるのが「間接説明」の「tanun kes-ita」、「報告・伝達」の「tanun ke」であると考えられる。

次に(II) 韓国語の「tanun ke(s-ita)」と日本語の「ということ(だ)」との対比について述べる。韓国語の「tanun kes-ita」に相当する日本語の「ということだ」は「tanun kes-ita」

と同様に「伝聞」「換言」の機能を表しているが、「tanun kes-ita」とは異なって、当該の事柄に対して書き手自身が感情や評価、考えなどを表す際、「間接説明」という機能を獲得していないことが分かった。また、韓国語の「kes(-ita)」構文は前接する連体形による機能の分化が顕著に見られるが、日本語の「こと（だ）」構文に関しては部分的に機能の分化が見られることが確認できた。さらに、韓国語のコピュラ無しの「tanun ke」はコピュラ付きの「tanun kes-ita」に比べ、様々な語用論的機能が生産的に観察されるのに対し、日本語のコピュラ無しの「ということ」は、コピュラ付きの「ということだ」と顕著な機能上の相違は見られないことが分かった。ただし、用いられる場面の丁寧度の違いを除けば、コピュラ無しの「ということ」は、疑問文として用いられたり、「かな」のような疑問を表すマーカと共起する傾向が見られるという相違点が窺える。

第5章 韓国語の名詞化辞から文末名詞化構文への機能拡張：

日本語との対比を通じて

5.1 はじめに

現代韓国語における名詞化辞は、大きく日本語の「もの」「こと」に相当する形式名詞「kes (것)」と述語の語幹に結合する「m/um (로/음)」 「ki (기)」⁶⁷という3つに分けられ、それらは文中あるいは文末に生起する。それらを以下では「kes」「um」「ki」と表記する。

本章では韓国語の「kes」「um」「ki」という、3つの名詞化辞がコピュラ「ita (이다)」と組み合わせさせた「kes-ita (것이다)」 「um-ita (음이다)」⁶⁸ 「ki-ita (기이다)」に焦点をあて、考察を行う。具体的には言語類型論の観点から、特に東アジア言語で生産的に見られる名詞化辞から主観的態度を示す機能への拡張 (Yap and Matthews 2008) を参照し、韓国語の「kes-ita」「um-ita」「ki-ita」が体现している機能や特徴を明らかにする。さらに、韓国語の「um-ita」に関しては日本語との対比を行い、両言語の特徴を解明する。

5.2 先行研究

5.2.1 韓国語における名詞化辞の機能拡張

従来、韓国語研究において文中に置かれる名詞化辞の「kes」「um」「ki」は、補文標識 (complementizer) としての機能に関する研究に焦点が当てられてきた (왕문용・민현식 1993, 이익섭・임홍빈 1994, 임홍빈 1998, 이광호 2001, 李翊燮他 2004)。補文標識として用いられる「kes」「um」「ki」を取り上げると以下のようである。

(117) 비가 오는 것을 알았다.

Pi-ka o-nun kes-ul al-ass-ta.

⁶⁷ 「um」と「ki」は語彙的意味を有しておらず、述語の語幹に結合する特徴を持つ。まず、「um」の場合、述語の語幹が子音 (パッチム) で終わるか、母音で終わるかによって結合のし方が異なる。つまり、パッチムの有無によって「um」と「m」のような使い分けをするが、本研究では便宜上「um」と総称する。また、「ki」の場合は述語の語幹のパッチムの有無に関係なく、語幹に結合する特徴を持つ。例えば、「mek-ta (먹다, 食べる)」は「mek-um, mek-ki」、「po-ta (보다, 見る)」は「po-m, po-ki」となる。

⁶⁸ 文末名詞化構文の「um-ita」は前接する述語の語幹にパッチムがある場合は「um-ita」、パッチムがない場合は「m-ita」に分かれるが、本研究では「um-ita」と総称する。

雨-が 来る-現在連体形 KES-を 知る-過去-終結語尾

「雨が降ることを知った。」

(118) 비가 올 것을 바란다.

Pi-ka o-l kes-ul pala-n-ta.

雨-が 来る-未来連体形 KES-を 願う-現在-終結語尾

「雨が降ることを願っている。」

(119)=(6) 비가 옴을 알았다.

Pi-ka o-m-ul al-ass-ta.

雨-が 来る-UM-을 知る-過去-終結語尾

「雨が降ることを知った。」

(120)=(7) 비가 오기를 바란다.

Pi-ka o-ki-lul pala-n-ta.

雨-が 来る-KI-을 願う-現在-終結語尾

「雨が降ることを願っている。」

(堀江・パルデシ 2009 : 102; ハングルは筆者によるもの, グロスは微修正)

(117) (118) に示される「kes」はそれぞれ「現実」と「非現実」、(119) の「um」は「現実」、(120) の「ki」は「非現実」を表象するなど、韓国語の補文標識は日本語には存在しない「現実」や「非現実」のような捉え方が特徴として挙げられよう。

以上のように、韓国語の「kes」「um」「ki」が補文標識としての機能に着目されてきたのは確かである。しかし、「現実」と「非現実」とで対立する「um」「ki」とは異なっており、「現実」と「非現実」の間で対立を見せず、両方を表象する韓国語の最も代表的な名詞化辞の「kes」は日本語の代表的な名詞化辞「の」とともに、文末に生起して話し手の主観的態度を表す機能への拡張が報告されている (Horie 2008, 2011)。

また、文末にコピュラ無しで生起する韓国語の「kes」「um」「ki」の機能上の分析もなされてきている (金 2005, Rhee 2008, 2011)。特に Rhee (2011) では韓国語の名詞化辞「kes」「um」「ki」がコピュラを伴わず文末に単独で生起し、主観的態度を表す用法について述べている。まず以下の例を見られたい。

(121) 우회전 하지 말 것.

Wuhoycen ha-ci ma-l kes.

右折 する-禁止-未来連体形 KES

「右折をしないこと。」

(122) 진입하지 못 할.

Cinipha-ci mos ha-m.

進入する-否定 不可能 する-UM

「進入することができない（通行止め）。」

(123) 쓰레기 안 버리기.

Ssuleyki an peli-ki.

ごみ 否定 捨てる-KI

「ごみを捨てない。」(Rhee 2011 : 399-401; 原文はローマ字, 訳とグロスは筆者)

Rhee (2011) では「禁止 (prohibition)」「警告 (warning)」「指示 (directive)」など、発話内の力 (illocutionary force) の程度の度合いの観点から「kes」「um」「ki」の使い分けを示している。(121) の「kes」は当該の事柄に対して相手に働きかける力がより強いものに対して、(123) の「ki」は相手に働きかける力がより弱く、そして両者の間に位置づけられるのが (122) の「um」であるとされており、特に「um」と「ki」の相違については次のように述べている。

「名詞化辞である (7) の「m」と (8) の「ki」の相違点としては、概念からみた「m」はより具体的であり、それを使用する形式はより直接的な力を伴う。一方、概念からみた「ki」はより抽象的であり、それを使用する形式はより間接的な力を伴う。そのため、(7) の「m」が用いられる「禁止」はより厳格であり、議論の余地がなく、遵守を要求するのに対し、(8) の「ki」が用いられる「禁止」はより提案的であり、勧誘的な協同を要求する (Rhee 2011 : 400; 日本語訳は筆者によるもの)」⁶⁹とされている。つまり通常文中に現れる名詞化辞「kes」「um」「ki」が文末に生起し、主観的態度を表すということは、名詞化辞の機能拡張の表れとして見なすことができよう。

また、Kim (1984) では名詞化辞の「kes」「um」「ki」が分裂文 (cleft formation) におけるコピュラとの結合可能性の可否が議論されている。以下にその例を示す。

(124) 내가 모른 것은 존이 천재인 것이다.

Nay-ka molu-n kes-un John-i chencayi-n kes-ita.

⁶⁹ 原文内容 “The difference between nominalizers -m in (7) and -ki in (8) is that the -m-derived concept is more concrete and the forms using it carry more direct force, whereas the -ki-derived concept is more abstract and the forms using it carry more indirect force. Therefore, prohibition by using -m in (7) is more strict and inarguable and demands compliance, whereas the prohibition using -ki in (8) is more suggestive, soliciting co-operation.” (Rhee 2011 : 400; 原文の「m」, (7) (8) はそれぞれ本文の「um」, (122) (123) と同様)

私-が 知らない-過去連体形 こと-は ジョン-が 天才だ-現在連体形 KES-ITA

「私が知らなかったことはジョンが天才であることだ。」

(125)* 내가 바라는 것은 존이 집에 가기이다.

Nay-ka pala-nun kes-un John-i cip-ey ka-ki-ita.

私-が 望む-現在連体形 こと-は ジョン-が 家-に 帰る-KI-ITA

「私が望んでいることはジョンが家に帰ることだ。」

(126)* 수사관이 입증한 것은 존이 범죄자임이다.

Swusakwan-i ipcungha-n kes-un John-i pemcoycai-m-ita.

捜査官-が 立証する-過去連体形 の-は ジョン-が 犯罪者だ-UM-ITA

「捜査官が立証したのはジョンが犯罪者であることだ。」

(Kim 1984 : 11-12; 原文はローマ字, 訳とグロスは筆者)

このように、韓国語の名詞化辞の「kes」「um」「ki」のうち、コピュラを伴う「kes-ita」は (124) のように分裂文として用いられるのはもちろんのこと、すでに定着した文末形式として数多くの研究がある (野間 1990, 신선경 1993, 김상기 1994, 홍사만 2006, 김종복・이승한・김경민 2008 など)。具体的には、第 1 章で述べたように、コピュラを伴う「kes-ita」は前接する連体形語尾によって機能の分化が見られるという特徴を有する。

(127)=(8) 어제는 비가 온 것이다.

Ecey-nun pi-ka o-n kes-ita.

昨日-は 雨-が 降る-過去連体形 KES-ITA

「昨日は雨が降ったのだ。」

(128)=(9) 내일은 비가 올 것이다.

Nayil-un pi-ka o-l kes-ita.

明日-は 雨-が 降る-未来連体形 KES-ITA

「明日は雨が降るだろう。」

「kes-ita」は過去・現在連体形語尾「N」や、未来連体形語尾「I」が共起することによって、それぞれ「説明」「推量」を表していることが分かる。一方、これまでは名詞化辞「um」と「ki」の場合、特にコピュラを伴う「um-ita」「ki-ita」は不完全なものと思われてきたが (Kim 1984, 堀江・パルデシ 2009, 塚本 2012)、実際インターネットのブログではよく観察されているため、「um-ita」「ki-ita」の記述に対して修正を加える

必要があると考えられる。

以上、文末形式として用いられる韓国語の名詞化辞の先行研究について概観した。次節では韓国語の文末名詞化構文において、すでに定着した「kes-ita」⁷⁰及び新奇表現として位置づけられる「um-ita」「ki-ita」を取り上げ、それらを研究対象とする本研究の立場について述べる。

5.2.2 本研究の立場

本節では、韓国語の文末名詞化構文として、すでに定着している「kes-ita」を踏まえながら、「um-ita」「ki-ita」がどのように位置づけられるかについて述べる。まず、近年韓国のインターネット、特にブログにおいて、以下に示す (129) (130) のようなコピュラ付きの「um-ita」「ki-ita」が頻繁に観察されている。

(129)=(15) 이번에도 연휴에 우에노 시장을 갔음이다.

Ipen-eyto yenhhyu-ey wueyno sicang-ul ka-ss-um-ita.

今回にも 連休に 上野 市場-を 行く-過去-UM-ITA

「今回も連休に上野市場に行った。」

(130)=(16) 고속도로 주행에서 가장 편안한 운전은 앞차따라가기이다.

Kosoktolo cwuhayng-eyse kacang phyenanha-n wuncen-un aphcha ttalaka-ki-ita.

高速道路 走行-で 一番 楽だ-現在連体形 運転-は 前車 ついて行く-KI-ITA

「高速道路走行で一番楽な運転は前の車について行くことだ。」

(129) では「今回も連休に上野市場に行った」という事柄を表す際に、断定の「kassta (갔다, 行った)」ではなく、過去のマーカーを含む動詞「kassta」の語幹に名詞化辞「um」とコピュラ「ita」が結合した「um-ita」で文を締めくくっている。また、(130) では「「高速道路走行で一番楽な運転」は「前の車について行くこと」+だ」のような、措定文で表され、動詞「kata (가다, 行く)」の語幹に名詞化辞「ki」とコピュラ「ita」が結合した「ki-ita」で文を終結している。

このように、通常は動詞述語文で示すことができるにも関わらず、あえて述語の語幹に「um-ita」「ki-ita」が付加された文末名詞化構文で終結することは、表面的に名詞述

⁷⁰ 本研究では既に定着している「説明」の「N kes-ita」と「推量」の「I kes-ita」以外にも、本研究の第4章で取り上げている「tanun kes-ita」においても「kes-ita」構文の1つとして見なしている。「tanun kes-ita」に関しては、新奇表現として第4章で詳細に扱っているため、本章では研究対象から除外した。

語文の形態をとっているが、「動詞文と名詞文が「接ぎ木」されたかのような、特殊な形の構文になっている（田中 2012:20）」と言える。

本節では、以下の表 13 に示されるように、「説明」「推量」を表す構文として定着した「kes-ita」とは異なって、既存の韓国語の文法体系では非規範的なものとされてきた「um-ita」「ki-ita」を 1 つの構文として見なし、さらに、そこから生み出される機能や特徴を究明していく。

表 13 「kes-ita」「um-ita」「ki-ita」に対する本研究の立場

形式	先行研究	本研究
「kes-ita」	構文 （「説明」「推量」）	構文 （「説明」「推量」）
「um-ita」	非規範	構文
「ki-ita」	非規範	構文

本研究では文末名詞化構文の「um-ita」「ki-ita」に対して、新たな機能を有する 1 つの構文として捉えており、これは、以下の表 14 に示す通り日本語の名詞化辞の「の」「こと」「もの」「ところ」から文末名詞化構文の「のだ」「ことだ」「ものだ」「ところだ」へ拡張し、形態的連続性が見られる（堀江・パルデシ 2009）現象と類似していると言える。つまり、韓国語の名詞化辞「um」「ki」から文末名詞化構文としての「um-ita」「ki-ita」への機能拡張は日本語と同様に、形態的連続性の可能性を示唆するものと考えられる。

表 14 日韓両言語の名詞化辞から文末名詞化構文への形態的連続性

区分	名詞化辞	文末名詞化構文
日本語	「の」「こと」 「もの」「ところ」	「のだ」「ことだ」 「ものだ」「ところだ」
韓国語	「kes」 「um」「ki」	「kes-ita」 「um-ita」「ki-ita」

以上、韓国語の「kes-ita」「um-ita」「ki-ita」における文末名詞化構文への位置づけについて述べた。次節では、前節で述べたように、連体形語尾によって機能の分化が見られる「kes-ita」の特徴を参照しつつ、「kes」と「ita」の分割可能性について検討する。これは今まで殆ど論じられてこなかった「説明」の「N kes-ita」と、「推量」の「I kes-ita」におけるそれぞれの文法化の度合を検証する有効な手がかりになることが期待される。

5.3 韓国語の「kes-ita」の位置づけ

5.3.1 「kes-ita」の機能と分割可能性

韓国語の「kes-ita」は第4章で詳述したように、前接する連体形語尾によって2つの機能に分化している。以下では、「説明」を表す「N kes-ita」と「推量」を表す「I kes-ita」とを、異なる「構文 (Goldberg 1995, 2006)」と見なし、両者の間に文法化の度合いの相違が見られることを、「kes」と「ita」の分割可能性の観点から示す。本研究では、文法化の指標としてこれまでなされた提案 (Bybee *et al.* 1994, Hopper and Traugott 2003) のうち、「形態の拘束性 (boundedness)」⁷¹に基づき、「kes-ita」が一語化している場合は、「kes」と「ita」とに分割できる場合よりも文法化の程度がより進んでいるものと見なす。

「kes-ita」が「kes」と「ita」に分割されるということは、まだ文法化の途中の段階にあることを表しており、その分割の可否は文法化の度合いを推し量る裏付けとなる。以下の (131)~(133) の動詞「ilkta (읽다, 読む)」と (134)~(136) の形容詞「pissata (비싸다, 高い)」は過去・現在・未来連体形語尾すべてといずれも共起できる。一語化した場合は日本語で「～んだ」(説明)、「～だろう」(推量)と訳し、分割できる場合は「もの(存在・事物)だ」と訳した⁷²。

(131)⁷³ 이 책은 읽은 것이다.

I chayk-un ilk-un kes-ita.

⁷¹ 「形態の拘束性」は大堀 (2002 : 183) の用語である。

⁷² 韓国語の「kes-ita」を分割可能性の観点から考えると、類似した現象として日本語の「ものだ」が挙げられる。例えば、一語化した「ものだ」は「子どもはいたずらをするものだ (一般的傾向)」、「学生時代はよく徹夜したものだ (回想)」、「こんなにたくさんよく食べたもんだ (驚き)」などがある。また、「もの」と「だ」に分割可能な「ものだ」は「この車は兄から譲ってもらったものだ (代用語)」のように用いられることができる。さらに、日本語の「ものだ」は「自動車はガソリンで動くものだ」「辞書は、大きく重いものだ」のように、「一般的傾向」と「代用語」といった2つの意味を表すことができるとされている (北村 2010 : 47-48; 下線は筆者によるもの)。

⁷³ 韓国語の「kes (것)」は日本語の「もの」のように「具体的な存在・事物」を表すことができる。「kes」の機能に関しては頁1-2を参照されたい。

この 本-は 読む-過去連体形 KES-ITA

「この本は読んだんだ／もの（存在・事物）だ。」

(132) 이 책은 읽는 것이다.

I chayk-un ilk-nun kes-ita.

この 本-は 読む-現在連体形 KES-ITA

「この本は読んでいるんだ／もの（存在・事物）だ。」

(133) 이 책은 읽을 것이다.

I chayk-un ilk-ul kes-ita.

この 本-は 読む-未来連体形 KES-ITA

「この本は読むだろう／（予定の）もの（存在・事物）だ。」

(134) 이 옷은 비쌌던 것이다.

I os-un pissa-ssten kes-ita.

この 服-は 高い-過去連体形 KES-ITA

「この服は高かったんだ／もの（存在・事物）だ。」

(135) 이 옷은 비싼 것이다.

I os-un pissa-n kes-ita.

この 服-は 高い-現在連体形 KES-ITA

「この服は高いんだ／もの（存在・事物）だ。」

(136) 이 옷은 비쌀 것이다.

I os-un pissa-l kes-ita.

この 服-は 高い-未来連体形 KES-ITA

「この服は高いだろう。」

(131)～(133) は「kes」と「ita」が一語化、分割いずれの解釈も可能な場合である。まず、「kes」と「ita」が一語化した (131) (132) の「N kes-ita」は「説明」、(133) の「I kes-ita」は「推量」を表すと同時に、それらは「ilkun kes (읽은 것, 읽은 것, 읽은 것)」 「ilknun kes (읽는 것, 읽는 것, 읽는 것)」 「ilkul kes (읽을 것, 읽을 것, 읽을 것)」といった、「kes」と「ita」の分割によって「存在・事物」を示すことができる。

(134)～(136) では、(134) (135) の「説明」の「N kes-ita」の場合は (131)～(133) と同様に、一語化、分割いずれの解釈も可能である。これに対して、(136) の「I kes-ita」は「kes」と「ita」が一語化した「推量」の意味は有するものの、属性や状態を表す形容詞が未来のような非現実を表象して「存在・事物」を示すように「kes」と「ita」の分割は不可能である。これは形容詞が共起する「I kes-ita」には、特に「kes」と「ita」が一語化して「推量」を表すのが唯一の解釈である用法が確立しているのに対して、「N

kes-ita」にはそのような用法が確立していないことを表し、「I kes-ita」は「N kes-ita」より文法化が進んでいることを示唆している。

さらに、안효경 (2001) によれば、未来連体形語尾「I」が前接する名詞化辞「kes」は文末に置かれ、(137) は「命令」、(138) は「当為」を表し、単独で文を終結することができるという。

(137) 수업 마치는 대로 즉시 돌아올 것.

Swuep machi-nun taylo cuksi tolao-I kes.

授業 終わる-現在連体形 次第 すぐに 帰る-未来連体形 KES

「授業が終わり次第すぐに帰ること。」

(138) 파트너는 예쁜 것.

Phathune-nun yeypu-I kes.

パートナーは きれいだ-未来連体形 KES

「パートナーはきれいなこと。」

(안효경 2001 : 98; 原文はハングル, 訳とグロスは筆者)

しかし、以下に示されるように、文末に名詞化辞「kes」が単独で生起する場合、過去・現在連体形語尾の「N」が前接すると非文になるという (안효경 2001)。

(137)* 수업 마치는 대로 즉시 { 돌아온 / 돌아오는 } 것.

Swuep machi-nun taylo cuksi { tolao-n / tolao-nun } kes.

授業 終わる-現在連体形 次第 すぐに 帰る-過去連体形 / 帰る-現在連体形 KES

「授業が終わり次第すぐに帰った/帰ること。」

(138)* 파트너는 예쁜 것.

Phathune-nun yeypu-n kes.

パートナーは きれいだ-現在連体形 KES

「パートナーはきれいなこと。」

(안효경 2001 : 98; 原文はハングル, 訳とグロスは筆者)

つまり、名詞化辞「kes」に未来連体形語尾「I」が前接する「I kes」は、「命令・当為」を表しているため、まだ実現していない事柄を示す点で「推量」の「I kes-ita」との機能的連続性が見られ (堀江・パルデシ 2009)、文法的意味を有していない「N kes」に

比べ、「l kes」はより文法化が進んだ形式であると言える⁷⁴。

次節では前接する連体形語尾によって機能の分化が見られるコピュラ付きの「kes-ita」構文において、「N kes-ita」と「l kes-ita」に焦点をあて、分割可能性の観点から文法化の度合いについて述べる。

5.3.2 分割可能性の観点からみた「N kes-ita」と「l kes-ita」の相違点

本節では、「kes-ita」に前接する連体形語尾に注目し、「kes-ita」が一語化しているか、あるいは「kes」と「ita」の2つに分割できるかに関して調査した。これによって前接する連体形語尾が、過去・現在連体形語尾の「N」であるか、未来連体形語尾の「l」であるかによる「kes-ita」の文法化の度合いを推し量ることができるだろう。

以下、「N kes-ita」と「l kes-ita」の用例分析を通して、それぞれの分割可能性の調査結果を示すと表15のようになる。分析に用いた用例は現代韓国小説9冊⁷⁵から抽出した。

表 15 前接する連体形語尾による「kes-ita」の分割可能性の生起頻度

形態		「N」が前接	「l」が前接
(I)	「kes」と「ita」に分割	28 (4.6%)	*
(II)	「kes-ita」に一語化	522 (87.4%)	220 (94%)

⁷⁴ 本研究では「N kes」の「s」が脱落した「N ke」をコピュラ無しの「ke(s)」構文の1つとして見なしている。詳細は第4章を参照されたい。

⁷⁵ 分析に使用した小説の詳細は以下のである。著者はアルファベット順に示す。

著者	作品名	出版社	本文での表記
강석경 (1999)	『내 안의 깊은 계단』 (『私の中の深い階段』)	창작과 비평사	【私】
김종성 (2007)	『서울의 만가』 1, 2 卷 (『ソウルの挽歌』)	남도	【ソ】
김하인 (2000)	『국화꽃 향기』 1, 2 卷 (『菊の香り』)	생각의 나무	【菊】
박양호 (1992)	『붕어빵엔 붕어가 없다』 1, 2 卷 (『鯛焼きには鯛がない』)	행림출판사	【鯛】
양귀자 (1995)	『천년의 사랑』 上・下 卷 (『千年の愛』)	살림	【千】

(Ⅲ)	分割・一語化のいずれ の解釈も可能	47 (8%)	14 (6%)
合計		597 (100%)	234 (100%)

表 15 は「N kes-ita」と「I kes-ita」の生起頻度を示すと同時に「kes-ita」が (Ⅰ) のように「kes」と「ita」に分割される場合 (例文 (139) (140)) と、(Ⅱ) のように、「説明」や「推量」のモダリティ形式として一語化している場合 (例文 (141) (142)) と、(Ⅲ) のように、形態素境界においてゆれが見られる場合 (例文 (143) (144)) とに分けられることを示している。

(139) 내가 그대에게 원하는 것은 그대 삶의 아름다움, 광휘, 기쁨같은 것들입니다.

Nay-ka kutay-eykey wenha-nun kes-un kutay salm-uy alumtawum,

私-が 君-に 望む-現在連体形 こと-は 君 人生-の 美しさ

kwanghwi, kippum kath-un kes-tul-ipnita. 【千】

光輝 喜び 同じだ-現在連体形 もの-複数-です

「私が君に望んでいることは君の人生の美しさ、光輝、喜びのようなものです。」

(140) 미주의 눈에 비치는 것은 온통 비장하거나 절박하거나 두려운 것뿐이었다.

Micwu-uy nwun-ey pichi-nun kes-un onthong picang-hakena

人名-の 目-に 映る-現在連体形 こと-は 全部 悲壮-したり

celpak-hakena twulye-wun kes-ppwun-i-ess-ta. 【菊】

切迫-したり 恐ろしい-現在連体形 もの-限定-だ-過去-終結語尾

「ミジュの目に映るものは全部悲壮感や切迫感に満ちた恐ろしいものだけだった。」

(141)⁷⁶ 여자란 참 묘한 것이다.

Yeca-lan cham myoha-n kes-ita. 【鯛】

女-とは まさしく 妙だ-現在連体形 KES-ITA

「女とはまさしく妙なんだ。」

(142) 아마 대부분의 학생들은 그리 생각하고 있었을 것이다.

Ama taypwupwun-uy haksayng-tul-un kuli sayngkakha-ko iss-ess-ul

たぶん 大体-の 学生-複数-は そのように 考える-ている-過去-未来連体形

kes-ita. 【鯛】

KES-ITA

⁷⁶ 例文 (141) の「kes-ita」の場合、「kes」と「ita」が一語化、分割いずれの解釈も可能であるが、人間に対して「kes」が用いられると、人を見下すようなニュアンスを持つため、本研究では例文 (141) の「kes-ita」を一語化した形式として捉えている。

「たぶん大体の学生はそうに考えていただろう。」

(143) 첫사랑은 가벼운 감기와 같은 것이다.

Chessalang-un kapye-wun kamki-wa kath-un kes-ita. 【鯛】

初恋-は 軽い-現在連体形 風邪-と 同じだ-現在連体形 KES-ITA

「初恋は軽い風邪のようなんだ／もの（存在・事物）だ。」

(144) 소문은 무섭게 퍼져 나갈 것이다.

Somwun-un mwusepkey phecyenaka-l kes-ita. 【ソ】

噂-は 恐ろしげに 広がっていく-未来連体形 KES-ITA

「噂は恐ろしげに広がっていくだろう／もの（存在・事物）だ。」

表 15 の分析結果について述べると、「説明」の「N kes-ita」と「推量」の「I kes-ita」が一語化して用いられる（Ⅱ）に関して、前者は 522 例（87.4%）、後者は 220 例（94%）あり、両形式ともかなり文法化が進んでいる点では共通性が見られる。具体的には（141）（142）のように、それぞれ「説明」の「んだ」と「推量」の「だろう」のような、「kes」と「ita」が一語化した解釈のみが見られる。

そのうえで、（Ⅰ）に関して、「N」が前接する場合には「kes」と「ita」に分割される例が 28 例（4.6%）あったのに対して、「I」が前接する場合には分割される例が一例も見当たらなかったことは注目に値する。特に、「kes」と「ita」の間に介在された（139）の複数形語尾「tul（들）」や（140）の限定形語尾「ppwun（뿐）」は「N kes-ita」が一語化しておらず、「kes」と「ita」に分割できる裏づけとなる。

また、分割されるか一語化しているかが決定し難い（Ⅲ）に関しては、（143）（144）のようにいずれの解釈も可能な場合であり、「N」が前接する例が 47 例（8%）、「I」が前接する例が 14 例（6%）あった。（Ⅰ）と（Ⅲ）を合わせると、「N」が前接する場合 75 例（12.6%）が分割可能であったことになる。このことから、両者を比べた場合、「説明」の「N kes-ita」は相対的に文法化の程度が低く、「推量」の「I kes-ita」の方がより文法化が進んでいることが示唆される。

以上、前接する連体形語尾の時制による「kes-ita」の機能の分化や、「kes」と「ita」の分割可能性の観点から「説明」「推量」の「kes-ita」の文法化の程度について考察を行った。次節では、文末名詞化構文として位置づけられる「um-ita」「ki-ita」のような新奇表現に注目し、どのような機能や特徴を有するのかについて述べる。以下は「um-ita」、「ki-ita」の順に見ていく。

5.4 韓国語の「um-ita」に関する分析

本節では韓国語の「um-ita」に関して考察を行う。文末に生起する「um-ita」は統語的特徴として、①「述語の語幹」、②「述語の語幹＋過去の先語末語尾」、③「述語の語幹＋未来の先語末語尾」、④「述語の語幹＋尊敬の先語末語尾」などに後接することができる。その例を挙げると以下の通りである。

(145)⁷⁷ <「みなとや食品」という店で食べた後の感想>

메뉴가 참 다양하던데...다음에 한번 더 가서 다른 카이센동도 먹어 보고 싶음이다.

Meynyu-ka cham tayangha-ten-tey...taum-ey hanpen te kase talun

メニューが とても 多様だ-回想-けど 今度-に 一回 もう 行って 他

khaiseyntong-to meke po-ko siph-um-ita.

海鮮丼-も 食べてみる-希望-UM-ITA

「メニューがとても多様だったけど、今度もう一度行って他の海鮮丼も食べてみたい。」

(146)⁷⁸ <美術館を観覧した後の感想>

8 월 찜통더위 때 가서...미술관에 들어가자마자 카페테리아에서 음료수부터 마셨음이다.

Phalwel ccimthong tewi ttay kase...miswulkwan-ey tuleka-camaca

8月 蒸し風呂 暑さ 時 行って 美術館-に 入る-やいなや

khapheytheylia-eyse umlyoswu-pwuthe masye-ss-um-ita.

カフェテリア-で 飲み物-から 飲む-過去-UM-ITA

「8月蒸し風呂のような暑さの時に行って美術館に入るやいなやカフェテリアで飲み物から飲んだ。」

(147)⁷⁹ <「モーモーパラダイス」という店で食べた後の感想>

이날 종일 너무나 강행군을 한지라 더위와 피로에 지쳐서 음료무제한 서비스를 주문했는데 또 갈 기회가 있다면 다음에는 그냥 밥만 주문하겠음이다.

Inal congil nemwuna kanghayngkwun-ul hancila tewi-wa phiro-ey cichyese

この日 終日 あまりにも 強行軍-を したので 暑さ-と 疲労-で くたびれて

umlyo mwuceyhan sepi-su-ul cwumwunhay-ss-nuntey tto ka-l

飲料 無制限 サービス-を 注文する-過去-が また 行く-未来連体形

kihoy-ka issta-myen taum-ey-nun kunyang pap-man cwumwunha-keyss-um-ita.

機会-が ある-条件 今度-には ただ ご飯-だけ 注文する-意志-UM-ITA

⁷⁷ <http://haru3050.blog.me/60095580550> (2012年11月4日検索)

⁷⁸ <http://blog.naver.com/lippie/40114239970> (2012年11月4日検索)

⁷⁹ <http://haru3050.blog.me/60090514335> (2013年8月13日検索)

「この日、終日あまりにも強行軍をしたので、暑さと疲労でくたびれて飲み放題を注文したが、また行く機会があれば、今度はご飯だけ注文することにする。」

(148)⁸⁰ <自分の赤ちゃんの 100 日目を記念するためにフォトスタジオを訪問し、写真を撮ってもらったオーナーに対して>

사장님 친절하심이다.

Sacang-nim chincelha-si-m-ita.

社長様 親切だ-尊敬-UM-ITA

「社長はご親切だ。」

(145) は「他の海鮮丼も食べてみたい」、(146) は「美術館に入るやいなやカフェテリアで飲み物から飲んだ」、(147) は「今度はご飯だけ注文することにする」、(148) は「社長はご親切だ」といった事柄を表しており、当該の事柄に対してそれぞれ「感情・考え」、「経験」、「意志」、「尊敬」などを表明している。(145)～(148) は、その文末を名詞化辞「um」とコピュラ「ita」が組み合わされた「um-ita」の形態で締めくくっている点で共通している。

これらは文末に出現している「um-ita」の代わりに、韓国語の言い切りの終結語尾「ta (다)」を用いた動詞・形容詞述語文で終結してもいいはずである。

(145') (前略) meke po-ko siph-ta (먹어 보고 싶다, 食べてみたい).

(146') (前略) masy-ess-ta (마셨다, 飲んだ).

(147') (前略) cwumwunha-keyss-ta (주문하겠다, 注文することにする).

(148') (前略) chincelha-si-ta (친절하시다, ご親切だ).

ここで注目すべき点はそれぞれ動詞・形容詞述語文に復元できるにも関わらず、文末名詞化構文の「um-ita」で文を完結しているということである。

本研究では、以上の韓国語の「um-ita」の 4 つのパターンのうち、(148) のような尊敬の先語末語尾「si」と「um-ita」が組み合わされた「sim-ita (심이다)」⁸¹に着目する。その理由として「um-ita」には、前述したように共起できる 4 つのパターンがあるとはいえ、単なる統語的特徴にすぎず、「sim-ita」は文末名詞化構文「um-ita」に属している。

⁸⁰ <http://blog.naver.com/banihnar/110159736859> (2013年9月15日検索)

⁸¹ 尊敬の先語末語尾は、動詞の語幹にパッチム(子音)があると「usi」、語幹にパッチムがないと「si」の形態をとるが、本研究では尊敬の先語末語尾と「um-ita」が組み合わされる場合は「sim-ita」の形態をとるため、以後「sim-ita」と総称する。

そのため、「sim-ita」を通して、「um-ita」の機能が分析できるのはもちろん、本来「尊敬」の意味を有する「si」の多様な語用論的機能を探ることもできる。つまり、本節では主な研究対象として「sim-ita」を取り上げ、本来「尊敬」の意味を表す「si」の語用論的機能の拡張と共に、文末名詞化構文「um-ita」の機能について明らかにする。

次節ではインターネット上で観察される事例を適宜挙げながら「sim-ita」に関する分析を行う。

5.4.1 韓国語の「sim-ita」に関する分析

本来プラス評価を表す言語表現を用いて、実際伝えたいことはマイナス評価である例がしばしば見られる。例えば、一般的に恩恵を施す意味として用いられる日本語の「～てくれる」は当該の事柄に対して好ましいこととして捉える場合もあれば、印税を横取りしたお兄さんに対して、「お兄さんがまたやってくれました」という表現を使うと、皮肉として捉えることもできる。また、「伊藤が自殺した」という同一の事柄に対して、使役文の「死なせた」で表現する場合と、受身文の「死なれた」で表現する場合によって異なった捉え方をすることも可能である（靱山 2009）⁸²。

さらに、日本語の敬語表現においても、通常相手に敬意を払うプラス評価のマーカールと言えるが、当該の事柄や対象によって必ずしもプラス評価を表しているとは言えない例が見られる。

(149) <いつも夜遅く帰宅する夫に対して>

妻：今日も相変わらず、お早いですね。

(149) では妻がいつも夜遅く帰宅する夫に対する発話であり、表面的には「お早いです」という敬語（尊敬・丁寧）を使用しているものの、話し手の妻は夫に対して不満や怒りなど、ネガティブな態度を表明している。

韓国語の「sim-ita」においては、上記の (149) と同じく、表面的には「si」のような、尊敬の先語末語尾を含んでいるが、実際表される意味は決して「敬意」とは言えない「si」の機能拡張に注目する。また、「si」と共起する文末名詞化構文「um-ita」についても綿密な分析を行い、「sim-ita」が体现している機能や特徴を明らかにする。

⁸² 詳細は靱山（2009：87-95）を参照されたい。

次節では文末名詞化構文の「sim-ita」の機能を解明するに先立って、敬語表現の機能拡張について紹介する。

5.4.1.1 敬語表現の機能拡張の傾向性

敬語表現は元々相手に敬意を示す主なマーカであるが、その典型的な意味を保持しつつ、新たな機能へ広がっていく傾向が見られる。以下では、敬語表現から「皮肉」への機能拡張が見られる先行研究を紹介するが、それに先立って、「皮肉」という用語について簡単に述べる。

皮肉 (irony: アイロニー) は通常のコミュニケーションと連続的にとらえることができると同時に、対人関係の調整手段として有用であるため、古今東西で普遍的に存在し、しかもかなり頻繁にコミュニケーションに用いられているものとされている (岡本 2010)。岡本 (2010) では「皮肉 (irony: アイロニー)」とあるように、研究者によって「皮肉」と「アイロニー」という用語が混在して使用されており (瀬戸 1997, 辻 2001, メイナード 2005, 岡本 2010)、それは英語の ‘irony’ によるものと思われる。

池上 (2006) では英語の ‘irony’ と日本語の「皮肉」に対する意味の相違点と共通点について以下のように述べている。

英語の ‘irony’ は、意図しているのとは逆の意味のことばを用いるということであって、その動機づけがしばしば人を面白がらせる (joke としての効用をもっている) という。これに対して「皮肉」は「相手を非難、批評する気持で事実と反対の事を言ったりして、意地悪く、遠回しに相手の弱点などをつくこと (『新明解国語辞典』)」という。両者に共通しているのは、＜意図ないし事実の反対を言う＞ということであるが、その動機づけについては、‘irony’ のほうは ＜人を面白がらせる＞ であるのに対し、「皮肉」のほうは ＜相手を批判する、相手の弱点をつく＞ ということである (池上 2006: 28)。

このように、英語の ‘irony’ と日本語の「皮肉」または「アイロニー」は全く等価なものではないが、「アイロニーがユーモラスな印象を与えうることは心理学実験でも確

認されている (Okamoto 2000)」⁸³とあるように、本研究で用いられる「皮肉」という用語は池上 (2006) でいう英語の ‘irony’ や「皮肉」、Okamoto (2000) の「アイロニー」などを含意する広い意味で使っているということを断っておきたい。

つまり、本研究では統一して「皮肉」という用語を用いるが、以下の先行研究では研究者による用語をそのまま使う。以下、敬語表現から「皮肉」への機能拡張が見られる先行研究を取り上げる。

まず、Kumon-Nakamura *et al.* (1995) は「寒いので話し手が窓を開けないように頼んでいたのに、ルームメイトが窓を開けた」という場面を設定して、丁寧さと ‘irony’ の効果について論じている。以下に示される (150) をみられたい。

(150) a. would you mind if I asked you to keep the windows closed, please?

b. Would you keep the windows closed?

c. Keep the windows closed.

(Kumon-Nakamura *et al.* 1995 : 14)

(150a) は過剰に丁寧な言い方、(150b) は適切に丁寧な言い方、(150c) は丁寧さを欠く言い方といった相違が見られており、過度に丁寧な表現の (150a) は、‘irony’ らしさを高める効果があるのに対して、丁寧さを欠く表現の (150c) は、その効果がないとされている。

また、瀬戸 (1997) によると、アイロニーは「高めて落とす」という原理に支えられているものとして、通常より高めて表現すると、それが反転して否定の意味を含むと述べている。具体的には、①過度に上乗せをした語彙を使うもの (例：天才)、また、②程度や段階を必要以上に高める方法もあり、常にアイロニーと読まれる表現 (例：「ご大層な」「お偉方」と、しばしばアイロニーと解釈されるもの (例：「ご立派」「おめでたい」)、③感嘆文を使って意味を強化する場合、④必要以上に丁寧で大げさな表現を使用する方法などがあると言及している。

最後に、Okamoto (2002) は敬語の不適切性の効果を検討するため、ネガティブな内容で事実と一致する発話を通して、敬語と ‘irony’ の相関関係について述べている。

(151) <テニスが上達しない高校生に対するコーチの発話>

a. だいぶ練習不足でございますね。

⁸³ 辻 (2001 : 60) からの引用である。

b. だいぶ練習不足だね。

(Okamoto 2002 : 138; 原文はローマ字)

(151a) のように過剰な敬語を用いると、(151b) に比べて ‘irony’ らしさが高くなることから、丁寧さのレベルが過剰であると ‘irony’ らしくなる、ということが実証されている。さらに、タイ語における敬語表現の使用は、国王に対してしか使えないという、非常に限られた用法であるが、日常会話では皮肉、からかいのような意味で頻繁に使われている（応用言語学講座 D3 ポラニー氏の直話）という。

以上の先行研究から分かるように、過剰に丁寧な敬語表現はむしろ皮肉を醸し出す効果を引き起こし、逆に言うと、皮肉を表明したい際には 1 つのストラテジーとして過剰な敬語表現が用いられることを示唆する。次節では敬語表現の機能拡張の観点から、韓国語の尊敬の先語末語尾「si」の機能拡張について述べる。

5.4.1.1.1 韓国語の尊敬の先語末語尾「si」⁸⁴の機能拡張

上原（2004）によれば、韓国語と日本語は大きく素材敬語（例：尊敬語、謙讓語）と対者敬語（例：日本語は丁寧体、普通体、韓国語は下称、等称、中称、上称など）という 2 つの敬語体系を有し、それぞれ前者は「話題にしている人物」、後者は「対者 / 聞き手」に注目しているが、両者とも話者の主観的・心理的距離を表す点で共通している。しかし、敬語体系における両言語の相違点としては、韓国語は日本語より対者敬語の形式が多様・複雑であるのに対して、日本語は韓国語より素材敬語の形式が多様で区別が詳細であるということである。また、もう 1 つの相違点として取り上げられるのは、韓国語は絶対敬語、日本語は相対敬語という対応が成立し、例えば、話者が自分の親に対して言及する場合、韓国語では相手が先生であったとしても尊敬語を使用するが、日本語では聞き手または話者の身内か否かによって敬語の使い方が異なってくるということである⁸⁵。

以上、日本語の敬語体系との比較を通した韓国語の敬語の特徴を踏まえた上で、韓国語における代表的な尊敬のマーカ―「si」の機能について簡単に紹介する。

一般的に尊敬のマーカ―「si」は以下に示されるように、「kata (가다, 行く)」「ota (오다, 来る)」の述語の語幹に結合し、目上の人に対して敬意を表明することができる。

⁸⁴ これ以後韓国語の尊敬の先語末語尾「si」は「尊敬」の（マーカ―）「si」と総称する。

⁸⁵ 日韓両言語の敬語体系の相違に関しては上原（2004）が詳しい。

(152)⁸⁶ 부모님 여행 가시다.

Pwumo-nim yehayng ka-si-ta.

両親様 旅行 行く-SI-終結語尾

「両親様が旅行にいらっしゃる。」

(153)⁸⁷ 교생 선생님 오시다.

Kyosayng sensayng-nim o-si-ta.

教生 先生様 来る-SI-終結語尾

「教育実習生がいらっしゃる。」

(152) は自分の「両親」、(153) は「教育実習生 (の先生)」に対して「sita (시다)」で文を終結し敬意を示すのはごく自然である。しかし、박석준 (2002) では、尊敬のメーカー「si」の非尊敬の機能として以下のような例を取り上げている。

(154) 우리 아들 정말 똑똑하시네.

Wuli atul cengmal ttokttokha-si-ney.

うち 息子 本当に 賢い-SI-終結語尾

「うちの息子本当にお利口でいらっしゃるわね。」

(155) 우리 집사람이 언제 이렇게 부자가 되셨지?

Wuli cipsalam-i encey ilehkey pwuca-ka toy-sye-ss-ci?

うち 家内-が いつこんなに 富者-が なる-SI-過去-終結語尾

「うちの家内はいつからこんなに金持ちになられたの。」

(156) 참, 대단하시네, 대단하셔.

Cham taytanha-si-ney, taytanha-si-e.

さすが 素晴らしい-SI-終結語尾 素晴らしい-SI-終結語尾

「さすが、素晴らしくていらっしゃるね。素晴らしくていらっしゃる。」

(157) 김사장, 좋은 말로 할 때 협조 좀 해 주셔.

Kimsacang, coh-un mal-lo ha-l ttay hyepco com

金社長 いい-現在連体形 言葉-で する-未来連体形 時 協助 ちょっと

hay cwu-si-e.

して くれる-SI-終結語尾

「金社長、大目に見てやっているうちにちょっと協力していただけませんかね。」

(박석준 2002 : 155-157; 原文はハングル, 訳とグロスは筆者)

⁸⁶ <http://blog.naver.com/gycksgyflaka/120133768983> (2013年11月1日検索)

⁸⁷ <http://blog.naver.com/vvlky/100127331397> (2013年11月2日検索)

これらは「si」の本来の意味からかなり逸脱したものであり、박석준 (2002) では (154) は「褒め」、(155) は「感嘆」、(156) は「皮肉」、(157) は「脅迫」などを示しているといわれている。

また、金 (2012) によれば、本来尊敬の「si」は自分より年長者や尊敬すべき対象について述べる際に使用するが、自分の子供の行動、自分自身のことについて述べる際にも尊敬の「si」を使い、名詞形で文を終えることができるという。

(158) <自分の写真を blog に載せて>

완전 웃기실.

Wancen wuski-si-m.

完全 おかしい-SIM

「まったくおかしい。」(金 2012)

特に (158) の「sim」は尊敬のマーカ―「si」の非尊敬の機能とともに、文末を名詞形で完結している点で、本研究における名詞化辞から文末名詞化構文への機能拡張への可能性を示唆するものとして意義がある。

以上の先行研究をまとめると、韓国語の「si」は本来目上の人に対して敬意を示すマーカ―であるが、「褒め」「感嘆」「皮肉」「脅迫」のような非尊敬の機能が見られた。また、非尊敬の「si」と共起する対象としては、自分の子供、対等な関係(妻)、自分自身などが明確に挙げられているが、対象が明確に明示されていない (156) (157) の場合、目上の人に対して用いられることも十分あり得ると思われる。

本研究では尊敬の「si」から拡張した機能として、大きく「皮肉」と「親愛」があるとし、前者は「ネガティブな態度」、後者は「ポジティブな態度」を示すと共に、両方とも場合によっては「ユーモア」を表しているという共通点を持っていると考えている。逆に言うと、「ネガティブな態度」がより示されると「皮肉」、「ポジティブな態度」がより示されると「親愛」とも解釈でき、両者は完全に独立したものではなく、連続していると考えられる⁸⁸。以下、尊敬の「si」から拡張した機能について図 2 のようにまとめられる。

⁸⁸ 「ユーモア」の程度の大小によって、「皮肉」と「親愛」を使い分けているわけではない。

機能	「皮肉」	「親愛」
	「ユーモア」	
程度	ネガティブな態度 ←=====→ ポジティブな態度	

図2 尊敬の「si」の機能拡張

つまり、実際に話し手が伝えたいことは、「皮肉」「親愛」であるにも関わらず、あえて敬意や丁寧さなどを表す敬語表現を使用する理由は何であろうか。またそこから生み出される新たな機能拡張への可能性は何を示唆するものであろうか。

次節では本節で述べた非尊敬の「si」の機能やそれと共起する対象を参考にしつつ、文末名詞化構文の「sim-ita」に着目して「si」の非尊敬の機能や、その対象についてより精緻に解明する。

5.4.1.2 「sim(-ita)」からみた「si」の非尊敬の機能

近年ネット上のブログでは、「sim(-ita)」がよく観察されている。以下では文末に「sim(-ita)」が生起する具体的な例を挙げながら、尊敬の「si」の機能拡張について述べる。以下、コピュラ付きの「sim-ita」、コピュラ無しの「sim」の順に取り上げる。

まず、コピュラ付きの「sim-ita」の例を提示する。

(159)⁸⁹시어머님께서 안젤라를 봐 주시겠다며 신랑이랑 나들이를 다녀오라고 하셨다.

월요일이면 출산휴가를 마치고 회사에 출근하게 된 며느리를 배려하심이다.

Siemeni-kkeyse anceylla-lul pwa cwusi-keyss-ta-mye sinlang-ilang natuli-lul

姑-(尊敬語) 人名-を 見てくださる-意志-終結-伝聞 主人-と 外出-を

tanyeo-lako ha-sye-ss-ta. welyoili-myen chwulsanchyuka-lul machiko

行っ来てい-と 言う-尊敬-過去-終結語尾 月曜日だ-条件 出産休暇-を 終えて

hoysa-ey chwulkunha-key toy-n myenuli-lul paylyeha-si-m-ita.

会社-に 出勤する-ことになる-過去連体形 お嫁さん-を 配慮する-SIM-ITA

「姑がアンジェラの面倒を見てあげると言い、主人と外出に行っ来ていとおっしゃった。月曜日からは出産休暇を終えて会社に出勤することになったお嫁さんをお気使いだ。」

⁸⁹ <http://blog.naver.com/areum4025/50171975768> (2013年6月24日検索)

(159) は書き手自身の姑に対して、「sim-ita」で文を締めくくり、典型的な「si」の機能である敬意を示している。しかし、以下のように目上の人に対して敬意を表すとは考えにくい例が見られる。(160)(161)のように、本来は尊敬のマーカ―「si」を用いる必要のない書き手自身や、(162)(163)のように自分の子供、また、(164)に示すように主人に対して「sim-ita」で文を終結している。まず、書き手自身に対して「sim-ita」が用いられている例である。

(160)⁹⁰ <書き手の行ったタイレストランはセルフサービスなので、少しは面倒だが、手ごろな値段であるため、セルフサービスであってもそのレストランは気に入り、満足している。>

가격만 저렴해지면 충분히 셀프해 줄 용의 있으심이다—_+

Kakyye-man cyelyemhayci-myen chwungpwunhi seylphuhay cwu-l

価格-だけ 安くなる-条件 十分に セルフしてあげる-未来連体形

yonguy iss-usi-m-ita—_+

意思 ある-SIM-ITA

「値段さえ安くなれば喜んでセルフサービスしてあげる意思がおありだ。」

(161)⁹¹ <書き手自身は出産を迎えており、帝王切開よりは自然分娩が入院期間が短いということで、書き手は自然分娩を目指しながら、荷造りをしている。>

자연분만 2박 3일 기준으로 나는 짐을 챙겨 보심이다.

Cayenpwunman ipak samil kicwun-ulo na-nun cim-ul chayngkye po-si-m-ita.

自然分娩 2泊 3日 基準に 私は 荷物-を 取り揃えてみる-SIM-ITA

「自然分娩2泊3日を基準に私は荷造りを取り揃えていらっしゃる。」

(160) では書き手自身が行ったタイレストランはセルフサービスなので、少しは面倒だと思っているところである。しかし、その分、他のタイレストランに比べ、リーズナブルな値段であるため、セルフサービスであってもそのレストランは気に入り、満足している気持ちを「si」を通して表出し、それは「ポジティブな態度」の表れでもある。また、(161) では書き手自身が出産を迎えており、帝王切開より自然分娩の方が入院期間が短いということで、自然分娩を目指して入院する前に荷造りをしているところである。この場合は、当該の事柄に対して前向きに考えており、「si」によって「ポジティブな態度」が示されていると思われる。

⁹⁰ <http://whiteforrest.blog.me/90063662731> (2013年6月28日検索)

⁹¹ <http://blog.naver.com/dbwlsdk486/90112623101> (2013年7月8日検索)

このように、(160) は書き手自身の考え、(161) は書き手自身の行為について述べているが、なぜ、尊敬の「si」を付加した「sim-ita」で文を締めくくっているのであろうか。また、以下に示されるように、書き手自身の子供に対しても「sim-ita」を付随することができる。

(162)⁹² <書き手自身の子供のおもちゃの趣味に対して>

정말 장난감 코드 완전 특이하심이다.

Cengmal cangnankam khotu wancen thukiha-si-m-ita.

本当に おもちゃ コード 完全 特異だ-SIM-ITA

「本当におもちゃの趣味が特異でいらっしゃる。」

(163)⁹³ <ベビーカーに座るといつもベビーカーのバーに足をのせる習慣のある書き手自身の子供に対して>

이제 그 건방진 자세 시작되고 있으심이다...

Icey ku kenpangci-n casey sicaktoy-ko iss-usi-m-ita...

もう その 生意気だ-現在連体形 姿勢 始まる-ている-SIM-ITA

「もうその生意気な姿勢がお始まりだ。」

(162) は書き手自身の子供は普通の赤ちゃん向けのおもちゃにはあまり興味がなく、特にプラスチックキャップにはまっており、そればかり持って遊んでいるということに対して、(163) は書き手自身の子供がベビーカーに座ると、いつもベビーカーのバーに自分の足をのせる習慣があるという事柄に対して、「sim-ita」が用いられ、文を終結している。両者は書き手自身（母親）が自分の子供の行動に対して不満や怒りの気持ちを表出しているのではなく、かわいがっている書き手自身の子供（の行動）に対する「ポジティブな態度」を表す手段として「si」が用いられており、その結果「si」を通して「親愛」を表すこととなる。

さらに、以下の (164) は対等な関係の書き手自身の主人に対しても「sim-ita」が付随される例が見られる。

(164)⁹⁴ <和食店に行くと、いつもお弁当セットを注文する主人に対して>

남편이 좋아하는 도시락 세트 되겠다.ㅋㅋ 이 양반은 도시락 세트 있으면 꼭

⁹² <http://blog.naver.com/tock77/70141440964> (2013年10月23日検索)

⁹³ <http://minsunyee.blog.me/40188608710> (2013年10月23日検索)

⁹⁴ <http://jwpark79.blog.me/90163546674> (2014年12月13日検索)

시켜야 하심이다.

Namphyen-i cohaha-nun tosilak seythu toy-keyss-ta.ㄱㄱ

主人-が 好きだ-現在連体形 お弁当 セット なる-婉曲-終結語尾

i yangpan-un tosilak seythu iss-umyen kkok sikhye-ya ha-si-m-ita.

この 両班-は お弁当 セット ある-条件 必ず 注文する-なければならない-SIM-ITA

「主人が好きなお弁当セットになる。うちの主人はお弁当セットがあれば必ずご注文だ。」

(164) では家族そろって和食店に行き、主人にメニューの注文を任せたら、いつも通りお弁当セットを注文するという事柄に対して「sim-ita」で文を終結しており、主人に対する「ポジティブな態度」が「si」によって読み取れ、それは「親愛」へつながっていく。

次はコピュラ付きの「sim-ita」から見られる「si」の機能拡張を参照しつつ、コピュラ無しの「sim」の用例を取り上げる。

(165)⁹⁵ 비밀인데...울 엄마 책 너무 안 읽으심..ㄱㄱ

Pimil-intey...wul emma chayk nemwu an ilk-si-m..ㄱㄱ

秘密-ですが うち 母 本 まったく 否定 読む-SIM

「秘密ですが...うちの母は本をまったくお読みにならない。」

(166)⁹⁶ 우리 소녀사는 자기 생일인 것 마냥 한껏 꾸미고 오심ㄱㄱㄱ

Wuli so-yesa-nun caki sayngili-n-kes manyang hankkes kkwumiko o-si-mㄱㄱㄱ

うち 苗字-婦人-は 自分 誕生日だ-現在連体形-のように ひたすら お洒落して 来る-SIM

「うちのソ婦人は自分の誕生日であるかのようにひたすらお洒落していらっしゃる。」

(165) (166) は書き手自身の母に対してコピュラ無しの「sim」で文を締めくくり、一見尊敬のマーカー「si」を用いて敬意を表しているかのように読み取れるが、「本をまったく読まない」「お洒落して来る」という事柄に対する母への親密感を冗談交じりにふざけて表している。

(167)⁹⁷ 너님들도 참 대단하심.

Ne-min-tul-to cham taytanha-si-m.

⁹⁵ <http://yagum35.blog.me/120183450193> (2013年10月15日検索)

⁹⁶ <http://blog.naver.com/zzb8282/220157668694> (2015年1月20日検索)

⁹⁷ <http://blog.naver.com/applemint75/220171720873> (2015年4月7日検索)

あなた様-複数-も さすが 素晴らしい-SIM
「あなたたちもさすがお素晴らしい。」

(167) はご飯を食べに行った店の営業時間は夜 9 時 30 分までであるが、ラストオーダーは 9 時までということで、書き手自身は今 9 時 3 分なのでオーダーができると思ったら店員からだめだと言われて追い出された状況である。普通は目上の人でなくとも店の人に対して「si」を使うことは十分あり得るが、書き手自身は現在の状況に対して不満や怒りのようなネガティブな感情を感じており、「si」を通して非尊敬の機能である「皮肉」を示している。

このように、「尊敬」の「si」は「皮肉」「親愛」のような「非尊敬」の機能への拡張が見られる中で、(165)(166) の「si」のように「尊敬」と「親愛」の間にまたがっている例もあれば、(167) の「si」のように「尊敬（丁寧）」を表明すべき対象に対して完全に「皮肉」を表す手段として用いられることもある。

また、以下の例は、(160)～(164) の「sim-ita」と同様に、本来なら尊敬の「si」を用いる必要のない対象に対して「sim」が用いられる場合である。

(168)⁹⁸ 좀 어이없고 웃기심. ㄸ ㄸ

Com eiepsko uski-si-m. ㄸ ㄸ

ちょっと あきれるし 笑わせる-SIM

「ちょっとあきれるし笑わせてくださる。」

(169)⁹⁹ 너무 낮아서 끌기 힘드심.

Nemwu nacase kkul-ki himtu-si-m.

あまりにも 低くて 引く-名詞化辞 大変だ-SIM

「あまりにも低くて押すのが大変でいらっしゃる。」

(170)¹⁰⁰ 배 고파서 표정 우울하심ㅋㅋㅋㅋ

Pay kophase phyoceng wuwulha-si-m ㅋㅋㅋㅋ

腹 空いて 表情 憂鬱だ-SIM

「お腹が空いて表情が憂鬱でいらっしゃる。」

(168) は一応主人に許可を得てから、書き手自身のお金を払ってノートパソコンを購

⁹⁸ <http://blog.naver.com/withjoy79/130179141915> (2013年11月15日検索)

⁹⁹ <http://blog.naver.com/forthemoon83?Redirect=Log&logNo=60199328417> (2013年10月15日検索)

¹⁰⁰ <http://blog.naver.com/shinae213/70134563930> (2013年11月15日検索)

入したが、なぜか自分が買ってくれたかのように恩着せがましくふるまっている主人に対する「皮肉」ないし「不満」の気持ちが示されている。そして、「皮肉」ないし「不満」のような「ネガティブな態度」を表しているのが「si」であると考えられる。

また、(169) は書き手自身の子供を連れて遊園地に行き、乳母車を借りたが、思ったより低くて押しづらい状況におかれた自分に対して、(170) はお腹が空いて憂鬱そうな表情している書き手自身の子供に対して、両者とも「si」を使うことによって、それぞれ (169) は「不満」、(170) は「親愛」といった、尊敬の「si」から離れた機能が見てとれる。

本研究では「si」の「非尊敬」の機能として大きく「皮肉」と「親愛」を表しているものとみなしているが、両者の見分けは文脈によるものであり、多少判断基準が曖昧な場合も存在する。しかし、少なくとも敬意を払う対象ではない主人（例文 (168)）、書き手自身（例文 (169)）、自身の子供（例文 (170)）に対して「si」が出現し、しかも文末名詞化構文で文を締めくくることによって言い切りの「sita (시다)」に比べ、より多様な機能拡張の可能性が窺える¹⁰¹。

また、本研究では先行研究で殆ど取り上げていない無情物と尊敬のマーカー「si」との共起に注目する。以下に例を示す。

(171)¹⁰² 양말님 구멍 나심...

Yangmal-nim kwumeng na-si-m...

靴下様 穴 開く-SIM

「靴下様に穴がお開きになる。」

(172)¹⁰³ 우리 집 드럼 세탁기 사망하심.

Wuli cip tulem seythakki samangha-si-m.

我が家 ドラム 洗濯機 死亡する-SIM

「我が家のドラム式洗濯機が死亡なさる。」

(173)¹⁰⁴ 연어 초밥 한 접시에 사천원ㄸ 넘 비싸심ㅋㅋ

Yene chopap han cepsi-ey sachenwen ㄸ nem pissa-si-m ㅋㅋ

サーモン 寿司 1 皿-に 四千ウォン あまりにも 高い-SIM

「サーモン寿司 1 皿に四千ウォンあまりにもお高い。」

¹⁰¹ 文末名詞化構文「um-ita」による機能や特徴に関しては5.4.1.3節で後述する。

¹⁰² <http://dmsqlek00.blog.me/110166706129> (2013年11月15日検索)

¹⁰³ <http://blog.naver.com/muybien45/70160367986> (2013年11月15日検索)

¹⁰⁴ <http://blog.naver.com/hjinni83/70127389615> (2013年11月15日検索)

(174)¹⁰⁵ 파파스머프 책 읽으심.

Phaphasumephu chayk ilk-usi-m.

パパスマーフ 本 読む-SIM

「パパスマーフが本をお読みになる。」

(175)¹⁰⁶ 페인트가 마르심.

Pheyinthu-ka malu-si-m.

ペンキ-が 乾く-SIM

「ペンキがお乾きになる。」

(176)¹⁰⁷ 롯데닷컴...대단하심...-.-;;

Losteytaskhem...taytanha-si-m...-.-;;

ロッテドットコム 素晴らしい-SIM

「ロッテドットコム（ネットショップ）はお素晴らしい。」

ここで注目すべき点は韓国語の尊敬のマーカ―「si」が、(171)～(176) の「靴下」「洗濯機」「寿司」「置物」「ペンキ」「ロッテドットコム（ネットショップ）」のような人間以外のものに対しても顕著に共起するということである。

無情物と人間を主な対象とする尊敬のマーカ―「si」との組み合わせは、一見不自然に感じられる。しかし、(171)～(175) では「si」を通して、無情物をあたかも人間であるかのように捉え、親近感やユーモア、大切にしている存在への愛着などが含まれる「親愛」を表している。また、場合によっては (176) のように、「si」を通して、ネガティブな態度を表明する「皮肉」を示すことも可能である。

このように、無情物を対象として「si」が共起することによって、人間めかして大げさに表現することができ、「親愛」や「皮肉」のような機能が窺える。次節では以上の「sim(-ita)」の用例に基づいて考察を行う。

5.4.1.3 考察

本節では「sim(-ita)」を通して、(Ⅰ)「尊敬」の「si」から拡張した「si」の「非尊敬」の機能と、(Ⅱ) 文末名詞化構文「um(-ita)」の機能という2点に関して検証する。

まず、(Ⅰ)に関しては、前節では、尊敬のマーカ―が含まれた「sim(-ita)」を基にして、「si」が「尊敬」から「皮肉」「親愛」への機能拡張が見られることを「si」と共起

¹⁰⁵ <http://blog.naver.com/onion0131/194871229> (2013年11月15日検索)

¹⁰⁶ <http://blog.naver.com/kim1150eagle/10117677125> (2013年11月15日検索)

¹⁰⁷ <http://blog.naver.com/sesber/40159614735> (2013年11月15日検索)

する対象に焦点をあてて考察を行った。その結果、尊敬を表す「si」は、本来「si」が使われる「目上の人」だけでなく、「自分自身、自身の子供、主人（対等な関係）、無情物」などとの共起が顕著に見られることが分かった。この「si」の「(非) 尊敬」の機能を「ポライトネス」理論に当てはめてみると、「尊敬」の機能は韓国語や日本語のように、尊敬語が発達した言語においては、「ネガティブ・ポライトネス」の典型的な標識として挙げられる。一方、「非尊敬」の機能は前節で述べたように、大きく「皮肉」と「親愛」とに分けられる。まず、前者は「皮肉（「不満」「怒り」「非難」「からかい」）」のような、ネガティブな態度を表す際に、あえて尊敬の「si」を用いて、直接的でネガティブな感情や評価を和らげることができ、これは「ネガティブ・ポライトネス」の役割を果たしていると言える。これに対して、後者は「親愛（「親密（近）感」「愛着」）」のようなポジティブな感情や評価を表す際に、尊敬の「si」を用いて表すことができ、これは「ポジティブ・ポライトネス」の一種とも解釈できる。

岡本（2013）によれば、「皮肉のユーモア性は、いろいろな実験研究で確認されており、ユーモラスであることが、皮肉の口汚さを和らげている。また、ユーモラスの源泉はコミュニケーションの不誠実性であり、それによって少なくとも皮肉を言う側は免罪符を与えられユーモラスは皮肉の存在意義の一つである（p.207）」とされている。さらに、「人のもつ認知図式にある種のズレ・齟齬（incongruity）がもたらされることでユーモラスな印象が生じ、笑いが促される（辻 2001：56）」とあるように、「尊敬」の「si」から「皮肉」「親愛」への機能拡張は、本来の「si」の機能からするとズレ・齟齬の表れであり、そこから醸し出された「ユーモア」は「皮肉」「親愛」という機能と深く結びついているものでもある。

本来「si」が有している「尊敬」の機能からのズレ・齟齬は「ユーモア」を醸し出し、その「ユーモア」は「ポライトネス」理論からすると「ポジティブ・ポライトネス」の1つとして解釈することも可能である¹⁰⁸。そのため、「皮肉」を表す「si」は「ネガティブ・ポライトネス」と「ポジティブ・ポライトネス」という、2つの語用論的機能へまたがっていると言える。

以下、「si」から窺える「(非) 尊敬」の機能を「ポライトネス」理論に照らし合わせて考えると、表 16 のようにまとめられる。

¹⁰⁸ 辻（2001：57）では、「皮肉」とほぼ同様の意味として「アイロニー」という用語を使っており、アイロニーは聞き手が非難・批評の標的になるため、聞き手に対して必ずしもユーモラスな印象を与えることではないと述べている。

表 16 「si」と「ポライトネス」との対応関係

「si」の機能			ポライトネス
「尊敬」			「ネガティブ・ポライトネス」
「非尊敬」	「皮肉」	「ユーモア」	「ネガティブ・ポライトネス」
	「親愛」		「ポジティブ・ポライトネス」

以上のことから分かるように、韓国語の敬語のマーカ―「si」は目上の人に対して敬意を表す通常の機能だけでなく、書き手自身、書き手自身の子供、対等な関係（主人、妻）に対して「皮肉」、「親愛」と代表される機能拡張の可能性が「sim(-ita)」によって確認できた。さらに、無情物や人間以外の生き物（愛玩動物）¹⁰⁹に対して「sim」が共起することが多く、本来人間にしか使えない「si」が無情物や愛玩動物などに対して生産的に共起することが分かった。敬語表現は相手や場面に配慮して使い分けていることば遣いであり、相手に負担をかけないという配慮を重視するものである（井出 2006）とされているように、敬語表現を用いて「皮肉」、「親愛」などを表明するということは、少なくとも表面的には丁寧に振舞って相手を配慮していることであると考えられる。

次に、(Ⅱ) 文末名詞化構文「um(-ita)」の機能について分析する。

まず、「sim(-ita)」は、終止形のような無標形式に置き換えることが可能である。以下、前節で取り上げた「sim(-ita)」を、尊敬のマーカ―「si」に終結語尾「ta (다)」が付加された「sita (시다)」に置き換えて提示する¹¹⁰。

(159')(前略) paylyeha-si-ta (배려하시다, お気使いだ)。

(160')(前略) yonguy iss-usi-ta (용의 있으시다, 意思がおありだ)。

(161')(前略) cim-ul chayngkye po-si-ta (짐을 챙겨 보시다, 荷物を取り揃えていらっしゃる)。

(162')(前略) thukiha-si-ta (특이하시다, 特異でいらっしゃる)。

¹⁰⁹ 人間以外の生き物（愛玩動物）に関しては5.4.2.1節で詳述する。

¹¹⁰ 文末名詞化構文の「sim(-ita)」を終止形の「sita」に置き換えられる基準として、筆者の内省とインターネット検索を基にした。今回は文末名詞化構文を無標の終止形に置き換え可能の可否に注目しているため、一連の終結語尾との共起可能性を認めている。つまり、終結語尾「ci (지)」「kwun(a) (균, 구나)」「ney (네)」など、複数の終結語尾が存在するが、ここでは代表的に「sita (시다)」と表記する。

- (163') (前略) sicaktoy-ko iss-usi-ita (시작되고 있으시다, お始まりだ).
- (164') (前略) kkok sikhye-ya ha-si-ta (꼭 지켜야 하시다, 必ずご注文だ).
- (165') (前略) nemwu an ilk-usi-ta (너무 안 읽으시다, 全くお読みにならない).
- (166') (前略) kkwumiko o-si-ta (꾸미고 오시다, お洒落していらっしゃる).
- (167') (前略) taytanha-si-ta (대단하시다, お素晴らしい).
- (168') (前略) uski-si-ta (웃기시다, 笑わせてくださる).
- (169') (前略) kkul-ki himtu-si-ta (끌기 힘드시다, 押すのが大変でいらっしゃる).
- (170') (前略) wuwulha-si-ta (우울하시다, 憂鬱でいらっしゃる).
- (171') (前略) kwumeng na-si-ta (구멍 나시다, お開きになる).
- (172') (前略) samangha-si-ta (사망하시다, 死亡なさる).
- (173') (前略) nem pissa-si-ta (넘 비싸시다, あまりにもお高い).
- (174') (前略) chayk ilk-usi-ta (책 읽으시다, 本をお読みになる).
- (175') (前略) pheynthu-ka malu-si-ta (페인트가 마르시다, ペンキがお乾きになる).
- (176') (前略) taytanha-si-ta (대단하시다, お素晴らしい).

このように、文末名詞化構文「sim(-ita)」は、終止形の「sita」のような無標形式に置き換えることが可能であるにも関わらず、なぜ文末名詞化構文「um(-ita)」として文を終止しているのであろうか。

特に無情物を対象とするコピュラ無しの「sim」に関して言うと、(171) は「靴下に穴が開いている」、(172) は「洗濯機が壊れている」、(173) は「思ったより寿司が高い」といった事柄に対して、書き手自身の意外性・驚き及び残念な気持ちが表されている。また、(174) は書き手自身がカフェで偶然見かけた置物のパパスマーフに対する可愛いと思っている感情、(175) は書き手自身がテーブルをリーフォームするためにペンキを塗っており、ほぼ乾燥した時点でペンキ(と関わる状況)に対する満足の気持ち、(176) は書き手自身が1年5ヶ月前にネットショップで購入したものを返品要請したが、まだ払い戻されていない状況であり、ロッテドットコム(ネットショップ)に対する怒りの気持ちなどを、「sim」を通して表している。そこには「si」による「親愛」(例文(171)~(175))や「皮肉」(例文(176))が表されていると同時に、文末名詞化構文「um(-ita)」による書き手の主観的態度(残念さ・親密(近)感・満足・不満・怒り)が反映されていると考える。

岸本(2005)では、「ブログとは、ウェブログ(Weblog)の略称で、もともとは、自分の興味のあるWebページのリンクとそれに対するコメントからなる個人サイトを指

すことばであったが、最近では、日記やエッセーなど多種多様な内容が公開されており、ネット日記の形式に近いものとしてとらえられはじめている (p.205)」とされている。

つまり、「um(-ita)」がよく用いられるブログでは一般的に写真付きが多く、その書き込みというのは、載せた写真に対して描写・解説・補足するパターンが多い。ブログにおいては、文末形式として無標の終止形が頻出するのは否定できないが、無標の終止形に限らず、「um(-ita)」も生産的に観察されるということであり、これは傾向に過ぎない。

以上で確認したように、「um(-ita)」は終止形に置き換えることが可能であるが、「um(-ita)」で現れる動機づけは何であろうか。その理由を探るため、まず韓国語の「um(-ita)」と類似した現象として、日本語の文末名詞化構文の一種である以下の例を見られたい。

(177) 九州秋のキャンピングカーショー2011in 福岡ドームも昨日で無事終了いたしました！ご成約いただいたたくさんのお客様をはじめ、ご来場くださったすべてのお客様に感謝です！（鈴木 2012：349）

(178) 今朝は曇りでウエットというコンディションでしたが、現在のサーキットはこんな感じです。……（中略）……いつもに比べてあまり暑くないなあと感じるのは風のおかげかもしれませんね。お盆も過ぎたのでちょっとずつ涼しくなってくれることに期待です。（鈴木 2012：350）

(177) (178) は、近年インターネットのブログなどでよく見受けられる「名詞+です」形式であり、それぞれは「感謝します」「期待します」のような、無標の終止形（動詞・形容詞述語文）に還元できるはずである。しかし、あえて「名詞+です」にすることによって、「話者が直接的な訴えかけを避け、読み手に心理的負担をかけずに、結果的に書き手自身の心的負担も避けつつ、その心情を表明する働きをしている（鈴木 2012：353）」という指摘は示唆的である。

また、文末に名詞が置かれ、「です」で結ばれる名詞述語文の「見出し構文（田中 2012）」がある。以下では文末に動詞を使った通常の文（動詞述語文）と、見出し構文（名詞述語文）とを比較した例を示す。

(179) イチロー選手が、電撃移籍しました。

(180) イチロー選手が、電撃移籍です。（田中 2012：24）

(179) は客観的に淡々と事実を伝える現象描写である一方、(180) は単なる現象描写にとどまらず特別なニュアンスをまとうっており、「大変です！大ニュースです！」という「驚き・感慨」を含んだ発話態度を示している。これは、話者の驚き（意外性）の「表出」であると同時に、聞き手の驚きを誘う効果にもつながるという（田中 2012：24-25）。

文末名詞化構文の「um(-ita)」は無標の終止形に置き換えることができるが、文末で「um(-ita)」がマークすることで、書き手自身が「情報提供、感情表出、意思表明、要請・依頼、挨拶・儀礼」¹¹¹などを表明する際に、読み手に対する押し付けがましさを緩和する役割が果たされていると考えられる。その結果、当該の事柄あるいは対象に対する様々な語用論的機能を読み手に積極的・直接的に伝えようとするのではなく、一応報告はするが、その反応を必ずしも期待しているわけではない。

鈴木（2012）と田中（2012）が指摘しているように、名詞述語文は一方的に読み手に当該の事柄を直接示すのではなく、当該の事柄に対する解釈は読み手に委ねるとされているように、韓国語の文末名詞化構文「um(-ita)」においても同様のことが伺われる。

ただ、コピュラ付きの「um-ita」と、コピュラ無しの「um」における機能上の相違としては、「「体言止め」の「わけ」「はず」「こと」「感じ」は相手に共感の効果、丁寧さやソフトな印象を与えることができる（メイナード 2004：264）」という指摘があるように、コピュラ無しの「um」のほうがコピュラ付きの「um-ita」に比べ、より文脈的・語用論的の解釈の余地が生み出され、聞き手側はそれを補足するような付随的な解釈が可能となる。これはコピュラ付きの「のだ」「わけだ」「ことだ」「ものだ」と、コピュラ無しの「の」「わけ」「こと」「もの」との対比を通して、前者は個々の構文の表す文法的意味が明確であるのに対して、後者はより語用論的・文脈的解釈の幅が広い（堀江 2005, 堀江・パルデシ 2009）という指摘と平行的である。

本研究では「um(-ita)」を 1 つの構文として見なし、特にブログでは安定した新奇表現として出現していることを主張しているが、決してブログでの終止形の生起を否定しているわけではない。ただ、本来終止形が用いられるはずだが、その一部が「um(-ita)」によって選好されているということであり、日本語と同様に、韓国語においても「名詞志向構造」の度合いが高くなる可能性を示唆するものと思われる¹¹²。

¹¹¹ 渡辺（2007）で取り上げているブログで見られる文の機能である。

¹¹² 金（2003）では日本語は「名詞志向構造」、韓国語は「動詞志向構造」という指摘がなされている。

次節では韓国語「sim(-ita)」とそれに相当する日本語との対照を行う。

5.4.2 韓国語の「sim(-ita)」と日本語との対比

本節では韓国語の「sim(-ita)」を基準とし、それと深い関連性を持つ日本語との対比を行う。具体的には (I) 日韓両言語における尊敬のマーカ―と無情物との共起可能性、(II) 尊敬の意味を含んでいる文末名詞化構文、つまり、韓国語の「sim(-ita)」と日本語の「お～だ」文における機能や特徴という、2点を手がかりにして考察をし、韓国語と日本語の類似点や相違点を明確にする。

以下、(I) に関しては 5.4.2.1 節で、(II) に関しては 5.4.2.2 節で述べる。

5.4.2.1 日韓両言語における尊敬のマーカ―と無情物との共起可能性

前節で述べたように、韓国語の場合は無情物を対象として「sim」が用いられる用例が頻繁に見られたが、日本語の場合はどうか。

角田 (2005) では「所有者敬語」について、「所有者への敬意が所有物を通して、間接的に表現されている (p.118)」と述べて、(181) のように所有者敬語の自然さや適格さに影響される所有者敬語の種類を提示している。その具体的な例は (182)～(187) を見られたい。

(181) 身体部位 > 属性 > 衣類 > 愛玩動物 > 作品 > その他の所有物

(p.119 一部の種類は筆者によって省略)

(182) 最近、天皇陛下の髪がすっかり白くなられました。

(183) 天皇陛下のご体温はもとの状態に戻られました。

(184)? 天皇陛下のお帽子が少し古くなられました。

(185)* 天皇陛下の愛犬が病気になられた。

(186)* 天皇陛下のご著書が店頭に出ていらっしゃいます。

(187)* 天皇陛下のお車が故障なさいました。(角田 2005)

以上の例文から分かるように、主語は天皇の身体部分、属性、衣類、愛玩動物、作品、その他の所有物など、広い意味での所有物を指し、一見所有物に敬意を示しているかのように見えるが、実際には、被尊敬者は天皇であり、これらの所有者への敬意は所有物

を通して表されているということである（詳細は角田 2005: 117-132 を参照）。

特に、角田（2005）では (184)～(187) の「帽子」「愛犬」「著書」「車」のような無情物や愛玩動物などは、敬語との共起は不自然であると指摘しているが、以下のように日本語の場合、無情物と敬語表現が共起する例が観察されている。

(188)¹¹³ <着物を丁寧に着ている人形に対して>

あら、お嬢さん、どちらまでお出かけですか。

(189)¹¹⁴ スマホがお亡くなりになりました。

(188) (189) の「人形」「スマホ」は無情物であるものの、人間に対する専用の言葉とも言える敬語表現が使われることによって、あたかも人間であるかのように扱われ、(171)～(175) の「sim」のように、無情物に対する親近感や愛着など「親愛」を表明することができる。

韓国語の場合は、特にネット上で尊敬の「si」と無情物との共起がかなり多く見られるのに対して、日本語の場合は (188) (189) のような例はあるものの、韓国語に比べると敬語表現と無情物との共起はあまり生産的に観察されないようである。

また、以下は角田のいう「愛玩動物」に該当するもので、無情物ではないが、韓国語の「sim」では人間に対して用いられる専用マーカースとも言える「si」が人間以外の生きものと共起することは珍しくない。

(190)¹¹⁵ <書き手自身が飼っている犬に対して>

침대 가운데서 기절하고 주무심.

Chimtay kawuntey-se kicelhako cwumwu-si-m.

寝台 真ん中で 気絶して お休みになる-SIM

「ベットの真ん中で気絶したようにお休みになる。」

(191)¹¹⁶ <書き手自身が飼っている 2 匹の猫に対して>

간만에 사이 좋은심;;

Kanmaney sai coh-usi-m;;

久しぶりに 仲 いい-SIM

¹¹³ <http://ameblo.jp/veveneco/entry-11436820098.html> (2013年10月23日検索)

¹¹⁴ <http://blogs.yahoo.co.jp/kunta542003/11224868.html> (2013年10月23日検索)

¹¹⁵ <http://blog.naver.com/fantasia425/40197351137> (2013年10月23日検索)

¹¹⁶ <http://blog.naver.com/sroshejp/90087631130> (2013年10月23日検索)

「久しぶりに仲がよろしい。」

(192)¹¹⁷ <書き手自身が長年飼っていたニモ（魚）に対して>

아직까지 팔팔하심.

Acikkkaci phalphalha-si-m.

未だに びんびんする-SIM

「未だにびんびんなさっている。」

(190)～(192) は人間以外のものの「犬」「猫」「魚」に対して尊敬のマーカー「si」が使われている場合であり、その対象に対する「親愛」のようなポジティブな感情・評価を表明していることが分かる。

このように、韓国語の尊敬のマーカー「si」は人間にしか使えないマーカーであるが、人間以外のものと共起することによって、楽しさのある生き生きした文になり、親近感やユーモアなどを発揮することから、韓国語において擬人法（personification）のマーカーとして有効な手段であると考えられる。

これに対して、日本語の場合は以下のように、愛玩動物に対して敬語表現が共起することは不自然である。

(185’)* 天皇陛下の愛犬が病気になられた。（角田 2005 : 124）

(193)* 陛下の馬が優勝なさいました。（角田 2005 : 124）

日本語の場合、自分が飼っている犬や猫に対して、例えば「うちの子はね～～」のようなフレーズはよく使われており、愛玩動物に対して擬人化する傾向がなくはない。しかし、(185’) (193) に示されるように、愛玩動物のような人間以外のものに対して敬語表現を用いることは難しい。

このように、韓国語は尊敬のマーカーが含まれている「sim(-ita)」を用いて無情物や愛玩動物に対して擬人化する傾向が見られるのに対して、日本語は、敬語表現と無情物や愛玩動物が共起することはあまりない。これは日本語の場合、擬人法的な表現を避ける傾向がある（池上 2006）ことと無関係ではなかろう。

¹¹⁷ <http://blog.naver.com/princessjyu/60111322161> （2013年10月23日検索）

5.4.2.2 韓国語の「sim-ita」と日本語の「お～だ」文との対比

韓国語の「sim-ita」は尊敬のマーカー「si」を含んでいるコピュラ付きの文末名詞化構文であり、日本語の「お～だ」文は「お（ご）～になる」、「～（ら）れる」と同じく尊敬述語形式でありながら、形態的にはコピュラを伴う名詞述語文の構造をなしている。そのため、本研究では韓国語の「sim-ita」にもっともよく対応する形式と見られる日本語の「お～だ」文を取り上げ、両形式の対比を行う。

5.4.1.3 節で前述したように、「sim-ita」は本来「si」を使うべき「目上の人」のみならず、「自分自身」「自身の子供」「対等な関係」「無情物」などに対しても用いられ、「皮肉」や「親愛」のような機能を体現し、それらの機能は「ユーモア」と密接なかかわりを持つ。つまり、「sim-ita」を通して、「si」の機能拡張が顕著に見られることと、今までは非典型的なものであった文末名詞化構文の「um-ita」が頻出し、特化した機能を表していることが確認できた。

日本語の「お～だ」文は主体尊敬述語形式でありながら、名詞述語文の構造をなしている点で、韓国語の「sim-ita」と非常に類似している。まず、「お～だ」文の具体的な例を以下に示す。

- (194) 先生はどういうお考えなんですか。
(195) 先生はどうお考えなんですか。
(196) あの方は東京のお生まれだ。
(197) あの方は東京でお生まれだ。（新屋 2014 : 80）

(194)～(197) は表面的には「お～だ」文の構造をしているが、(194) (196) は名詞述語文、(195) (197) は主体尊敬述語形式の「お～だ」文であり、両者において意味上の違いは殆どない。しかし、以下の例は主体尊敬述語形式の「お～だ」文であるか、名詞述語文であるか曖昧になってくる。

- (198) 「桑田伸子様」やっと呼ばれて、伸子は急いでカウンターへ走った。
「お引き出しですね。」
(199) 今日課長はお休みです。（新屋 2014 : 80）

上記の「お～だ」文と同じく、韓国語の文末名詞化構文の「sim(-ita)」は、(200) (201)

に示されるように「si」が本来の「尊敬」を表しているのか、「親愛」のような拡張した機能を表しているのかが曖昧な場合がある（詳細は 5.4.1.2 節を参照）。

(200)=(165) 비밀인데...을 엄마 책 너무 안 읽으심..ㅋㅋ

Pimil-intey...wul emma chayk nemwu an ilk-usi-m..ㅋㅋ

秘密-ですが うち 母 本 まったく 否定 読む-SIM

「秘密ですが...うちの母は本をまったくお読みにならない。」

(201)=(166) 우리 소녀사는 자기 생일인 것 마냥 한껏 꾸미고 오심ㅋㅋㅋ

Wuli so-yesa-nun caki sayngili-n-kes manyang hankkes kkwumiko o-si-mㅋㅋㅋ

うち 苗字-婦人-は 自分 誕生日だ-現在連体形-のように ひたすら お洒落して 来る-SIM

「うちのソ婦人は自分の誕生日であるかのようにひたすらお洒落していらっしゃる。」

また、尊敬述語形式とは考えにくい「お～だ」文の例を見られたい。

(202) 先ほどからお客様が、入口の受付けでお待ちだよ。

(203) みなさん、クリスマスのご予定は、お決まりですか？

(204) 学校様はお怒りだ。

(205) あの方は毎日隅から隅まで新聞をお読みです。

(206) みなさまおかわりなくお過ごしでしょうか。

(207) おや、もう、お帰りですか、ありがとうございます。また、ごひいきに。

(208) 平三郎が筆を走らせた紙を手に、蘭剣は鎧櫃ごと外へ出ていき、それきり戻らないという。「何の絵をお書きです?」「いや」と平三郎は言葉を濁し、腕を組んだ。

(新屋 2014 : 75-76)

新屋 (2014) によれば、(202) は「現在持続中の行為を表すもの」、(203) は「過去に終了した動きの結果としての現在の状態を表すもの」、(204) は「現在の思考・感情などの主観のあり方を表すもの」、(205) は「現在の反復、習慣などを表すもの」、(206) は「長期的な状態を表すもの」、(207) は「眼前の状況を機能づけるもの」、(208) は「過去の動作を問題にするもの」であり、従来の尊敬述語形式の一種ではないと述べている。これらは普通の動詞述語文であれば、非過去形、過去形、テイル形などで表されるものであるが、すべて「お～だ」文で表されている。また、「お～だ」文は非過去形によって現在を表すものが大半であり、いずれもテンスやアスペクトに影響を受けるというよりは、眼前の状況を叙述しようとする「状況叙述」という点で、名詞述語文と共通する

という。

韓国語「sim(-ita)」の場合は、形態・統語上名詞述語文であることは間違いないが、「sim(-ita)」の「si」には「尊敬」や「皮肉」「親愛」のような、いずれかの意味が確実に残されている。つまり、「sim(-ita)」は「si」の「尊敬」「皮肉」「親愛」のような意味が保たれるなかで、「um(-ita)」を通して、当該の事柄を描写・解説する際に、読み手に中立的・間接的に伝えようとし、それが押し付けがましさを軽減することにつながっていく。これに対して、日本語の「お～だ」文は、尊敬述語形式として用いられるのは確かであるが、尊敬表現と名詞述語文との間に見分けが困難なこともあり、尊敬の意味を含まない「お～だ」文は「状況叙述」が主な機能として挙げられる（新屋 2014）。

つまり、韓国語の「sim(-ita)」と日本語の「お～だ」文は、当該の事柄に対して、描写・解説、状況叙述のような、名詞述語文としての機能を有しつつも、韓国語の「sim(-ita)」は確実に「si」の意味が残されている。これに対して、日本語の「お～だ」文は尊敬表現と名詞述語文との間でゆれが見られる場合もあり、「お～だ」文が「状況叙述」を表す場合は、完全に「尊敬」の意味を喪失していることが分かった。その大きな理由として、日本語の尊敬述語形式は、「お（ご）～になる」、「～（ら）れる」、「お（ご）～だ」など多数存在しているのに対して、韓国語において尊敬を表す形式は「si」が唯一である。そのため、日本語の「お～だ」文が尊敬の意味を無くし、名詞述語文に転向できる可能性は、韓国語の「sim(-ita)」に比べ、より容易であると考えられる。その反面、韓国語の「sim(-ita)」は形態・統語上名詞述語文の構造をなしつつ、「尊敬」「皮肉」「親愛」のような「si」の意味がそのまま維持されて現れるだろう。

次節では「um(-ita)」と同様に、韓国語の文末名詞化構文の 1 つとして見なしている「ki-ita」に関して考察を行う。

5.5 韓国語の「ki-ita」に関する分析

本節では韓国語の「ki-ita」に関して考察する。文末に生起する「ki-ita」は大きく 2 つのパターンが見られる。具体的には、表面的には「ki-ita」の形態をとるが、「ki」と「ita」に分割可能な場合と、「ki-ita」が一語化した場合とがある。以下、それぞれ分割可能な「ki-ita」、一語化した「ki-ita」と総称する。

次節では文末に生起する「ki-ita」に対して分割可能な場合、一語化した場合の順に見ていく。

5.5.1 分割可能な「ki-ita」の機能

まず (209) (210) に示すように、「ki-ita」が「ki」と「ita」とに分割可能な場合の具体例を見てみる。

(209)=¹¹⁸ 고속도로 주행에서 가장 편한 운전은 앞차따라가기이다.

Kosoktolo cwuhayng-eyse kacang phyenanha-n wuncen-un aphcha

高速道路 走行-で 一番 楽だ-現在連体形 運転-は 前車

ttalaka-ki-ita.

ついて行く-KI-ITA

「高速道路走行で一番楽な運転は前の車について行くことだ。」

(210)¹¹⁹ <율마>관리의 키포인트는 햇빛과 통풍 그리고 물주기이다.

<Yulma> kwanli-uy khiphointhu-nun hayspich-kwa thongphwung kuliko

<ゴールドクレスト> 管理-の キーポイント-は 日差し-と 風通し そして

mwul cwu-ki-ita.

水 やる-KI-ITA

「<ゴールドクレスト>管理のキーポイントは日差しと風通し、そして水をやることだ。」

(209) では「高速道路走行で一番楽な運転」、(210) では「<ゴールドクレスト>管理のキーポイント」といえば、それぞれ「前の車について行くこと」「日差しと風邪通し、そして水をやること」が挙げられるといった、指定文「A は B だ」の構造をなしている。

また、以下の (211) (212) は「A が B だ」の構造をなしており、「ki-ita」が「ki」と「ita」に分割できる (209) (210) と同様の統語的構造をしている。

(211)¹²⁰ 상하이에서 못하는 문화생활 중 하나가 극장가기이다.

Sanghai-eyse mosha-nun mwunhwasaynghwal cwung hana-ka

上海-で できない-現在連体形 文化生活 中 1つ-が

kukcang ka-ki-ita.

映画館 行く-KI-ITA

「上海でできない文化生活中的の1つが映画館に行くことだ。」

(212)¹²¹ (유기동물) 보호소 가는 길의 차선책이 강서구 15번 버스타기이다.

¹¹⁸ 例文 (209)~(214) の「ki-ita」は「A∈Bだ」構造をとっており、その「A」と「B」に関しては波線 (~~~~) で示す。

¹¹⁹ <http://blog.daum.net/womanangel/18295692> (2013年3月22日検索)

¹²⁰ <http://mrsshanghai.blog.me/40161226593> (2013年2月21日検索)

(Yukitongmwul) pohoso ka-nun kil-uy chasenchayk-i kangsekwu 15pen
 (遺棄動物) 保護所 行く-現在連体形 道-の 次善策-が 江西区 15 番
 pesu tha-ki-ita.
 バス 乗る-KI-ITA

「(遺棄動物) 保護所に行く道の次善策は江西区 15 番バスに乗ることだ。」

(211) (212) では「上海でできない文化生活中的の 1 つ」「(遺棄動物) 保護所に行く道の次善策」として「映画館に行くこと」「江西区 15 番バスに乗ること」を挙げている。

(209)～(212) から分かるように、分割可能な「ki-ita」は述語の語幹に結合する統語的特徴を持つ。また、意味的観点からすると、文中に現れる名詞化辞の「ki」は、「現実」を表す「um」とは異なって、「非現実」を表すマーカーであるが、文末に「ki-ita」という形態で生起する場合は、「非現実」を表象する意味は無くなり、ニュートラルに名詞化辞としての役割のみが残存する¹²²。

そのため、「ki-ita」は「現実」「非現実」という両者をコード化する名詞化辞の「kes」に置き換えることが可能である。また、金(2005)も言及しているように、文末に名詞化辞の「ki」が用いられる場合、通常助詞が省かれる統語的特徴を有するため、逆に名詞化辞の「ki」を「kes」に言い換えるには、助詞を付け加える必要がある。

詳細には述部の (209) の「aphcha ttalakaki (앞차따라가기, 前の車ついて行くこと)」、(210) の「mwul cwuki (물주기, 水やること)」、(211) の「kucang kaki (극장가기, 映画館行くこと)」、(212) の「pesu thaki (버스타기, バス乗ること)」は、以下の (209')～(212') のようにそれぞれ助詞「ul/lul (을/를, に/を)」や「ey (에, に)」が添えられ、「ki」を「kes」に言い換えることができる¹²³。

(209') (前略) 앞차를 따라가는 것이다.

.....aphcha-lul ttalaka-nun kes-ita.

前車-に ついて行く-現在連体形 KES-ITA

「.....前の車について行く ことだ。」

¹²¹ <http://blog.naver.com/rusipia89/140118982498> (2013年2月21日検索)

¹²² 韓国語の「talliki (달리기, 走り)」「palkki (밝기, 明るさ)」「khuki (크기, 大きさ)」「swulla ycapki (술래잡기, 隠れん坊)」などは、すでに定着した名詞として位置づけられており、これらは「非現実」の意味を表さないニュートラルな名詞化辞の「ki」の例として挙げられる (이익섭 2006)。

¹²³ 名詞化辞の「ki」を「kes」に言い換えるには助詞の補足のみならず、「ki」は述語の語幹に結合するのに対し、「kes」は連体形語尾が前接する特徴があるため、根本的な結合のし方が異なる。

(210')(前略) 물을 주는 것이다.

.....mwul-ul cwu-nun kes-ita.

水-を やる-現在連体形 KES-ITA

「.....水をやることだ。」

(211')(前略) 극장에 가는 것이다.

.....kukcang-ey ka-nun kes-ita.

映画館-に 行く-現在連体形 KES-ITA

「.....映画館に行くことだ。」

(212')(前略) 버스를 타는 것이다.

.....pesu-lul tha-nun kes-ita.

バス-に 乗る-現在連体形 KES-ITA

「.....バスに乗ることだ。」

以上、「ki-ita」は主題や主語などを明示する場合が殆どであり、その主体は、文末の「ki」に導かれる名詞句とイコールまたはその一部として捉えられる「 $A \in B$ 」のような構造を持つ。つまり、表面的にはコピュラを伴う「ki-ita」の形態をとっているが、「ki」と「ita」に分割可能であり、述語の語幹に接続して名詞のような振る舞いをするなど、名詞述語文の構造をしていることが分かった。分割可能な「ki-ita」の構造を示すと図3の通りである。

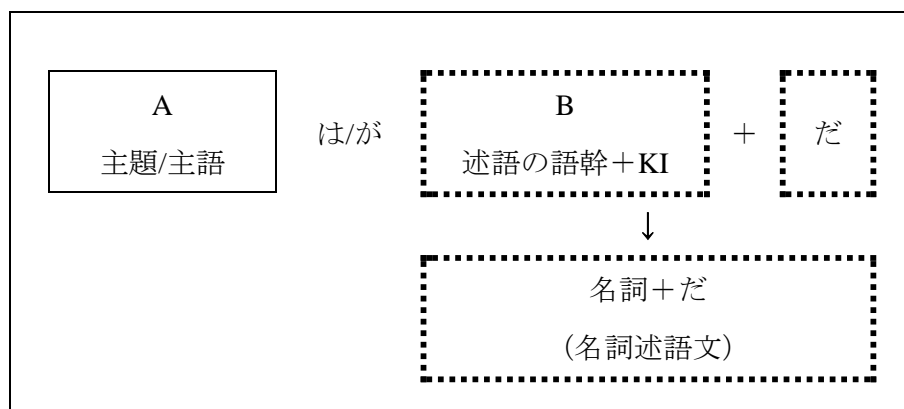


図3 分割可能な「ki-ita」の構造

このように、分割可能な「ki-ita」の「ki」は「非現実」を表象するというより、述語の語幹に結合し、名詞として振る舞っていることとなる。しかし、以下のように分割可能な「ki-ita」のうち、「目標」「宿題」のような「非現実」と関連性を持つ名詞が明示さ

れると、多少「非現実」をコード化しているように読み取れるのも事実である。

(213)¹²⁴ 이차 목표는 카메라사기이다.

Icha mokphyo-nun khameyla sa-ki-ita.

2次 目標-は カメラ 買う-KI-ITA

「2次目標はカメラを買うことだ。」

(214)¹²⁵ 오늘의 숙제는 집에 가서 부모님 심부름하고, 안마해 드리기이다.

Onul-uy swukcey-nun cip-ey kase pwumo-nim simpwulum hako,

今日の 宿題-は 家-に 行って 親-様 お使い して

anma hay tuli-ki-ita.

マッサージして 差し上げる-KI-ITA

「今日の宿題は家に帰って親のお使いをし、マッサージをして差し上げることだ。」

(209)～(212)の「ki-ita」に比べ、(213)(214)の「ki-ita」は「非現実」が含意されているのは確かであるが、いずれにしても「ki」と「ita」に分割可能である「名詞述語文」であることは間違いない。次節では一語化した「ki-ita」の機能について述べる。

5.5.2 一語化した「ki-ita」の機能

「ki-ita」は「ki」と「ita」に分割できず、一語化した例がしばしば見られる。「ki-ita」は「um-ita」に比べ、共起可能な先語末語尾がより制限的であり、分割可能な「ki-ita」は述語の語幹にのみ後接する特徴が見られたが、一語化した「ki-ita」は述語の語幹のみならず、過去の先語末語尾¹²⁶に後接することができる。まず語幹に「ki-ita」が後接する(215)(216)の例を以下に提示する。

(215)¹²⁷ 첫인상은 대단히 중요하다. 사람에게 대한 호감도, 그 절반이 첫인상에서 좌우되는 경우가 많기이다. 그런데 언젠가부터 첫인상으로 사람을 판단하기 어려워졌다.

Chesinsang-un taytanhi cwungyohata. salam-ey tayha-n hokam-to ku

初印象-は とても 重要だ 人-に 対する-現在連体形 好感-も その

celpan-i chesinsang-eyse cwawutoy-nun kyengwu-ka manh-ki-ita. kulentey

¹²⁴ <http://blog.naver.com> (2012年11月16日検索)

¹²⁵ <http://blog.naver.com> (2012年11月15日検索)

¹²⁶ これ以後「過去のマーカ」を表記する。

¹²⁷ <http://blog.ohmynews.com/aidemtub/311700> (2013年12月2日検索) また、例文 (215)～(218)の先行文に関しては波線 (~~~~~)、後行文に関しては一重線 (____) で示す。

半分-が 初印象-から 左右される-現在連体形 場合-が 多い-KI-ITA ところで
enceynka-pwuthey chesinsang-ulo salam-ul phantanha-ki elyewecye-ss-ta.

いつか-から 初印象-で 人-を 判断する-名詞化辞 難くなる-過去-終結語尾
「第一印象はとても重要である。人に対する好感も、その半分は第一印象に左右さ
れる場合が多いからである。ところでいつからか第一印象で人を判断するのが難
しくなってきた。」

- (216)¹²⁸ 욕지로 올라오면 꼬리가 떨어져 나간다. 꼬리가 떨어지는 이유는 필요가 없어서이다. 자연은 혹독하기 때문에 필요가 없으면 도태시킨다. 그렇지 않으면 생존할 수 없기이다. 필요없기 때문에 떨어져 나간다. 필요한 것만 남아있다는 사실이 새삼스럽게 느껴졌던..ㅎ

Yukci-lo ollao-myen kkoli-ka ttelecy naka-n-ta. kkoli-ka tteleci-nun
陸地-に 上がってくる-条件 尻尾-が 切られていく-現在-終結語尾 尻尾-が 切られる-現在連体形
iyu-nun philyo-ka epsese-ita. cayen-un hoktokha-ki ttaymwuney philyo-ka
理由-は 必要-が なくて-だ 自然-は 酷毒する-名詞化辞 なので 必要-が
eps-umyen tothaysikhi-n-ta. kuleh-ci anh-umyen sayngconha-l swu
ない-条件 淘汰させる-現在-終結語尾 そうだ-否定-条件 生存する-未来連体形 こと
eps-ki-ita. philyo eps-ki ttaymwuney ttelecy naka-n-ta. philyoha-n
ない-KI-ITA 必要 ない-名詞化辞 なので 切られていく-現在-終結語尾 必要だ-現在連体形
kes-man namaiss-tanun sasil-i saysamsulepkey nukkyecy-essten..ㅎ
もの-のみ 残っている-という 事実-が あらためて 感じられる-過去経験連体形
「陸地に上がってくると、尻尾が切られてしまう。尻尾が切られる理由は必要がないからである。自然は厳しいので、必要がなければ淘汰させる。そうでなければ生存することができないからである。必要ないから切られていく。必要なもののみ残っているという事実があらためて感じられた。」

(209)～(214) の分割可能な「ki-ita」と同様に、(215) (216) では文末に「ki-ita」が生起している点では共通しているが、必ずしも「A は/が B だ (「A∈B だ」)」のような構造をとっていない。これは (209)～(214) とは異なる機能を持つ可能性の表れでもあるため、両者においてどのような相違が見られるのかについて、特に先行文に注目する。

(215) の「人に対する好感も、その半分は第一印象に左右される場合が多い」、(216) の「そうでなければ生存することができない」といった「ki-ita」に導かれる事柄は、それぞれ「第一印象はとても重要である」、「自然は厳しいので、必要がなければ淘汰させる」という事柄に対する「原因・理由」を表している。

¹²⁸ <http://blog.daum.net/injcj/43> (2013年12月3日検索)

次に (217) (218) のように、「ki-ita」は過去のマーカーに後接する場合もあり、同じく「原因・理由」を表すことができる。

- (217)¹²⁹ 몸은 기존의 599 에 비해 길이가 짧고 차고가 낮아졌지만, 이것은 신형 서스펜션과 기어 박스의 레이아웃에 의해 차량 후방을 컴팩트하게 할 수 있었기이다. 50kg 의 경량화를 도모해, 핸드링과 카본 세라믹 브레이크의 제동 성능을 크게 향상시키고 있다.

Mom-un kicon-uy 599-ey pihay kili-ka ccalpko chako-ka nacacye-ss-ciman

ボディーは 既存-の 599-に 比べて 長さ-が 短くて 車高-が 低くなる-過去-が

ikes-un sinhyeng sesupheynsyen-kwa kie paksu-uy leyiauwus-ey uyhay

これは 新型 サスペンション-と ギア ボックス-の レイアウト-によって

chalyang hwupang-ul khemphaykthuhakey ha-l swu iss-ess-ki-ita.

車両 後方-を コンパクトに する-未来連体形 こと ある-過去-KI-ITA

50kg-uy kyenglyanghwa-ul tomohay, hayntuling-kwa khapon seymil puleyikhu-uy

50kg-の 軽量化-を 図って ハンドリング-と カーボン セラミック ブレーキ-の

ceytong sengnung-ul khukey hyangsangsikhi-ko iss-ta.

制動 性能-を 大きく 向上させる-ている-終結語尾

「ボディーは既存の 599 に比べて長さが短くて車高が低くなったが、これは新型サスペンションとギアボックスのレイアウトによって車両後方をコンパクトにすることができたからである。50kg の軽量化を図ってハンドリングとカーボンセラミックブレーキの制動性能を大きく向上させている。」

- (218)¹³⁰ 재료가 달랑 우리식구 먹을 한판 분량 밖에 없는 것을 모르는 우리 아들이... 피자 먹는다고 자랑하고 초대해도 되냐고 물어보는데, 안돼! 라고 말할 수 없어서 오라고 했다. 그리고 난 그 후부터 너무 바빴다. 반죽해서 발효시키는 동안 재료상에 피자치즈를 사러 가야 했기이다.

Caylyo-ka tallang wuli sikkwu mek-ul hanphan pwunlyang pakkey

材料-が もっぱら うち 家族 食べる-現在連体形 ワンホール 分量 しか

eps-nun kes-ul molu-nun wuli atul-i... phica mek-nun-ta-ko

ない-現在連体形 こと-を 知らない-現在連体形 うち 息子-が 피자 食べる-現在-終結語尾-と

calang hako chotay hayto toynya-ko mwulepo-nuntey, antway! lako

自慢 して 招待 しても いいか-と 聞かれる-のに だめ と

malha-l swu epsese o-lako hay-ss-ta. kuliko nan ku hwu-puthe

言う-未来連体形 こと なくて 来い-と 言う-過去-終結語尾 そして 私は その 後-から

¹²⁹ <http://blog.naver.com/ckdtjq0730/120191326695> (2013年12月3日検索)

¹³⁰ <http://blog.daum.net/four-childmom/123> (2013年12月2日検索)

nemwu pappa-ss-ta. pancwukhayse palhyosikhi-nun tongan caylyosang-ey
 かなり 忙しい過去-終結語尾 こねて 発酵させる-現在連体形 間 材料店へ

phicachicu-lul sale ka-ya hay-ss-ki-ita.

ピザチーズを 買いに 行く-なければならない過去-KI-ITA

「材料がもつばらうちの家族が食べるワンホールの量しかないことを知らないうちの息子がピザを食べると自慢をして、招待してもいいかと聞かれるので、だめ!と言えなくて、来いと言った。そして私はその後からかなり忙しかった。こねて発酵させる間店へピザチーズを買いに行かなければならなかったからである。」

(217) (218) では「ボディーは既存の 599 に比べて長さが短くて車高が低くなった」、「私はその後からかなり忙しかった」という先行文が存在し、その先行文に対する「原因・理由」として後行文が現れている。後行文としてはそれぞれ、「これは新型サスペンションとギアボックスのレイアウトによって車両後方をコンパクトにすることができた」、「こねて発酵させる間店へピザチーズを買いに行かなければならなかった」が提示され、「ki-ita」の付加によって「原因・理由」を表すこととなる。「ki」そのものは述語の語幹に結合する名詞化辞の 1 つであるが、なぜコピュラ「ita」が組み合わせされた「ki-ita」が「原因・理由」を表しているのであろうか。

第 3 章で詳述したように、韓国語の文末名詞化構文の「形式名詞+コピュラ」は一般的に連体形語尾が前接する形式が殆どである。しかし、「ttaymwun (때문)」 「maryen (마련)」のような形式名詞はコピュラと組み合わせされると、連体形語尾が前接するのではなく、名詞化辞の「ki」が前接する統語的特徴を持ち¹³¹、「ki ttaymwun-ita (기 때문이다, する/したからだ)」「ki maryen-ita (기 마련이다, するものだ/のだ)」のような、ひとまとまりの形式として用いられている。

本来名詞化辞「ki」は「非現実」を表象するため、過去のマーカーと共にしにくい統語的制約があるが、「ki」が「非現実」を表象しない例として、「原因・理由」を表す「ki ttaymwun-ita」と、「本質・傾向」を表す「ki maryen-ita」が挙げられる(李翊燮他 2004,

¹³¹ Kim-Renaud (2012 : 158-159) では、名詞化辞「ki」が前接するひとまとまりの形式として、「ki swipta (기 쉽다, ~しやすい)」「ki elyephta (기 어렵다, ~しにくい)」「ki cohta (기 좋다, ~するのはいい)」「ki ilsswuta (기 일쑤다, ~しがちだ)」「ki kwichanhta (기 귀찮다, ~するのは面倒だ)」「ki napputa (기 나쁘다, ~するのは悪い)」「ki silhta (기 싫다, ~するのは嫌だ)」「ki kantanhta (기 간단하다, ~するのは簡単だ)」などのような、状態述語との組み合わせが多いと述べている。

이익섭 2006)。そのうち、「ki ttaymwun (기 때문)」は、以下に示すように過去のマーカーと共起することができる。

(219) 날씨가 좋았기 때문에 모든 일이 순조로웠다.

Nalssi-ka coh-ass-ki ttaymwuney motun il-i swuncolowe-ss-ta.

天気-が よい-過去-名詞化辞 から すべて こと-が 順調だ-過去-終結語尾

「天気がよかったからすべてのことが順調であった。」

(220) 그것은 다 날씨가 좋았기 때문이다.

Kukes-un ta nalssi-ka coh-ass-ki ttaymwun-ita.

それは すべて 天気-が よい-過去-名詞化辞 から-だ

「それはすべて天気がよかったからだ。」

(이익섭 2006 : 350; 原文はハングル, 訳とグロスは筆者)

(219) は名詞化辞「ki」に形式名詞「ttaymwun」と助詞「ey (에)」が組み合わされた「ki ttaymwuney (기 때문에)」が文中に現れており、(220) は名詞化辞「ki」に「ttaymwun」とコピュラ「ita」が組み合わされた「ki ttaymwun-ita (기 때문이다)」が文末に現れている。これらは生起する位置は異なるものの、過去を示す「ass (았)」と共起していると共に「原因・理由」を表している点で共通している。また、これらは過去のマーカーと共起することによって当該の事柄に対して「原因・理由」を表すなど、「現実」として捉えているため、本来「非現実」を表象する「ki」に反する例外的な表現として位置づけられる。

(215)~(218) の「ki-ita」を「ki ttaymwun-ita」に復元すると、以下のようになる。

(215') (前略) manh-ki ttaymwun-ita (많기 때문이다, 多いからだ).

(216') (前略) sayngconha-l swu eps-ki ttaymwun-ita (생존할 수 없기 때문이다, 生存することができないからだ).

(217') (前略) ha-l swu iss-ess-ki ttaymwun-ita (할 수 있었기 때문이다, することができたからだ).

(218') (前略) sale ka-ya hay-ss-ki ttaymwun-ita (사러 가야 했기 때문이다, 買いに行かなければならなかったからだ).

以上の (215')~(218') のように、「原因・理由」を表す「ki-ita」はすでに定着した「原

因・理由」の「ki ttaymwun-ita」に復元できるのは確かであるが¹³²、必ずしも「ki ttaymwun-ita」が「ki-ita」に縮約できるわけではない。これは今後詳しい調査をする必要がある。

本研究では一語化した「ki-ita」に対し、1つの可能性として「ki ttaymwun-ita」という文末名詞化構文から、形式名詞「ttaymwun」が省略されたものと考えている。逆に言うと、「原因・理由」を表す一語化した「ki-ita」は「ki ttaymwun-ita」に復元することができるということである。

韓国語では、形態的縮約現象が顕著に見られる特徴があり、名詞レベルはもとより、文末形式においてもよく観察される。例えば「ta-ko ha-n-ta (다고 한다)」と「ta-ko-hay (다고 해)」は「伝聞」を表す形式であり、前者は「「ta-ko ha-n-ta (다고 한다)」>「ta ha-n-ta (다 한다)」>「ta-n-ta (단다)」」、後者は「「ta-ko-hay (다고 해)」>「tay (대)」」のように、引用表示の「ko (고)」が丸ごと省略され、さらに子音や母音が脱落していることが分かる¹³³。

本研究で着目している文末名詞化構文においても形態的縮約現象が生産的に見られることに注目したい。例えば、韓国語の代表的な文末名詞化構文の「kes-ita (것이다)」を「hayyo (해요) 体」に言い換えると、「説明」「推量」を表す「kes-ita」は「「kes-i-ey-yo (것이에요)」>「ke-yey-yo (거예요)」」、1人称に限って「kes-ita」が「意志」を表明する場合は、未来連体形のみ前接し、「「kes-i-ey-yo (것이에요)」>「key-yo (게요)」」のような形態で縮まって定着しているなど、子音や母音が省略されることは決して稀でない。

¹³² 一語化した「ki-ita」は「原因・理由」の「ki ttaymwun-ita」と、「本質・傾向」の「ki marye n-ita」に復元できる場合があるが、「原因・理由」を表す例が多かった。以下では「本質・傾向」を表す「ki-ita」を取り上げる。

(a) 매년 돌아오는 크리스마스지만 소중한 사람에게 보다 특별한 것을 선물하고 싶은 마음은 다 똑같을 것이다. 그래서 이색적인 선물들은 늘 주목받기이다.

Maynyen tolao-nun khulisumasu-ciman socwungha-n salam-eykey pota

毎年 やってくる-現在連体形 クリスマス-だが 大切だ-現在連体形 人-に より

thukpyelha-n kes-ul senmwulha-ko siph-un maum-un ta ttokkath-ul kes-ita.

特別だ-現在連体形 もの-を プレゼントする-希望-現在連体形 気持ち-は みんな 一緒だ-未来連体形 KES-ITA(推量)

kulayse isaykceki-n senmwul-tul-un nul cwumok pat-ki-ita.

それで 異色的だ-現在連体形 プレゼント-複数-は いつも 注目 浴びる-KI-ITA

「毎年やってくるクリスマスだけど、大切な人により特別なものをプレゼントしたい気持ちはみんな一緒であろうと思う。それで異色的なプレゼントはいつも注目を浴びるのだ。」

¹³³ Sohn (1999 : 400-407) が詳細である。

このように、韓国語の文末形式（文末名詞化構文）では、あるマーカーが丸ごと省略されたり、子音や母音が省略されたりするような形態的縮約現象はよく観察されている。そして、本節で取り上げている一語化した「ki-ita」は、元々「原因・理由」を表す「ki ttaymwun-ita」という文末名詞化構文から形式名詞「ttaymwun」の省略の可能性が窺える。以下、(215)～(218) を簡単にまとめると、図4のようになる。

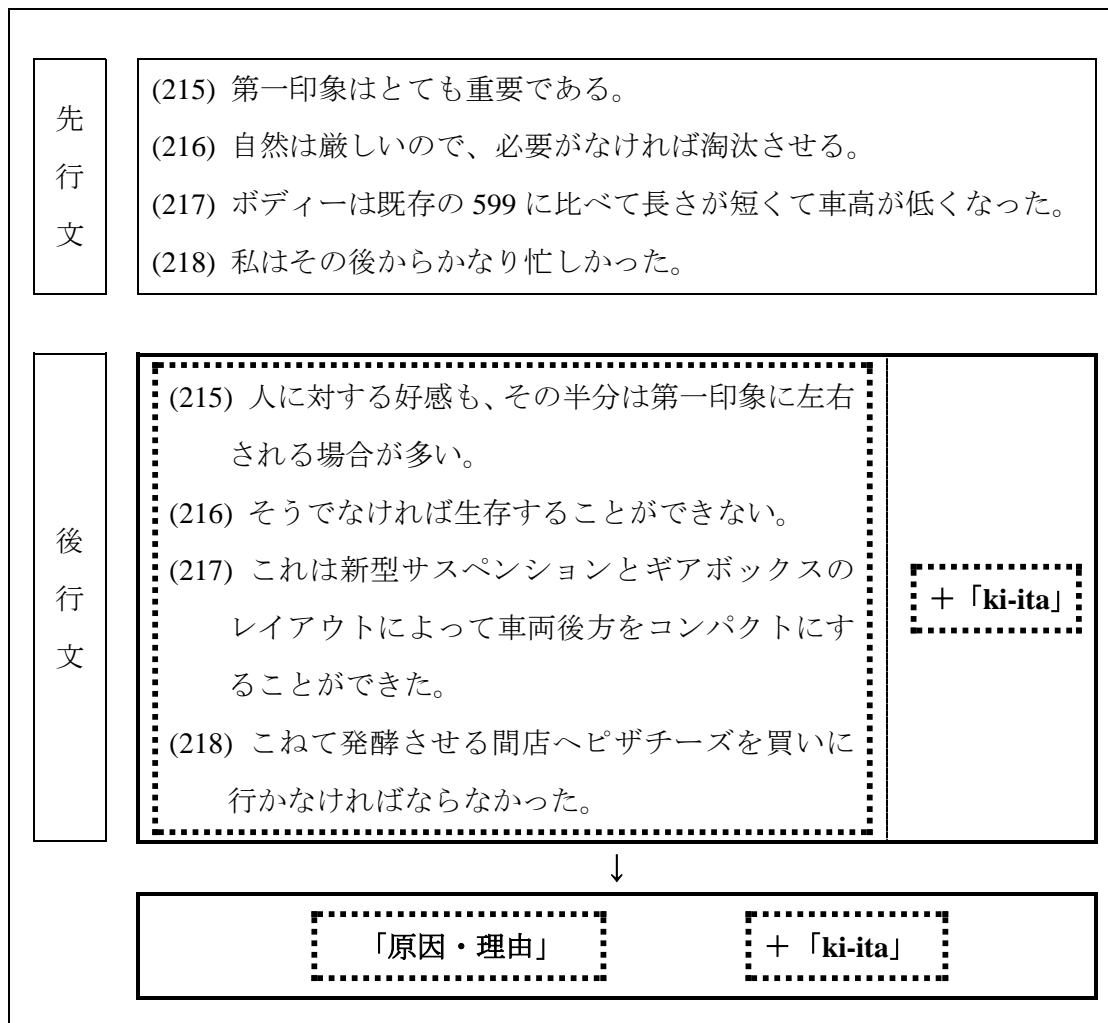


図4 一語化した「ki-ita」の機能

つまり、「ki-ita」に導かれる後行文は先行文に対する「原因・理由」を示し、それは本来「原因・理由」を表す「ki ttaymwun-ita」から「ttaymwun」が省略したものと考えられる。次節では分割可能な「ki-ita」と一語化した「ki-ita」の間に位置づけられる過去のマーカーと共に起するコピュラ無しの「ki」について述べる。

5.5.3 過去のマーカーと共起するコピュラ無しの「ki」の機能

前節で見てきたように、分割可能な「ki-ita」の「ki」は名詞化辞としての機能を果たしているのに対して、一語化した「ki-ita」は「ki」とコピュラ「ita」との組み合わせがひとまとまりの形式となっており、「原因・理由」を表していることが分かった。ここでは分割可能な「ki-ita」と一語化した「ki-ita」のいずれかに属しているとは言い難く、過去のマーカー「(a/e)ss, (아/어)ㅂㅅ」と共起するコピュラ無しの「ki」について述べる。

一般的に文中に生起する名詞化辞「ki」は「非現実」を表すという、「現実」を表す「um」とは意味上の対立を見せ、それは文末に単独で現れる以下の例においても同様のことが言える。(221)は「まだ実現されていない出来事」、(222)は「現在または過去の事実」という意味的区別が見られる(金・堀江 2006)としている。

(221) 영어 (를) 공부하ㄱl.

Yenge (?lul) konhpwuha-ki.

英語-を 勉強する-KI

「英語を勉強すること。」

(222) 영어를 { 공부한 / 공부했을 }.

Yenge-lul { konhpwuha-m / konhpwuhay-ss-um }.

英語-を 勉強する-UM / 勉強する-過去-UM

「英語を勉強する / した。」 (金・堀江 2006: 151)

このように、文末に生起するコピュラ無しの「ki」と「um」はメモ、日記などの簡条書きの記録に多用されており、近年はインターネットでの書き込み、広告文、チャットなどで頻繁に用いられるという。

また、金(2005)でもすでに指摘があったように、「現実」を示す名詞化辞「um」は「現在または過去の事実」だけでなく、「まだ実現されていない出来事」に対して用いられる傾向があるとしている。以下に例を示す。

(223) A: 내일 뭐 해?

Nayil mwe hay

明日 何 する

「明日何するの?」

B: 명동에서 친구 만날.

Myengdong-eyse chinkwu manna-m

明洞で 友達 会う-UM
「明洞で友達に会う (の)。」(金 2005: 43)

つまり、「um」は述語の語幹や、過去のマーカーと共起することができ、文末に生起すると「現在または過去の事実」および「まだ実現されていない出来事」を表すことができるのに対して、文末に生起する「ki」は「まだ実現されていない出来事」を表すということである。そのため、「ki」は過去のマーカーと共起することができないという制約がある(金・堀江 2006)とされている。

(224)* 영어를 공부했ㄴ.

Yenge-lul konhpwuha-ki.

英語-を 勉強する-KI

「英語を勉強した。」(金・堀江 2006)

しかしながら、近年インターネットのブログでは「um」と「ki」に対する「現実」対「非現実」の対立が希薄化する傾向が観察されている。

(225)¹³⁴ <慶州のブルー園リゾートの客室から見つめた外の風景を描写>

단풍은 절정인 모습이었어요. 울긋불긋 예뻐ㄴ.*

Tanphwung-un celceng-in mosupi-ess-eyo. wulkuspwulkus yeyppe-ss-ki.*

紅葉-は 絶頂-の 姿だ-過去-終結語尾 色とりどり きれいだ-過去-KI

「紅葉は絶頂の姿でした。色とりどりできれいだった。」

(226)¹³⁵ 요즘은 종류도 여러가지. 땅콩, 호두, 초코렛 맛 등등...용수염하면 보통 땅콩 넣은 게 제일 일반적인 듯, 맛은 초코가 제일 맛있었ㄴ~초코렛이 막 들어 있는 게 아니고, 초코칩 같은 작은 알갱이가 조금조금 들어 있었음.

Yocum-un conglyu-to yelekaci. ttangkhong, hotwu, chokholeys mas tungtung...

最近-は 種類-も いろいろ ピーナッツ 胡桃 チョコレート 味 などなど

yong swuyem hamyen pothong ttangkhong neh-un key ceyil

竜 髭 すれば 普通 ピーナッツ 入れる-過去連体形 ものが 一番

ilpanceki-n tus, mas-un chokho-ka ceyil masiss-ess-ki~ chokholeys-i

一般的だ-現在連体形 ような 味-は チョコが 一番 美味しい-過去-KI チョコレート-が

mak tule iss-nun key aniko, chokhochip kathun cak-un

¹³⁴ <http://blog.naver.com/wonjung0612/30178882638> (2014年5月16日検索)

¹³⁵ <http://blog.naver.com/marsdanny/50189361318> (2014年5月16日検索)

いっぱい 入っている-現在連体形 ことではなく チョコチップ ような 小さい-現在連体形

alkayngi-ka cokum cokum tule iss-ess-um.

粒-が 少し 少し 入っている-過去-名詞化辞

「最近の種類もいろいろ。ピーナッツ、胡桃、チョコレート、などなど...龍の髭（練り飴の一種）といえ、普通ピーナッツを入れたものが一番一般的のような。味はチョコが一番美味しかった~チョコレートがいっぱい入っているわけではなく、チョコチップのような小さな粒が少しずつ入っていた。」

(227)¹³⁶ 어제는 동생들이 매장에 놀러 왔어요. 어머어머...음주...우짜...저도 은근 2 캔이나 마셨지!!ㅋㅋㅋㅋ

Ecey-nun tongsayng-tul-i maycang-ey nolle wa-ss-eyo. emeeme...

昨日-は 後輩-たちが 売場-に 遊び-に 来る-過去-終結語尾 あらあら

umcwu...ucca... ce-to unkun 2khayn-ina masye-ss-ki!!ㅋㅋㅋㅋ

飲酒 どうしよう 私-も 慰勸 2缶-も 飲む-過去-KI

「昨日は後輩たちが売り場に遊びに来ました。あらあら...飲酒...どうしよう...私もひそかに2缶も飲んだ。」

(228)¹³⁷ 무결이는 반항아 st. 나는 내 옷 중에 젤 큰 옷 입었지!!!!

Mwukyeli-nun panhanga st. na-nun nay os cwung-ey ceyl khu-n

人名-は 反抗児 私-は 私の 服 中-に 一番 大きい-現在連体形

os ip-ess-ki!!!!

服 着る-過去-KI

「ムギョリは反抗児 st. 私は自分の服の中で一番大きい服を着た。」

名詞化辞「ki」の場合、例外はあるものの、本来「非現実」を表象するため、文末に生起するコピュラ無しの「ki」においても「まだ実現されていない出来事」を表すとされている（堀江・パルデシ 2009）。しかし、コピュラ無しの「ki」は以上の (225)~(228) のような場合、なぜ過去のマーカーと共起し、「現実」を表象しているのだろうか。

前節で述べたように、(219) (220) では名詞化辞「ki」が過去を表すマーカーと共起して「原因・理由」のような「現実」を表しているのと同様に、文末に生起する (225)~(228) の「ki」の場合も、過去を表すマーカーと共起して「過去に起こった出来事」に対して「現実」として捉えていることが分かる。通常過去のマーカーが共起する「ki」は「ki ttaymwuney (기 때문에)」あるいは「ki ttaymwun-ita (기 때문이다)」のような、「原因・理由」を表す場合に限られている（이익섭 2006）。しかし、文末で過去のマー

¹³⁶ <http://blog.naver.com/botton3124/10184099129> (2014年5月16日検索)

¹³⁷ <http://skmh0529.blog.me/20205376192> (2014年5月16日検索)

カーと共起するコピュラ無しの「ki」は「原因・理由」を表しているわけではなく、ただ「現実」をコード化するなど、過去のマーカーと「ki」の組み合わせが文中から文末までその共起可能な位置が拡張したと考えられる。

過去のマーカーと共起して単独で現れるコピュラ無しの「ki」は、表面的には分割可能な「ki-ita」からコピュラが脱落した名詞述語文の一種とも解釈できる。しかし、前述したように、分割可能な「ki-ita」は「A は/が B だ」のような統語的構造をとっており、主体 A が文末の「ki」に導かれる名詞句とイコールまたはその一部として捉える「A ≡ B」の構造をなしているのに対して、過去のマーカーと共起するコピュラ無しの「ki」は分割可能な「ki-ita」のような統語的構造を持っていない。過去のマーカーと共起するコピュラ無しの「ki」は、ただ当該の事柄を「現実」としてコード化しており、名詞化辞「ki」で締めくくることによって、前節で取り上げたコピュラ無しの「sim」と同様に形態・統語上文末名詞化構文として働いているだけである。

韓国語の名詞化辞として「15、16 世紀では「um」が幅広く使われたのに対して、「ki」は一部の限られた用法としてしか使われなかった。また、17 世紀では「ki」の使用が拡大して「um」と「ki」が混在して用いられていたが、18 世紀になってからは「um」の使用頻度が中世の半分にも及ばない反面、「ki」が現在のように、頻繁に用いられたという。その傾向が現代韓国語の名詞化辞では、「um」は衰退し続けている一方、「ki」とともに「kes」が生産的に使われつつあり、「um」が文語体、「ki」と「kes」は口語体としてよく使われている (이익섭・임홍빈 1994)」とある。

つまり、既存の研究では名詞化辞「um」と「ki」は「現実」対「非現実」といった捉え方をしており、両者における対立性に注目してきたが、本研究では文末に出現する「um」と「ki」を通して、「現実」対「非現実」のような、意味的区別の希薄化もしくは非対立性が示唆された。これは現代韓国語では「um」は使われなくなりつつある一方、「ki」は生産的に使われつつあるという報告と無関係では無かろう。

5.6 まとめ

本章では韓国語の名詞化辞「kes」「um」「ki」から文末名詞化構文「kes-ita」「um-ita」「ki-ita」への形態・機能上の拡張を主張し、考察を行った。

まず、「kes-ita」の場合、既に定着した形式であるため、前接する連体形語尾の時制に着目し、それらの文法化の度合いについて分析した。その結果、未来連体形語尾が前

接する「I kes-ita」のほうが、過去・現在連体形語尾が前接する「N kes-ita」に比べ、より文法化が進んでいることが分かった。

次に、「um-ita」に関しては、尊敬のマーカ―「si」が共起する「sim-ita」の分析を通して、無標の「終止形」で出現することができるにも関わらず、文末名詞化構文として出現する動機づけと、尊敬のマーカ―「si」の機能拡張について分析した。その結果、無標の「終止形」を「um-ita」のような文末名詞化構文に置き換えることによって、書き手自身の感情や評価、考えなどを直接読み手に訴えることを避ける効果が生まれることが分かった。逆に読み手にとっては、当該の事柄に対する押し付けがましさが緩和されることになり、事柄に対するその解釈は読み手に委ねられる。

また、韓国語の「sim-ita」は文末名詞化構文でありながら、尊敬のマーカ―を含んでいることから、その形式に最も類似していると見られる日本語の「お～だ」文と対比を行った。その結果、「sim-ita」は「尊敬」や「皮肉」「親愛」など、「si」の語彙的意味を残したまま、名詞述語文としての役割を果たしていることが分かった。これに対して、「お～だ」文は尊敬表現と名詞述語文との見分けが困難なこともあり、「尊敬」の意味を喪失した「お～だ」文は「状況叙述」が主な機能であることが分かった。

最後に、「ki-ita」に関しては、「ki」と「ita」が分割可能な場合と、一語化した場合とがあり、前者は「ki」が名詞の振る舞いをしているのに対し、後者はひとまとまりの形式として「原因・理由」を表すことが分かった。さらにその間に位置づけられるコピュラ無しの「ki」は、過去のマーカ―と共起して、「現実」として捉えられる出来事を表すことが確認できた。

第6章 韓国語における連体終止形の機能：日本語の連体終止形との対比を通じて

6.1 はじめに

本章では「文末名詞化構文」に注目した第4章、第5章とは異なり、従属節の主節化現象の1つとして取り上げられる「連体終止形」に関して考察を行う。一見「文末名詞化構文」と「連体終止形」は無関係であるかのように思われる。しかし、前述したように本研究は韓国語の名詞化辞および形式名詞の「kes (것)」からなる文末形式に着目しており、その1つに「kes-kathun (것 같은)」がある。韓国語の「kes-kathun」は名詞化辞及び形式名詞として用いられる「kes」と、日本語の「同じだ」に対応する「kaththa (같다)」が結合した証拠性 (evidentiality) を表す「kes-kaththa (것 같다)」の現在連体形の形態をしている。

近年インターネットのブログ等で、今までは非規範的なものと見なされてきた連体終止形の「kes-kathun」が多く見られており、「一般述語」の連体終止形においても同様のことが言える。このことから、本章では韓国語において、連体終止形が担っている機能や特徴を解明すると共に、それが韓国語の文末形式として位置づけられる可能性を追求する。以下具体的な連体終止形の研究対象について示す。

6.2 連体終止形の枠組みからみた本研究の研究対象

「連体終止形」とは、本来「連体修飾節」において、直後に後続名詞を伴って生起するはずの連体形が、後続名詞を伴わず文を終結させる形式と定義することができる。まず、これを図式化すると以下のようなになる。

【…… 述語 + 連体形語尾】 + 後続名詞

図5 文中（従属節）に生起する連体修飾節

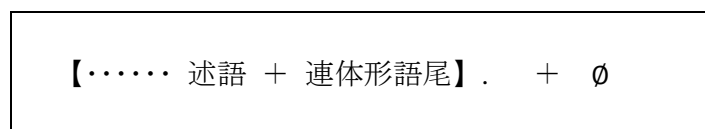


図 6 文末（主節）に生起する連体修飾節＝連体終止形

本研究では、図 6 のように連体形語尾で文を終結する韓国語の「kes-kathun」と「一般述語」の「連体終止形」に焦点を当てる。「kes-kathun」と「一般述語」の連体終止形は、メディアでよく見受けられるという共通点はあるものの、前者はインターネットのブログ、後者はテレビのバラエティ番組のテロップから用例収集を行った¹³⁸。ただし、「一般述語」の連体終止形においては、連体形語尾の時制の偏りが見られており、それを補足するマーカーとして韓国語の「kes-kathun」が用いられることを主張する（詳細は 6.4.3 節の表 23 を参照）。

したがって、韓国語の連体終止形の「kes-kathun」と併せて、「一般述語」の連体終止形の分析を通して、韓国語における連体終止形が体现している機能について解明する。さらに、韓国語の「kes-kathun」は意味・形態的に日本語の「みたいな」に対応することから、これらの対照研究を通して、両者の類似点や相違点を明らかにする。以下、本研究の研究対象を示すと表 17 のようになる。

表 17 本研究の研究対象

韓国語	日本語
「kes-kathun」	「みたいな」
「一般述語」の「連体形」	＊

日本語の場合、形容動詞とコピュラのみ終止形とは連体形の形態が異なるため、「一般述語」の連体終止形は形態上明確に区別がつかない。そのため、本研究では韓国語「一般述語」の連体終止形とそれに対応する日本語との対照は行わないこととする。次節では「kes-kathun」と「一般述語」の連体終止形の順で考察を行う。

¹³⁸「一般述語」の連体終止形において、テレビのバラエティ番組のテロップから用例を収集した理由は量的調査を行うためであった。

6.3 インターネットのブログに現れる「kes-kathun」に関する分析

6.3.1 類似性から引用への機能拡張

類似性（直喩）を表す語から引用マーカーへの機能拡張は英語の「like」、フィンランド語の「niinku」、スウェーデン語の「liksom」などにおいて観察されることが指摘されている（Heine and Kuteva 2002）。また、日本語の「みたいな」においても同様の機能拡張が報告されている（Suzuki 1995, Fujii 2006, 米倉 2013）。

例えば英語の「like」の場合、(229) は類似性を表しているのに対し、(230) は引用マーカーとして用いられている。

(229) My love is like a rose.

(230) a. And I'm like: “Gimme a break, will you!”

b. And I'm like OK, how am I gonna get her “chief complaint” out of her?

(Heine and Kuteva 2002 : 274; 下線は筆者)

本節で注目している韓国語の「kes-kathun」は、上述した「like」「niinku」「liksom」と同様に類似性を表しつつ、連体終止形である日本語の「みたいな」と意味・形態的に類似している。したがって、韓国語の「kes-kathun」は類似性を表す語から引用マーカーへ拡張した日本語の「みたいな」と同様の機能拡張が予想される、もしくはそれに準ずる機能拡張の可能性が窺える。

次節では引用マーカーへの機能拡張を潜在的に呈している「kes-kathun」に着目し、どのような機能を獲得しているのかについて分析する。

6.3.2 韓国語の「kes-kathun」の機能

韓国語の連体終止形の 1 つである「kes-kathun」は近年インターネットを中心としてよく見られる形式であり、具体的には以下の (231)～(234) のような例が観察される。

(231)=(12) 7 번방의 선물~조조할인으로 보고 오니 완전 공짜영화 본 것 같은!!!^^

Chilpenpang-uy senmwul~cocohalin-ulo poko oni wancen kongcca

7番部屋の 贈り物 早朝割引で 見て 来たら 完全 ただ

yenghwa po-n kes-kathun!!!^^

映画 見る-過去連体形 KES-KATHUN

「7番部屋の贈り物～早朝割引で見て来たら完全ただの映画を見たような。」

(232)¹³⁹ 황정민만 나왔다하면 다 재밌는 것 같은..ㄷ

Hwangcengmin-man nawa-ss-ta-hamyeon ta caymiss-nun kes-kathun..ㄷ

人名-だけ 出てくる-過去-終結語尾-すると 全部 面白い-現在連体形 KES-KATHUN

「ファンジョンミンさえ出てきさえすれば全部面白いような。」

(233)¹⁴⁰ 패스트푸드의 진실-토할 것 같은!

Phaysuthuphwutu-uy cinsil-thoha-l kes-kathun!

ファーストフード-の 真実 吐く-未来連体形 KES-KATHUN

「ファーストフードの真実-吐きそうな。」

(234)¹⁴¹ 진짜 평생 요것만 쓸 것 같은ㄷㄷ

Cincca phyengsayng yokes-man ssu-l kes-kathunㄷㄷ

本当に 一生 こればかり 使う-未来連体形 KES-KATHUN

「本当に一生こればかり使いそうな。」

(231)～(234) では書き手自身の感想、評価や考えを示しており、文末に生起する連体形の「kes-kathun」の場合、過去・現在連体形（例文 (231) (232)）、未来連体形（例文 (233) (234)）といった、連体形の時制に関係なく、いずれも後接することが可能である。

まず、(231) では映画館で早朝割引で「7 番部屋の贈り物」という映画を見たが、普段より安く見られたため、なんとなくただで見たかのような書き手の感想、評価や経験を「7 番部屋の贈り物～早朝割引で見て来たら完全ただの映画を見た」と表している。また、(232) ではファンジョンミンの主役の映画を見た書き手は「ファンジョンミンさえ出てきさえすれば全部面白い」という書き手の感想、評価や経験を表している。(231) (232) の書き手は、すでに実現している当該の事柄に対して書いているにも関わらず「kes-kathun」という連体形で文を締めくくることによって、書き手の感想、評価や経験を声高に語ることを避けるような「断定の回避」的な機能を果たしているものと考えられる。

一方、(233) はアメリカの心臓協会でファーストフードに関する報告であり、思ったより添加物や化学物質が多く含まれており、嫌悪感を感じさせる異物が入っているということから、書き手は「ファーストフードの真実-吐く」といった書き込みをしている。(234) は UV ケア、化粧下地、スキンケア、ファンデーションなどといったマルチ機能を持っている新発売のエアクッションについて、実際購入し使ってみたら、好評通りク

¹³⁹ <http://blog.naver.com> (2014年7月3日検索)

¹⁴⁰ http://blog.naver.com/dr_heart/150173290994 (2014年6月14日検索)

¹⁴¹ <http://blog.naver.com/oab06wr/70170341276> (2013年8月15日検索)

オリティが高くてよいという感想や評価から「本当に一生こればかり使う」というコメントをしている。(233)(234)の書き手はまだ実現していない事柄に対して「類似性・近似性」を表す連体形の「kes-kathun」を付加することによって非現実の事柄が将来ありえる出来事であることを示していると考えられる。

(231)～(234)の「連体終止形」の「kes-kathun」は以下の(231')～(234')に示されるように、言い切りの終止形「ta」を用いた「kes-kathta」に置き換えてもいいはずである。

(231') ……(前略) po-n kes-kathta (본 것 같다, 見たようだ).

(232') ……(前略) caymiss-nun kes-kathta (재밌는 것 같다, 面白いようだ).

(233') ……(前略) thoha-l kes-kathta (토할 것 같다, 吐きそうだ).

(234') ……(前略) ssu-l kes-kathta (쓸 것 같다, 使いそうだ).

このように連体終止形の「kes-kathun」が出現する背後にはどのような語用論的動機づけがあり、それは終止形の「kes-kathta」とどのように異なるのであろうか。ここでは過去・現在連体形のように「現実」をコード化する場合と、未来連体形のように「非現実」をコード化する場合とに2分類して、「kes-kathun」で文を完結する動機づけについて考えてみたい。

まず、過去・現在連体形が前接する「kes-kathun」は書き手が当該の事柄に対して「現実」として捉えているため、断定を示す無標の終止形で表すことができるはずである。しかし、類似性の意味を表す終止形の「kes-kathta」を、あえて連体形の「kes-kathun」を用いて文を終結することによって、断定を避け、言葉を濁すような、いわゆる「ぼかし表現」¹⁴²として位置づけることができる。

これと類似した現象として日本語の場合、陣内(2006)では以下のようなぼかし表現を挙げている。

(235) この辺りで終わりにしましょう。

(236) 私などもそのように考えております。

(237) 部長の方からご説明をお願いします。(陣内 2006: 115; 下線は原文)

「辺り」「など」「の方」のようなぼかし表現は、敬意や丁寧さと結びつき、より改ま

¹⁴² 「ぼかし表現」と類似した用語として「ヘッジ表現」「婉曲表現」などがあるが、本研究では「ぼかし表現」と総称する。

った文体を作り上げるものとして、相手に近づかない配慮をした表現であると述べている（陣内 2006）¹⁴³。

過去・現在連体形が前接する「kes-kathun」は「現実」と捉えられる事柄と共起することで、書き手は当該の事柄に対して直接的・断定的な捉え方をするのではなく、聞き手に押し付けがましさを軽減するための遠回しな言い方となり、文を和らげる効果がある。この機能は、ストラテジー1「習慣的な間接性に訴える」、ストラテジー2「質問・曖昧化する」という、「ネガティブ・ポライトネス」の機能と類似している。

また、未来連体形が前接する「kes-kathun」は書き手が当該の事柄に対して「非現実」として捉えており、類似性を示しながら現在連体形の形態をしている「kes-kathun」を付随することによって、当該の非現実の事柄をあたかも将来実現される事柄であるかのように捉えることができる。そのため、未来連体形と共起する「kes-kathun」は、まだ行われていない事柄に対して理解や共感を呼び起こすことが可能であり、過去・現在連体形と結合する「kes-kathun」とは異なって、ストラテジー1「相手に気づき・注意を向ける」、ストラテジー7「共通基盤を想定・喚起・主張する」という、「ポジティブ・ポライトネス」の役割を果たすことができる。

つまり、以下の表 18 にまとめられるように、韓国語の「kes-kathun」は前接する連体形の時制によって機能の分化が見られる。

表 18 韓国語の「kes-kathun」における機能の分化

分類	過去・現在連体形	未来連体形
機能	「ネガティブ・ポライトネス」	「ポジティブ・ポライトネス」

次節では、韓国語の「kes-kathun」に対応する日本語の「みたいな」との対比を通じて、両形式の類似点や相違点を明らかにする。

¹⁴³ 陣内（2006）では「ばかし表現」とは異なった「新ばかし表現」として「「親とか、勉強しろとかでうるさい。」「次の授業に出るっぽい。」「消しゴムとか、借りたりしていい?」「あの子、けっこうまじめ系だよ。」「僕的には大丈夫だけど。」」などを取り上げている。これらは逆に改まりを減じる効果があり、相手との親和性を高めることによって相手に近づく配慮として出現しているとされている（陣内 2006：115-117；下線は原文）。

6.3.3 韓国語の「kes-kathun」と日本語の「みたいな」との対比

ここでは、文末に生起する韓国語の「kes-kathun」と表面的によく似た形式として、日本語の「みたいな」について検討する。その前に、連体形の「kes-kathun」「みたいな」と派生関係にある終止形の「kes-kathhta」「みたいだ」の意味を確認しておきたい。

以下の (238) (240) に示すように終止形の「kes-kathhta」「みたいだ」は「推量」「婉曲」の文法的意味を有しており、(239) (241) の文中の「kes-kathun」「みたいな」においても、後接する「nukkim (느낌)」 「感じ」といった名詞に伴われて用いられ、やはり「推量」「婉曲」の文法的意味を表す。

(238) 그는 사랑에 빠진 것 같다.

Ku-nun salang-ey ppaci-n kes-kathhta.

彼は 恋に 落ちる-過去連体形 KES-KATHHTA

「彼は恋に落ちたみたいだ。」

(239) 신이 나를 버린 것 같은 느낌이 든다.

Sin-i na-lul peli-n kes-kath-un nukkim-i tu-n-ta.

神-が 私-を 捨てる-過去連体形 KES-KATHHTA-現在連体形 感じ-が する-現在-終結語尾

「神様が私のことを捨てたみたいな感じがする。」

(240) 彼は恋に落ちたみたいだ。

(241) 神様が私のことを捨てたみたいな感じがする。

このように、両言語における文末の終止形や、文中の連体形は「類似性・比況」を表している点で共通しているが、(239) (241) のような連体形が単独で文末に現れる、いわゆる連体終止形に関しては顕著な違いが見られる。以下では日本のラジオ番組から得られた発話を取り上げる。

(242)¹⁴⁴ <DJ (坂本) の受験の時のエピソードを振り返ながらの発言>

……(前略) ウナギの骨がのどに引っかかって、ぜんぜんとれなくて、夜中の3時に病院に行く騒ぎ。「もう明日テストなのに」 みたいな。ウナギには本当気を付けてください。

(243)¹⁴⁵ <高校時代のクラスの中ではどんな存在、ポジションだったんですかという DJ の質問に対する出演者 (山本) の発言>

¹⁴⁴ ラジオ番組「坂本真綾 from everywhere」から抽出した用例である。

¹⁴⁵ ラジオ番組「People 編集長！お時間です」から抽出した用例である。

……(前略) 女子からはあの、全然もてなかったんですね。あの、どっちかっていうと、そのテンションが上がったところを見た時の女子の一言は「山本怖い」 みたいな。

Suzuki (1995)、Fujii (2006) などの研究から明らかなように、文末に生起する日本語の「みたいな」は、(242) (243) のように、主として話し言葉において、自分(話し手、書き手)あるいは他者の発言や考えを冗談やからかいといった評価を交えた引用マーカ一へと機能が拡張している。

一方、韓国語の「kes-kathun」は話し言葉というより、インターネットのブログを中心とした書き言葉としての使用が中心であり、前接する連体形の時制によってその機能が分化している。まず、「kes-kathun」は、現実の確定された事柄に後接することによって、書き手による感想、評価や経験などをぼかすといった、断定を保留する機能を果たしている。また、「kes-kathun」がこれから行われる可能性のある非現実の事柄に後接することによって、書き手はその事柄に関して聞き手に共感や共有などを促し、相手との距離を縮める手段として用いられている。

しかし、本来「類似性」を表す語から引用マーカ一へと機能的に大きく変質している日本語の「みたいな」とは異なって、なぜ、韓国語の「kes-kathun」は引用マーカ一への文法化のプロセスが見られないのであろうか。その理由として大きく2つが挙げられる。まず、韓国語の「kes-kathun」は、日本語の「みたいな」のように連体終止形として用いられているものの、「類似性」という本来持っている語彙的意味をそのまま維持しているということである。さらに、近年韓国のネット上では、日本語の「という」に相当する韓国語の「tanun (다는)」が、書き手自身の主観的な心的態度(驚き、意外性、照れくささ、苛立ち)や聞き手(読み手)を意識した間主観的態度を示す(金 2014)など、引用マーカ一として多岐にわたり幅広く用いられている(3.3.2 節を参照)ということである。

つまり、類似性(直喩)を表す語から引用マーカ一への機能拡張は、日本語の「みたいな」では顕著に観察されるのに対し、韓国語の「kes-kathun」においては、その機能を獲得していないことが分かった。次節では、韓国語の「kes-kathun」の位置づけを探る。

6.3.4 韓国語における「kes-kathun」の位置づけ

前節で韓国語の「kes-kathun」は他言語で類似性を表す語とは異なって、引用マーク一への機能拡張が見られないが、本来持っている語彙的意味を保持しながら、前接する連体形語尾の時制によって機能を異にすることが確認できた。本節ではこのような「kes-kathun」の機能や特徴を参考にしながら、韓国語における「kes-kathun」の位置づけについて述べる。

韓国語の「kes-kathun」の「kes」は名詞化辞として用いられているため、「kes-kathun」には連体形の前接が必須となる。以下は 6.3.2 節の (231)～(234) の文末に生起する「kes-kathun」を省略し、結果的に「kes-kathun」に前接していた「述語の語幹+連体形語尾」のみを提示する。

(231'')(前略) po-n (본, 見た).

(232'')(前略) caymiss-nun (재밌는, 面白い).

(233'')*(前略) thoha-l (토할, 吐く).

(234'')*(前略) ssu-l (쓸, 使う).

(231'') (232'') のように過去・現在連体形で文を終結している場合は、未来連体形で文を終結している (233'') (234'') に比べ、より自然に感じられる。これは 6.4.3 節で詳細に述べるが、連体終止形の場合、未来連体形に比べ、圧倒的に過去・現在連体形に偏在していることから検証される。

インターネットのブログやテレビの番組のテロップなどでよく用いられる連体終止形は、すでに行われた事柄、もしくは現在行われている事柄に対して多用されている一方、まだ行われていない事柄に対しては現れにくい。しかし、まだ実現されていない事柄に対して表したい場合は、以下の (233''') (234''') のように「類似性・比況」を表す「kes-kathta」の現在連体形の「kes-kathun」を付随することによってはじめて、安定した連体終止形となり得る。

(233''')(前略) thoha-l kes-kathun (토할 것 같은, 吐きそうな).

(234''')(前略) ssu-l kes-kathun (쓸 것 같은, 使いそうな).

このように、文末においては未来連体形の「kes-kathul (것 같을)」ではなく、現在

連体形の「kes-kathun」が生起するということは、偶然ではなく、「現実」と「非現実」とに厳格に区別されている連体形の特徴に基づいた必然的な表れであると思われる。

また、文末の「kes-kathun」はインターネット上でよく用いられるため、量的調査は不可能であるが、相対的に過去・現在連体形に比べて未来連体形に前接する場合はより多いようである。以下に「kes-kathun」に未来連体形が前接する例を示す。

(244)¹⁴⁶ 집에 감기 환자가 둘! 곧 셋이 될 것 같은...ㅠ..ㅠ

Cip-ey kamki hwanca-ka twul! kot seys-i toy-l kes-kathun...ㅠ..ㅠ

家-に 風邪 患者-が 2人 まもなく 3人-になる-未来連体形 KES-KATHUN

「家に風邪の患者が2人。まもなく3人になりそうな。」

(245)¹⁴⁷ 조만간 굴러다닐 것 같은..ㅋㅋㅋㅋ

Comankan kwulletani-l kes-kathun..ㅋㅋㅋㅋ

そのうち 転がる-未来連体形 KES-KATHUN

「そのうち転がりそうな。」

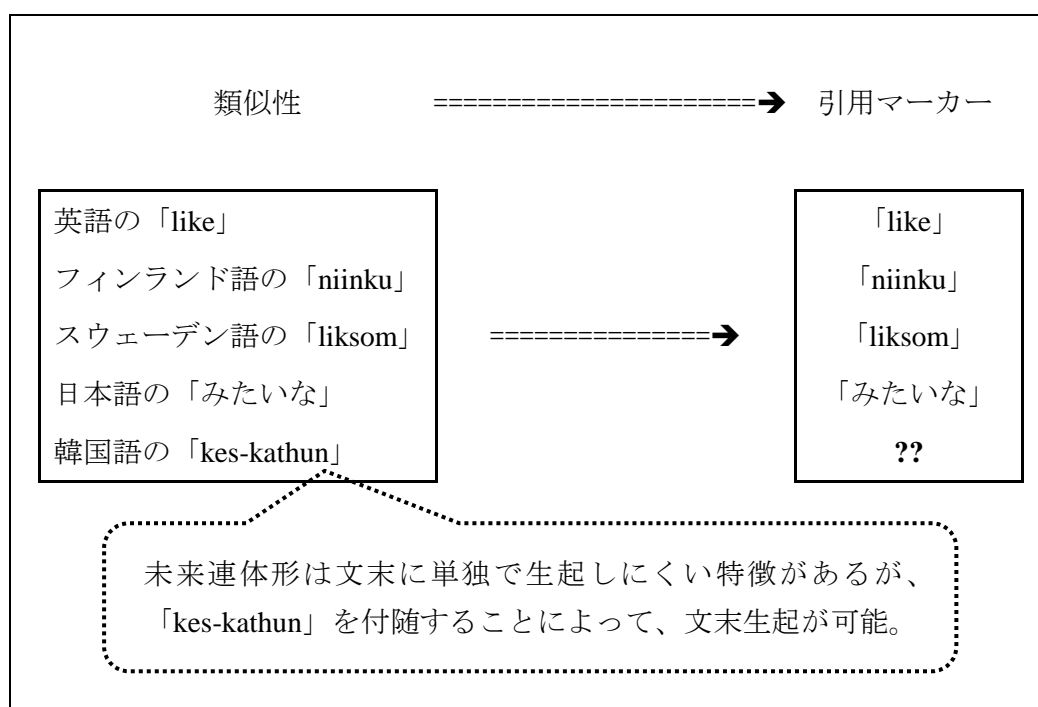
(244) では、現在書き手自身の主人と息子が風邪で体調がよくないが、書き手自身も風邪気味であるため、まだ実現した事柄とは言えないが、自分を含めて「風邪の患者が3人になる」といった可能性を表している。また、(245) では書き手自身が最近食べまくっており、特に今日の食べっぷりを考えると、近いうちに「転がりそうに太ってしまうかもしれない」という書き手自身に対する感想、評価や考えを示しているが、まだ実現されているわけではない。

つまり、未来連体形と「kes-kathun」との組み合わせは、まだ実現されていない書き手自身の感想、評価や考えなどのような、非現実として捉えられている事柄を、類似性を表す韓国語の「kes-kathun」を付随することによって、あたかも将来あり得る事柄であるかのように装うことができる。これは、文末に単独で出現しにくい韓国語の未来連体形が生起可能となる1つの手段となり得る。

以下、6.3.1 節から 6.3.3 節を参照しつつ、類似性を表す語から引用マーカーへの機能拡張を示すと図7のようになる。

¹⁴⁶ <http://blog.naver.com/darkred30/60210716042> (2014年6月14日検索)

¹⁴⁷ http://fish_macaron.blog.me/90183012193 (2014年6月14日検索)



このように、英語、フィンランド語、スウェーデン語、日本語、韓国語において、類似性を表す語が存在する。そのうち、英語の「like」、フィンランド語の「niinku」、スウェーデン語の「liksom」、日本語の「みたいな」は引用マーカーへの機能拡張が見られた。これに対し、韓国語の「kes-kathun」は「類似性」という語彙的意味を保持しつつ、文末に連体終止形として出現するだけで、引用マーカーへの機能拡張は見られなかったが、未来連体形が文末に生起する際には、重要な役割を果たしていることが分かった。

次節では連体終止形の「kes-kathun」の周辺的な形式として「一般述語」に見られる連体終止形について述べる。

6.4 テレビ番組のテロップに現れる「一般述語」の連体終止形に関する分析

前節では連体終止形の「kes-kathun」に関して、前接する連体形語尾の時制による機能の分化や、日本語の「みたいな」との対比を通して両形式の類似点や相違点を明らかにした。本節では、日本のバラエティ番組のテロップそのものに注目し、その機能的分類を示した塩田（2005）の研究を取り上げ、韓国のバラエティ番組のテロップに用いられた「連体終止形」に焦点を当てた本研究への応用を試みる。

6.4.1 塩田（2005）によるテロップの種類と特徴

塩田（2005）は、日本のバラエティ番組のテロップの機能的分類を行い、「情報明示型」「強調型」「解釈型」という3つのタイプに分けた。以下の表19は塩田によるテロップの種類とタイプごとの特徴を示したものである。

表19 塩田（2005）によるテロップの種類と特徴¹⁴⁸

テロップの種類			表示内容
情報 明示型	内容 明示	(ア) 番組内容の明示と予告 (イ) 発話内容の明示	発話 新(旧)情報・ 文脈情報
	情報 整理	(ウ) 新情報・旧情報の提示 (エ) 発話の修正・省略	
強調型		(オ) 発話の部分的な反復 (カ) 発話全体の反復	出演者の発話
解釈型		(キ) 視聴者代弁 (ク) 出演者代弁	媒介者の解釈

塩田（2005）は、テロップの3種類の特徴をそれぞれ以下のように述べている。まず「情報明示型」は、視聴者が番組内容を理解するうえで必要なコンテキストの情報を与える利点があるが、視聴者の多様性に応じた使用ができず、場合によっては解釈の妨害を引き起こす恐れがある（p.40, 46）としている。次に「強調型」は、ナレーターを含む出演者の発話やその一部を反復して表示し、どの情報を優先的に利用して解釈すればよいのかという手がかりを与える利点がある反面、単なる情報の重複となり冗長になるという問題点がある（p.38, 40, 46）と述べている。最後に「解釈型」は、以上の「情報明示型」「強調型」とは異なって、テロップの情報源が「発話」ではなく「非言語」によるものである。これは番組内容の解釈を明示することで、視聴者による番組内容に対する理解を容易にするが、番組制作者が望む解釈と視聴者による実際の解釈の間にずれが生じた場合、押しつけがましくなる可能性があるという（p.40, 46）。

さらに、この3つのタイプのうち、「情報明示型」と「強調型」の区別が容易ではな

¹⁴⁸ 表19は塩田（2005）の図表①②⑧（p.36, 47）を筆者が整理したものである。

いためここで補足しておく。「情報明示型」の「発話内容の明示」「発話の修正・省略」とは、発話が不明瞭になった場合「発話が理解できなかった視聴者に発話内容を明示する（塩田 2003：73）」という機能を伴っているものに限る。言い換えると、「強調型」は特に「情報明示型」の「発話の修正・省略」と非常に近い関係にあるが、「元となった発話は「発話の修正・省略」が必要なほど不明瞭ではなく、反復によってもたされる様々な効果を狙ったもの（塩田 2003：75）」であるとしている。

以上、テレビ番組のテロップの種類と、それらの特徴について簡単に紹介した。本研究では、塩田によるテロップの種類や特徴を参考しつつ、韓国のバラエティ番組のテロップに生起する連体終止形に注目し、それらの機能や特徴を明確にする。次節では具体的な調査方法について述べる。

6.4.2 調査方法

本研究は2013年3月21日と8月22日に放送されたKBS（韓国の放送局名）の「ハッピートゥゲザー（해피투게더, Happy Together）」、2013年3月7日と4月4日に放送されたMBC（同上）の「膝打ち導師（무릎팍도사, The Knee-Drop Guru）」という番組のテロップに現れた連体終止形に注目しそのデータを集めた。これらの番組はバラエティ番組であるが、司会者が出演者に質問をし、身の上話、自分の考え、感想、経験談などを答えてもらうといった会話のやりとりがある点で自然発話に準ずるものと考えられる。

これまでの韓国語の連体終止形の先行研究（堀江・金 2011, 金 2014）は、主としてブログに代表されるインターネットにおける用例を分析対象としていた。これに対し、本研究では番組中の実際の会話に付されており、ブログよりも一層自然会話に近い性質を有するテロップで用いられた連体終止形の用例を分析する。このことにより、ブログでの用例などを分析対象としていたこれまでの研究に比べ、連体終止形の語用論的機能や特徴がより精緻に解明されると考える。

以下の表 20 はバラエティ番組の詳細な情報と、番組ごとにテロップに出現した連体終止形の生起頻度をまとめたものである。

表 20 番組の詳細及び連体終止形の生起頻度

番組の名称	放送日	放送時間	生起頻度
ハッピー トゥゲザー	①2013年3月21日	78分42秒	20
	②2013年8月22日	80分29秒	17
膝打ち導師	①2013年3月7日	70分2秒	41
	②2013年4月4日	71分25秒	34
合計		300分38秒	112

本研究では、表 20 に示した 112 例の連体終止形を研究対象とし、転記作業を行う。また、本文中に用例を示す際にはそれぞれ「ハッピー①」「ハッピー②」「膝①」「膝②」のように表記する。そして、韓国語の文末に生起する連体終止形を以下の手順により分析する。

- (i) 発話の文末の言語形式による連体終止形の出現様相
- (ii) 連体終止形の出現様相による生起頻度
- (iii) 連体形の時制別生起頻度

まず、(i) に関しては連体終止形がいったいどのようなメカニズムによって現れるのか、出演者の発話における文末の言語形式に注目し、そこからテロップに表示される連体終止形の出現様相の実態を調べる。次に、(ii) については、(i) を踏まえてそれぞれの出現様相に基づいてその生起頻度を調査する。また、(iii) に関しては、韓国語の連体形は日本語に比べて、複雑な体系を有することから、時制別の連体形の使用実態を生起頻度によって調べる。

以上、バラエティ番組から収集したデータの詳細と共に、文末に生起する連体終止形の調査方法について述べた。次節では調査結果について述べる。

6.4.3 調査結果

本節では前節で提示した手順に従って行った調査結果を表21～表23に示す。まず、表 21は前節の表20に示したテロップ内の112例の連体終止形の出現様相を示したものである。

表21 発話の文末の言語形式による連体終止形の出現様相¹⁴⁹

出現様相	発話の文末の言語形式
(Ⅰ) 連体形以外の発話	終止形, 接続形式, 引用形式など
(Ⅱ) 非発話	非言語行動
(Ⅲ) 連体形の発話	連体形

以上の表 21 のように、出演者が発話した文末に注目し、言語形式による連体終止形の出現様相を調べた結果、(Ⅰ)～(Ⅲ) の 3 種類に分類できた。そのうち、(Ⅰ)「連体形以外の発話」は元々の発話の文末では終止形、接続形式、引用形式など、連体形以外の形式が使用されたにも関わらず、テロップでは連体終止形が用いられるパターンである。また、(Ⅱ)「非発話」は表情やジェスチャーを記述するためにテロップに連体終止形が用いられ、実際の発話は伴っていない場合である。最後に (Ⅲ)「連体形の発話」は連体終止形が発話で用いられ、それがそのままテロップに表示された場合を示す。

次は、連体終止形の (Ⅰ)～(Ⅲ) の出現様相における生起頻度を調べた結果である。

表 22 連体終止形の出現様相による生起頻度

出現様相			生起頻度		
(Ⅰ) 連体形 以外の発話	文 レベル	①連体形の後続部分の省略	25 (22.3%)	61 (54.5%)	100 (89.3%)
		②文末の述語（の類語）の 連体形への変換	36 (32.2%)		
	談話 レベル	③発話の要約的解釈	39 (34.8%)		

¹⁴⁹ 日本語の「する」に相当する韓国語の「hata (하다)」を例に取ると、終止形は「hayyo / hapnita (해요 / 합니다, します)」「hacanhayo (하잖아요, するじゃないですか)」「haciyo (하지요, しますよ)」、接続形式は「hako / hayse (하고 / 해서, して)」「hanuntey (하는데, するのに)」「hanikka (하니까, するので)」、引用形式は「ko (고, と)」などがある。

(Ⅱ) 非発話	9 (8.0%)
(Ⅲ) 連体形の発話	3 (2.7%)
合計	112 (100%)

まず、(Ⅰ)「連体形以外の発話」という出現様相で生起した 100 例 (89.3%) は、文レベルと談話レベルとに下位分類ができた。前者は①「連体形の後続部分の省略」、②「文末の述語 (の類語) の連体形への変換」という 2 つの連体終止形の出現様相がそれぞれ 25 例 (22.3%)、36 例 (32.2%) で合計 61 例 (54.5%) を占めていた。一方、後者は③「発話の要約的解釈」という連体終止形の出現様相が 39 例 (34.8%) であった。続いて、(Ⅱ)「非発話」という連体終止形の出現様相は 9 例 (8.0%) であり、最後に (Ⅲ)「連体形の発話」という連体終止形の出現様相は 3 例 (2.7%) であった。

以上より韓国語の連体終止形は、大きく 3 つの出現様相が存在し、それらを生起頻度の順にまとめると、(Ⅰ)「連体形以外の発話」、(Ⅱ)「非発話」、(Ⅲ)「連体形の発話」となり、圧倒的に (Ⅰ) の生起頻度が高かった。

最後に、連体終止形の使用実態を分析するために、連体形の時制による生起頻度を調べた結果を表23に示す。

表 23 連体形の時制による生起頻度

意味的区別	連体形の時制	生起頻度	
現実	過去	72	111
	現在	39	
非現実	未来	1	
合計		112	

表23から分かるように、過去連体形は72例、現在連体形は39例見られるなど、「現実」を表す連体終止形は111例であるのに対して、「非現実」を表す未来連体形は1例のみで、

圧倒的多数が過去・現在連体形であった。

以上、韓国の特ロップにおける連体終止形の出現様相及び連体形の時制による生起頻度に関する調査結果について述べた。次節では調査結果を踏まえ、連体終止形の出現様相による具体的な事例を紹介する。

6.4.3.1 テロップに生起する連体終止形の出現様相

本節では前節で提示した調査結果を踏まえ、連体終止形の3つの出現様相の具体例を提示する。以下の用例のうち、() は「テロップ」、(’) は「実際の発話」をそのまま書き起こしたものであり、「テロップ」の「...」「.」「!」のような記号は制作者によるものである。

6.4.3.1.1 (I) 「連体形以外の発話」

① 連体形の後続部分の省略

「連体形の後続部分の省略」という連体終止形の出現様相は、番組中の話し手の実際の発話における、連体形に後続する名詞を含む後続部分を丸ごと省略し、結果的に文末に連体形のみを残留させるパターンである。当該の発話から一部を残して残りを省略した形式とも言える。これには、(246’)(247’)のように連体形を含む連体修飾節の直後に語彙的な意味を有する実質名詞が後接する場合と、(248’)(249’)のように機能語化した形式名詞が後接する場合とがある。まず、実質名詞を含む連体形の後続部分が省略された例を示す。

<膝②>

(246) 따뜻한 가정을 만들고 싶었던...

Ttattusha-n kaceng-ul mantul-ko siph-essten...

暖かい-現在連体形 家庭-を 作る-希望-過去回想連体形

「暖かい家庭を作りたかった。」

(246’) 따뜻한 가정을 만들고 싶었던 영향¹⁵⁰도 있었죠.

Ttattusha-n kaceng-ul mantul-ko siph-essten yenghyang-to iss-ess-cyo.

暖かい-現在連体形 家庭-を 作り-希望-過去回想連体形 影響-も ある-過去-終結語尾

「暖かい家庭を作りたかった影響もありました。」

¹⁵⁰ 例文 (246’)～(250’)の波線 (~~~~) は連体修飾節に後接する名詞を示す。

<膝①>

(247) 당신의 손자가 만든...

Tangsin-uy sonca-ka mantu-n...

あなた-の 孫-が 作る-過去連体形

「あなたの孫が作った。」

(247') 당신의 손자가 만든 첫 작품입니다.

Tangsin-uy sonca-ka mantu-n ches cakphwum-ipnita.

あなた-の 孫-が 作る-過去連体形 最初 作品-です

「あなたの孫が作った最初の作品です。」

(246) (247) は (246') (247') との対比から分かるように、それぞれ連体形に後続する実質名詞「yenghyang (영향, 影響)」 「ches cakphwum (첫 작품, 最初の作品)」を含む部分が丸ごと省略されたことによって、結果的に文末の連体終止形が現れている。これらは連体形に後続する「yenghyang-to iss-ess-cyo (영향도 있었죠, 影響もありました)」 「ches cakphwum-ipnita (첫 작품입니다, 最初の作品です)」のような述部よりも、連体形を含む修飾節の部分に焦点を当てさせる効果があると考えられる。具体的に (246) では連体修飾節を構成する「ttattusha-n kaceng-ul mantul-ko siph-essten (따뜻한 가정을 만들고 싶었던, 暖かい家庭を作りたかった)」という部分、(247) では「tangsin-uy sonca-ka mantu-n (당신의 손자가 만든, あなたの孫が作った)」という連体修飾節の部分が最も示したい情報であることを示している。

また、以下に連体形に後続する形式名詞を含む部分が丸ごと省略された例を示す。

<ハッピー①>

(248)=(17) 친구들에겐 보여 주기 싫은!

Chinkwu-tul-eykeyn poye cwu-ki silh-un!

友達-複数-には 見せてあげる-名詞化辞 嫌だ-現在連体形

「友達には見せてあげるのは嫌な。」

(248') 친구들에겐 보여 주기 싫은 거예요.

Chinkwu-tul-eykeyn poye cwu-ki silh-un ke-yeyyo.

友達-複数-には 見せてあげる-名詞化辞 嫌だ-現在連体形 KES-ITA(のだ):終結語尾

「友達には見せてあげるのは嫌なのです。」

<膝①>

(249) 그 만큼 외로움을 많이 타는...

Ku-mankhum oylowum-ul manhi tha-nun...

それほど 寂しさ-を いっぱい 感じる-現在連体形

「それほど寂しさをいっぱい感じる。」

(249') 그 만큼 외로움을 많이 타는 것 같아요.

Ku-mankhum oyilowum-ul manhi tha-nun ke-kath-ayo.

それほど 寂しさ-を いっぱい 感じる-現在連体形 KES-KATHTA(ようだ)-終結語尾

「それほど寂しさをいっぱい感じるようです。」

(248') (249') からみると、実際の発話時には連体形の後ろに、それぞれ「kes (것, もの・こと)」という形式名詞を含む機能語化した複合形式「kes-ita (것이다, のだ)」、
「kes-kaththa (것 같다, ようだ・そうだ)」が続いているが、テロップはそれ以後が丸ごと省略されて文が締めくくられている。具体的には、「kes-ita」と「kes-kaththa」のような話者の主観的態度・判断を表すモダリティ形式が省略され、前接する連体修飾節が文末に配置されることによりその情報が焦点化されている。

また、今回のデータのうち、「連体形の後続部分の省略」は (246)~(249) から分かるように、過去・現在連体終止形が大多数であるのに対して、未来連体終止形¹⁵¹は唯一以下の (250) のみが観察されている。(250') は番組が始まると同時に発話している司会者の初のコメントでもある。

¹⁵¹ テロップでは過去・現在連体終止形に比べ、未来連体終止形は、生起頻度が非常に低いが、慣用化した一部俗語の表現として未来連体終止形が出現することを指摘しておきたい。

(a) 이런, 빌어먹을.

Ilen, pilemek-ul.

ああ ものごいする-未来連体形

「ああ, ものごいするだろう。」

(b) 염병할.

Yempyengha-l.

伝染病(に)かかる-未来連体形

「伝染病にかかるだろう。」(斗山東亜 2003; 訳とグロスは筆者)

(a) の「pilemek-ul (빌어먹을)」、(b) の「yempyengha-l (염병할)」は、動詞の「pilemekta (빌어먹다, ものごいする)」「yempyenghata (염병하다, 伝染病にかか

<ハッピー①>

(250) 목요일밤을 빛내 주실.

Mokyoilpam-ul pichnay cwusi-l.

木曜日夜-を 輝いてくださる-未来連体形

「木曜日の夜を盛り上げてくださる。」

(250') 목요일밤을 빛내 주실 분들이 함께 해 주셨습니다.

Mokyoilpam-ul pichnay cwusi-l pwun-tul-i hamkkey hay cwusye-ss-supnita.

木曜日夜-を 輝いてくださる-未来連体形 方-複数-が 一緒 してくださる-過去-終結語尾

「木曜日の夜を盛り上げてくださる方々がご一緒してくださいました。」

(250) は文中の未来連体形に後接する実質名詞の「pwun-tul (분들, 方々)」を含むそれ以後が省略された形式であり、これは過去・現在連体形に後接する実質名詞以後が省略されたパターンと同様の現象である。

「連体形の後続部分の省略」は 25 例が観察されているが、そのうち、後続名詞として実質名詞が現れる場合は 7 例であるのに対して、形式名詞が現れる場合は 18 例である¹⁵²。これは、実質名詞に比べて形式名詞の方が実質的な意味が希薄化し、ひとまとまりの意味単位として文法化しているため、省略されても文の命題内容に及ぼす影響が実質名詞より低いと考えられる。

② 文末の述語（の類語）の連体形への変換

「文末の述語（の類語）の連体形への変換」は話し手の実際の発話では連体形が用いられなかったにも関わらず、終止形、接続形式、引用形式等の文末の述語形式が、述語の語幹を維持しつつ連体形に変換された場合である。以下に例を示し、詳述する。

¹⁵² 連体形の後続部分に省略された後続名詞についてまとめると以下のようである。

分類	種類	頻度	
実質名詞	「appakkam (압박감, 圧迫感)」 「yenghyang (영향, 影響)」 「ku hanmati (그 한마디, その一言)」 「yayki (얘기, 話)」 「kyelkwamwul (결과물, 結果物)」 「ches cakphwum (첫 작품, 初作品)」 「pwuntul (분들, 方々)」	7	7
形式名詞	「kes-ita (것이다, のだ)」	12	18
	「kes-kathta (것 같다, ようだ・そうだ)」	2	
	「cek-i issta (적이 있다, ことがある)」	1	
	「kes (것, 名詞化辞 の・こと)」	3	
合計		25	

<膝①>

(251) 친한 동생 결혼식도 못 간!

Chinha-n tongsayng kyelhonsik-to mos ka-n!

親しい-現在連体形 後輩 結婚式-も 不可能 行く-過去連体形

「親しい後輩の結婚式も行けなかった。」

(251') 친한 동생 결혼식도 못 갔어요.

Chinha-n tongsayng kyelhonsik-to mos ka-ss-eyo.

親しい-現在連体形 後輩 結婚式-も 不可能 行く-過去-終結語尾

「親しい後輩の結婚式も行けなかったです。」

<膝②>

(252) 지금은 다행히 고비를 잘 넘긴...

(Cikum-un) Tahayngghi kopi-ul cal nemki-n...

今は 幸いに 峠を よく 越える-過去連体形

「(今は) 幸いに峠を無事に超えた。」

(252') 다행히 지금은 고비를 잘 넘겨서.

Tahayngghi cikum-un kopi-ul cal nemkye-se.

幸いに今は 峠を よく 越える-連結語尾

「幸いに今は峠を無事に超えて。」

(251) (252) においては、実際に文末に生起していた述語形式のうち、(251') の終結語尾の「eyo (어요)」や、(252') の理由を表す連結語尾の「ese (어서)」の代わりに、述語が連体形に変換されてテロップに生起している。このプロセスで注目すべき点は、(251') の聞き手への丁寧さを表す終結語尾「eyo」や、以下の (253') のように尊敬のマーカ「si (시)」と丁寧さを表す終結語尾「(su)pnita ((스)ㅍ니다)」が組み合わされた場合などのような、聞き手への丁寧さを示すマーカがすべて省略されている点である。

<膝②>

(253) 평생 나올 광고를 다 찍은.

Phyengsayng nao-l kwangko-lul ta ccik-un.

一生 出る-未来連体 広告-を 全部 撮る-過去連体形

「一生出るコマーシャルを撮影した。」

(253') 평생 나올 광고를 다 찍으셨습니다.

Phyengsayng nao-l kwangko-lul ta ccik-usye-ss-supnita.

一生 出る-未来連体形 広告-を 全部 撮る-尊敬-過去-終結語尾

「一生出るコマーシャルをいっぱい撮影されました。」

次に、実際の発話における文末の述語形式が、テロップでは別の述語の連体終止形によって言い換えられる場合である。以下に例を示す。

<膝②>

(254) 남자친구가 생긴 순간 신경이 쓰이는.

Namcachinkwu-ka sayngki-n swunkan sinkyeng-i ssui-nun.

男子友達-が できる-過去連体形 瞬間 神経-が 使われる-現在連体形

「彼氏ができた瞬間気になる。」

(254') 남자친구가 생긴 순간 신경이 예민해졌어요.

Namcachinkwu-ka sayngki-n swunkan sinkyeng-i yeyminhaycye-ss-eyo.

男子友達-が できる-過去連体形 瞬間 神経-が 敏感になる-過去-終結語尾

「彼氏ができた瞬間神経を使いました。」

<膝①>

(255) 경제적 현실에 눈을 뜨게 된.

Kyengceycek hyensil-ey nwun-ul ttu-key toy-n.

経済的 現実-に 目-を 覚ます-ようになる-過去連体形

「経済的現実に目を覚ますようになった。」

(255') 경제적 현실에 눈을 뜨니까.

Kyengceycek hyensil-ey nwun-ul ttu-nikka.

経済的 現実-に 目-を 覚ます-連結語尾

「経済的現実に目を覚ますから。」

(254') のようなテロップでは聞き手への丁寧さを表す終結語尾「eyo (어요)」が省略されるという特徴が見られる。また、話し手が発話した文末の述語は (254') 「sinkyeng-i yeyminhaycita (신경이 예민해지다, 神経を使う)」、(255') 「nwun-ul ttuta (눈을 뜨다, 目を覚ます)」である。それにも関わらず、連体終止形として、発話内容の意味をほぼ変えず (254) のように 「sinkyeng-i ssuita (신경이 쓰이다, 気になる)」といった類語に言い換えたり、(255) のように 「key toyta (게 되다, ようになる)」のような語句を付け加えるといった操作が行われる。

このように、実際の発話においては、連体終止形が使用されていなかったにも関わらず、①「連体形の後続部分の省略」、②「文末の述語（の類語）の連体形への変換」のようなプロセスを通してテロップに連体終止形が現れている。

③ 発話の要約的解釈

「発話の要約的解釈」を表す連体終止形は、発話の単文レベルからテロップに連体終止形が表示された①②とは異なって、話し手が話している複数の発話、つまりある談話を基にして、その状況や場面から予想される発話内容の要点をなるべく第3者の観点から客観的にまとめようとする際に用いられる。

<ハッピー①>

(256) 석천은 색감의 조화를 우선시하는.

Sekchen-un saykkam-uy cohwa-lul wusensiha-nun.

人名-は 色感-の 調和-を 優先視する-現在連体形

「ソクチョンは色感の調和を優先する。」

(256') <第3者の家の内部のインテリアの写真を見ながらの対話>

인국 : 저는 지금 다른 세계에 온 것 같아요.

석천 : 제가 봤을 때, 그냥 집이 남자 집인 것처럼 제 눈에는 보이는데, 너무 안 꾸민 거야. 저 집은.

인국 : 저게요?

석천 : 저건 안 꾸민 거야.

인국 : 그릇이 깔맞춤인데.

석천 : 색감이 절대 조화가 안 맞잖아, 저게.

Inkwuk: Ce-nun cikum talun seykyey-ey o-n ke-kath-ayo.

私-は 今 別 世界-に 来る-過去連体形 KES-KATHTA(みたいだ)-終結語尾

Sekchen: Cey-ka pwass-ul ttay, kunyang cip-i namcacipi-n kes chelem

私-が 見た-未来連体形 時 ただ 家-が 男性家だ-現在連体形 のように

cey nwun-ey-nun poi-nuntey, nemwu an kkwumi-n ke-ya.

私の 目-に-は 見える-けど あまり 否定 飾る-過去連体形 KES-ITA(のだ):終結語尾

cey cip-un.

あの 家-は

Inkwuk: Cekey-yo?

あれが-丁寧

Sekchen: Ceken an kkwumi-n ke-ya.

あれは 否定 飾る-過去連体形 KES-ITA(のだ):終結語尾

Inkwuk: Kulus-i kkalmacchwum-intey.

食器-が お揃い-だけど

Sekchen: Saykkam-i celtay cuhwa-ka an mac-canha, cekey.

色感-が 絶対 調和-が 否定 合う-じゃない あれが

「イング : 私は今別世界に来たみたいです。
 ソクチョン : 私から見ると、ただ家が、男性の家のように私の目には見えるけど、
 あまり飾っていないの。あの家は。
 イング : あれがですか？
 ソクチョン : あれは飾っていないの。
 イング : 食器がお揃いだけど。
 ソクチョン : 色感が全く調和していないじゃない、あれが。」

(256') の場合、司会者が出演者のイング、ソクチョンに他の出演者の家の内部の写真を見せて、その家の内部の家具、飾り方などを評価してもらっている場面である。そして2人の発話内容から、ソクチョンのインテリアに関する好みや趣向が窺えたところで、当該の発話内容および状況を締めくくる要約として、(256) 「sekchen-un saykkam-uy cohwa-lul wusensiha-nun (색천은 색감의 조화를 우선시하는, ソクチョンは色感の調和を優先する)」という連体終止形がテロップとして現れている。

<膝②>

(257) 잘 적응한 딸의 모습에 기뻐던...

Cal cekungha-n ttal-uy mosup-ey kippe-ssten...
 よく 適応する-過去連体形 娘-の 姿に 嬉しい-過去回想連体形

「よく適応した娘の姿が嬉しかった。」

(257') <話し手の再婚の後、自分の娘が新しい家族と仲良く過ごすことに関する発話>

그 집 애들하고 너무나 친자매처럼 사이 좋게 지내는 거예요. 너무나 사이 좋게 지내고, 정말 늘 몇 십 년 살아온 친자매처럼 지내면서 아침에 일어나면 한 침대에서 다 일어나고. 그런 모습이 너무 좋았었지요.

Ku cip ai-tul-hako nemwuna chincamay-chelem saicohkey cinay-nun
 その家 子供-複数-と あまりにも 親姉妹-ように 仲良く 過ごす-現在連体形
 ke-yeyyo. nemwu saicohkey cinayko, cengmal nul myechsip nyen
 KES-ITA(のだ):終結語尾 あまりにも 仲良く 過ごし 本当に ずっと 何十 年
 salao-n chincamay-chelem cinay-myense achim-ey ilena-myen
 過ごしてくる-過去連体形 親姉妹-ように 過ごす-ながら 朝-に 起きる-条件
 han chintay-eyse ta ilenako. kulen mosup-i nemwu coh-ass-ess-ciyo.
 同じ 寝台-で みんな 起きて そういう 姿-が とても よい-過去-大過去-終結語尾
 「その家の子供とあまりにも血のつながった姉妹のように仲良く過ごしている
 のです。あまりにも仲良く過ごし、本当にずっと何十年過ごしてきた血のつな
 がった姉妹のように過ごしながら、朝起きたら同じベッドでみんな起きて。そ

ういう姿がとてもよかったです。」

また、(257') の場合は、話し手が再婚後、娘が血のつながりのない姉と仲良く過ごせるかどうか、心配したが、予想外に仲良く過ごしてくれた姿を見て嬉しかった、安心した、という話し手の感情が、(257) 「cal cekungha-n ttal-uy mosup-ey kippe-ssten (잘 적응한 딸의 모습에 기뻐던, よく適応した娘の姿が嬉しかった)」 という連体終止形でテロップとして示されている。

つまり、③「発話の要約的解釈」という出現様相は、談話レベルとして実際の話し手の発話に基づいて現れるのは確かである。しかし、テロップに表示されている連体終止形は、話し手の発話内容をそのまま示す①②とは異なって、当該の発話内容やその状況・場面に基づいた、話し手の伝達意図と推察される内容である。

6.4.3.1.2 (Ⅱ)「非発話」

話し手の発話行為を伴わない唯一の出現様相の「非発話」は、話し手の表情や身振り手振りといった非言語行動の描写や、それらから読み取れる解釈を連体終止形によって示す用法である。

<膝①>

(258) <笑いをこらえている表情の出演者に対して>

웃음을 꼭 참는.

Wusum-ul kkwuk cham-nun.

笑いを ぐっと こらえる-現在連体形

「笑いをぐっとこらえる。」

<ハッピー②>

(259) <手を横に広げ、芸能界に入って売れる前後の差を表している出演者に対して>

뜨기 전후 차이가 확실한!

Ttu-ki cenhwu chai-ka hwaksilha-n!

売れる-名詞化辞 前後 差異-が 確実だ-現在連体形

「売れる前後の違いは明らかな。」

(258) は笑い声を出さず、笑いを我慢している出演者の表情、(259) は芸能界に入って売れる前後の態度が目立つようにならってきた出演者に対して、他の出演者によるジ

ェスチャーなど、その表情やジェスチャーから解釈される情報を連体終止形によって提示している。つまり、この出現様相は、他の出現様相とは異なって、出演者の表情やジェスチャーなどの非言語行動や、そこから読み取れる情報を言語化してテロップに表示する特徴が窺える。

6.4.3.1.3 (Ⅲ)「連体形の発話」

テロップに連体終止形が出現するパターンとして、実際の発話で連体終止形が用いられた (Ⅲ)「連体形の発話」は、112 例のうち、3 例しかなかった。これは連体終止形が実際の発話においてもまだ生産的に現れない有標形式であることを示す。

以下の (260) (261) は話し手の発話が連体形で終結され、そのままテロップに表示された場合である。

<膝①>

(260) 당시에 혁신적이었던!

Tangsi-ey hyeksinceki-essten!

当時-に 革新的だ-過去回想連体形

「当時革新的だった。」

(260') 가끔 지방 여관 가면 있어요. 비디오비전. 당시에 혁신적이었던.

Kakkum cipang yekwan ka-myen iss-eyo. pitipicen. tangsi-ey hyeksinceki-essten.

たまに 地方 旅館 行く-条件 ある-終結語尾 ビデオビジョン 当時-に 革新的だ-過去回想連体形

「たまに地方の旅館に行くとあります。ビデオビジョン。当時革新的だった。」

<膝①>

(261) 말로 형용할 수 없는!

Mal-lo hyengyongha-l swu eps-nun!

言葉-で 形容する-未来連体形 こと ない-現在連体形

「言葉で形容することができない。」

(261') A: 무대에 있는 자신이 좋던가요?

B: 아~그게요. 말로 형용할 수 없는. 막 눈알이 돌아가면서.

A: Mwutay-ey iss-nun casin-i coh-ten-kayo?

舞台-に いる-現在連体形 自分が よい-回想-疑問

B: A~kukey-yo. mal-lo hyengyongha-l swu eps-nun.

ああそれが-終結語尾 言葉-で 形容する-未来連体形 こと ない-現在連体形

mak nwunal-i tolaka-myense.

なんか 目玉-が 回る-ながら

「A: 舞台にいる自分がよかったですか。

B: ああ～それがですね。言葉で形容することができない。なんか目が回りながら。」

まず、(260') は出演者の発話の中で出てきた「ビデオビジョン (ビデオデッキが付いているテレビ)」に対する司会者の発話である。具体的には、「kakkum cipang yekwan ka-myen iss-eyo (가끔 지방 여관 가면 있어요, たまに地方の旅館に行くとあります)」の主語として「ビデオビジョン」が後から発せられ、その後、敷衍する内容として「tangsi-ey hyeksinceki-essten (당시에 혁신적이었던, 当時革新的だった)」という連体終止形が発話の締めくくりとして現れている。

また (261') では、出演者 (B) の「ヒップホップ歌手としてデビューする前に、ヒップホップのクラブから公演の依頼があり、その公演でヒップホップ歌手としての自分の実力を認められた。当時舞台に立った感動の気持ちを考えると、胸がいっぱいになり、未だに忘れられない」という発話が先にあり、それに対して司会者 (A) は「舞台にいる自分がよかったですか」という質問を投げかけている。当時のことを思い出した出演者 (B) は感激の余り、その答えとして「mal-lo hyengyongha-l swu eps-nun (말로 형용할 수 없는, 言葉で形容することができない)」という連体終止形で発話がなされ、その後、「なんか目が回りながら」という発話が続けられている。そして連体終止形そのものがそのままテロップに示されている。

以上をまとめると、話し手自身が連体終止形の発話を意図したと見られる (260') (261') では、話し手の発話が何らかの物理的要因によって遮られたというより、話し手自身の内的要因に基づいて自主的に連体終止形が発せられており、それがそのままテロップに繰り返して現れていることが分かった。

次節では本節で提示した出現様相による具体的な例を踏まえつつ、テロップに出現する連体終止形の機能や動機づけの解明を試みる。

6.4.4 考察

前節では、連体終止形のこれまで先行研究において指摘されてきたインターネットのブログ等での使用以外に、テレビ番組のテロップにおいても一定の頻度で用いられていることが分かった。しかし、6.4.3 節で示した調査結果に示されているようにテロップ

に生起する連体終止形は 112 例であるのに対して、無標形式の終止形は 1258 例¹⁵³であり、「連体終止形」が表示される割合は決して高くない。さらに、6.4.2 節で示した表 20 の各番組の最初から 5 分間を調べた結果、テロップに現れる言語形式の種類は表 24 のようにまとめられる。

表 24 テロップ内に生起する言語形式と生起頻度

言語形式	生起頻度
名詞	147 (47.4%)
終止形	93 (30.0%)
助詞	29 (9.4%)
接続形式	26 (8.4%)
副詞	9 (2.9%)
連体形	3 (0.95%)
感動詞	3 (0.95%)
合計	310 (100%)

以上のように、合計 310 例のテロップのうち、名詞は 147 例 (47.4%)、終止形は 93 例 (30.0%) を占めているのに対し、本研究の主な研究対象である連体形は 3 例 (0.95%) にすぎないなど、テロップでの無標形式は名詞と終止形といっても過言ではない。以下では、テロップに現れる名詞止めや終止形止めとの比較を通して、それとは異なる連体終止形の機能や動機づけを解明する。

まず、「連体終止形」の出現様相としては、(I)「連体形以外の発話」という文レベルでは①「連体形の後続部分の省略」と②「文末の述語（の類語）の連体形への変換」があった。特に②の例文 (254) (255) に関しては、当該の述語における言い換えや語句の補足はあるものの、①②は話し手による命題的意味を維持しながら、不特定多数の視聴者に対して、モダリティ形式、聞き手への丁寧さを表す終結語尾などのような標識を「捨象する」という動機づけが窺えた。その結果、①②は話し手の発話によるものであるものの、①は連体修飾節、②は文末の述語のみを連体終止形で締めくくることによっ

¹⁵³ 6.4.2 節で示した表 20 の番組のテロップに現れた終止形の生起頻度である。

て結果的に述語そのものが焦点化され、それが主な情報として明示されていると考えられる。

また、これと類似した現象として、テロップにおいて終止形で文を終結する場合がある。この場合は発話全体や発話の一部が繰り返しテロップに現れている点で塩田 (2005) の「強調型」に相当するパターンであると思われる。

<膝①>

(262) 개그맨들 나오셨다.

Kaykumayn-tul nao-sye-ss-ta.

ギャクマン-複数 出る-尊敬-過去-終結語尾

「お笑い芸人たちが出られた。」

(262') 개그맨들 나오셨다, 개그맨들 나오셨어.

Kaykumayn-tul nao-sye-ss-ta, kaykumayn-tul nao-sye-ss-e.

ギャクマン-複数 出る-尊敬-過去-終結語尾 ギャクマン-複数 出る-尊敬-過去-終結語尾

「お笑い芸人たちが出られた、お笑い芸人たちが出られた。」

<膝①>

(263) 먼저 잘 되면 형이에요.

Mence cal toy-myen hyeng-ieyyo.

先に うまく なる-条件 兄-です

「先に売れると先輩です。」

(263') 먼저 잘 되면 형이야.

Mence cal toy-myen hyeng-iya.

先に うまく なる-条件 兄-だ

「先に売れると先輩だよ。」

(262) (263) は (262') (263') に示される発話の一部や発話全体がテロップに表示されるという共通点を見せながら、(262) では発話で用いられた尊敬を表すマーカ―がそのままテロップに現れており、(263) では発話で生起していなかった丁寧さを表すマーカ―が付け加えられている。これは、発話で用いられた聞き手への丁寧さを表すマーカ―が省略されてテロップに表示される、(I)「連体形以外の発話」の①②とは異なるプロセスである。このことは終止形がテロップに現れる場合、もっぱら話し手の発話そのものに着目して、単にその発話をテロップに再現することに焦点が当てられているのではないかと考えられる。そのため、テロップに現れる終止形は、「出演者の思いの強さを

視聴者に感じさせる強調の効果が生じると同時に、聞き逃しを防ぎ、特定の発話やその一部の発話に視聴者の注意を向けることによって、その部分を強調する（塩田 2005 : 38）」といった「強調型」と同様の効果が生み出されている。

しかし、(I)「連体形以外の発話」の①②は、出演者の発話の一部がテロップに表示されているものの、1 例を除き、「現実」をコード化する過去・現在連体形で文を締めくくっている。そうすることによって、出演者から発せられる発話内容に対して、視聴者はすでに行われた、もしくは現在行われている「現実」として捉えることができる。つまり、願望、後悔、嬉しさ、寂しさ、悲しさ、残念さといった主観的な感情、考えをテロップに表す際に、言い切らず過去・現在連体終止形にすることによって、発話内容の真偽には立ち入らないが、聞き手と今ここで共有したいという気持ちを表すことが可能となる。その結果、聞き手は当該の事柄に対して感情移入しやすくなり、それは共感を促す効果へつながっていくのであろう。これはテロップに現れる連体終止形のうち、未来連体形に比べ、過去・現在連体形が圧倒的に高い割合を占めているのと深い関係があるのではないと思われる。

また、(III)「連体形の発話」という出現様相は、発話の一部がテロップに表示された(I)「連体形以外の発話」の①②とは異なって、実際の発話で用いられた連体終止形の発話全体がそのままテロップに表示される場合である。この仕組みは連体形のみならず、名詞や終止形においても見られる現象である。以下では終止形止めで発せられ、その発話全体がそのままテロップに現れる例を示す。

<ハッピー②>

(264) (264') <出演者のヘアスタイルに関する司会者の発言>

머리가 약간 딱따구리 같아요.

Meli-ka yakkan ttakttakwuli kath-ayo.

頭-が ちょっと キツツキ みたいだ-終結語尾

「頭がちょっとキツツキみたいです。」

<ハッピー②>

(265) (265') <同じチームのメンバーが出演者の自分より人気があるということで、ジェラシーを感じながらの冗談っぽい発言>

별로 기분 안 좋아요.

Pyello kipwun an coh-ayo.

あまり 気分 否定 よい-終結語尾

「あまり気分がよくないです。」

この仕組みは塩田（2005）の「強調型」に当てはまるが、発話全体がそのままテロップに表示される「終止形」と「連体終止形」はどのような機能上の相違が見られるのであろうか。

一般的に「終止形」は「断定」、「連体終止形」は「断定保留」という機能を有するとされており、その機能はテロップにおいても依然として反映されていると考えられる。そのため、「終止形」がテロップに現れる場合は、話し手によって「断定」して発せられた発話をそのままテロップに表示し、その終止形は中立・客観的に捉えられる。これに対して、「連体終止形」がテロップに現れる場合は、断定を避け、「現実」を表す過去・現在連体形で終結することによって、聞き手に共感や理解を求めつつ、解釈の余地を与えていると思われる。これは金（2009）で指摘されているように、実際の発話で用いられた連体終止形を「緩衝表現」の1つとして位置づけ、文の明言を避ける効果があるという解説と密接な関連性がある（詳細は3.3.1節を参照）。

次に（Ⅱ）「非発話」という出現様相からテロップに現れる連体終止形は、直接的な発話内容の再現ではなく、出演者の置かれている状況や場面に基づいた表情やジェスチャーによるものである。この場合は名詞止めや終止形止めにおいても同様のことが見られるが、名詞止めのほうが生産的に観察された。以下にその例を示す。

<膝①>

(266) <大げさにオーバーアクションしている出演者に対して>

살아있는 리액션.

salaiss-nun liayksyen.

生きている-現在連体形 リーアクション

「生きているリーアクション。」

<ハッピー①>

(267) <ロングヘアの2人の男性の後姿に対して>

청순 (chengswun, 清純)

(266) (267) の名詞止めは、発話を伴わず、出演者のジェスチャーや姿に基づいてテロップに描写している点で、（Ⅱ）「非発話」の連体終止形と類似している。しかし、名詞止めの場合、ただ出演者が出演している場面を淡白に描写しているのに対して、連体終

止形は出演者が出演している場面を描写しながら、その状況を聞き手にアピールしながら、共感を促しており、これは「現実」を表す過去・現在連体形によるものであると考えられる。

また、連体終止形では観察されなかったが、表情やジェスチャーなどの非言語的情報に発話を伴っている場合がある。以下に名詞止めがテロップに現れる例を示す。

<ハッピー①>

<不満そうな表情をしながら、一緒に出演したゲストが気に入らないという発話>

(268) 불만 (pwulman, 不満)

(268') 오늘 예능대세라고 요즘 그래서 나를 불렀다고 그랬는데 오늘 이거 뭐야?

Onul yeynung taysey-lako yocum kulayse na-lul pwulle-ss-ta-ko

今日 バラエティ 売れっ子だと 最近 それで 私-を 呼ぶ-過去-終結語尾-と

kulay-ss-nuntay onul ike mwe-ya?

言う-過去-けど 今日 これ 何-だ

「今日バラエティの売れっ子だと最近それで私を呼んだと言ったけど、今日これは何？」

<ハッピー②>

<司会者が最近売れっ子の A ゲストに集中的に質問をし、好意を表している中で、B ゲストはそれが気になっているようで、この番組のために自分なりに貢献してきたと言いつづけている。>

(269) 견제 (kyencey, 牽制)

(269') B: 내가 기여를 더 많이 했는데.

Nay-ka kiye-lul te manhi hay-ss-nuntay.

私-が 寄与-を もっと いっぱい する-過去-のに

「私が寄与をもっといっぱいしたのに。」

名詞止めの (268) (269) は、出演者の表情やジェスチャーについて描写・解釈をしているが、発話を伴っている点で、(I)「連体形以外の発話」の③「発話の要約的解釈」と(II)「非発話」という出現様相にまたがっているものであると考えられる。

特に、(I)「連体形以外の発話」の③と(II)「非発話」による連体終止形は、実際行われている発話内容や表情、ジェスチャーによるものではあるが、制作者の「解釈」が積極的に反映されている。この場合、制作者による押し付けがましさを軽減したり、視聴者と制作者との間に生じる発話内容のずれを補う手段として、「現実」を表す過去・現在連体終止形が用いられていると考えられる。逆に言うと、無標の名詞止めや終止形

止めで表すこともできるが、連体終止形で締めくくることによって、視聴者と作者との間に生じる発話内容におけるずれを補うことができると同時に、視聴者にその解釈を委ねる効果を狙っていると思われる。このことはテロップに出現する連体終止形の主な機能でもある。つまり、(Ⅰ)「連体形以外の発話」の③、(Ⅱ)「非発話」は、「話し手が伝えたい発話内容に対して、視聴者が理解して受け入れる情報・解釈と、作者が意図している情報・解釈との間にずれが生じた場合、押し付けがましくなる可能性がある(塩田 2005)」といった、「解釈型」の問題点を解決する手段として用いられているのではないと思われる。

テロップは、発話または表情やジェスチャーを通して、あるできごとを作り出す出演者と、それを理解して受け入れる視聴者との間に設けられたできごとの共有の場でありながら、「今、この場で、何がどうしているという臨場感を表現するもの(設楽 2011: 6)」である。テロップに用いられる現代韓国語の連体終止形は、特に「現実」を示す過去・現在連体形を主に提示することによって、臨場感を与え、話し手の(非)言語行動に対して、聞き手の側での理解や共感、気づきなどを喚起する働きをしているものと考えられる。さらに、古代日本語においても、連体終止形、いわゆる「連体止め」が存在し、話し手の置かれている発話場面・状況を臨場感を持って描写したり、その状況や場面から喚起される様々な評価・解釈・感情を伝達する機能がある(Iwasaki 1993, 土岐 2005)とされている。

ただ、テロップ内に生起している韓国語の連体終止形は、名詞止めおよび終止形止めと混在していること、また、未来連体終止形は 1 例しかなかったこと、最後に言葉の省略を示しつつ言葉をぼかす効果もある「…」や、文章の終わりを示す「.」、感嘆や強調、呼びかけを表す「!」のテロップ内の文章符号など、「連体終止形」が文末形式として定着しつつある過度期におかれていることの表れとも解釈できるのではないと思われる。

6.5 まとめ

本章では韓国のインターネットのブログや、テレビバラエティ番組のテロップの事例に焦点をあて、韓国語の「従属節の主節化」現象の 1 つとして連体終止形を取り上げ、(Ⅰ)「kes-kathun」と、(Ⅱ)「一般述語」の「連体終止形」について考察を行った。

まず、(Ⅰ)に関しては、韓国語の「kes-kathun」は「現実」を表す過去・現在連体形

と、「非現実」を表す未来連体形が共起することができる。まず、過去・現在連体形が前接する場合は、すでに行われた現実の事柄に対して「類似性」を表す「kes-kathun」で文を止めることによって、「断定の回避」という語用論的機能を果たしている。これに対して、未来連体形が前接する場合は、まだ行われていない事柄を将来実現されるかのように捉え、相手に理解や共感を呼び起こすという語用論的機能が見られる。つまり、前者は「ネガティブ・ポライトネス」、後者は「ポジティブ・ポライトネス」の機能を果たしているとも解釈でき、両者におけるこの働きは「類似性」を表す「kes-kathun」の本来の語彙的意味によるものであると考えられる。

さらに、韓国語の「kes-kathun」と日本語の「みたいな」との対比を行った結果、「kes-kathun」はインターネットのブログを中心とした書き言葉というジャンルの限定が見られ、英語の「like」、フィンランド語の「niinku」、スウェーデン語の「liksom」などのように、類似性を表す語から引用マーカーへの機能は獲得していない。これに対して、「みたいな」は話し言葉で用いられ、引用マーカーへの機能拡張も確認できた。すなわち、韓国語の「kes-kathun」と日本語の「みたいな」は意味・形態的に類似しており、「連体終止形」という共通性を見せつつも、語用論的な機能拡張の程度の大小という対比が観察された。

(Ⅱ) に関しては、テロップに現れている「一般述語」の連体終止形の出現様相は「連体形以外の発話」、「非発話」、「連体形の発話」とに3分類することができた。そして、連体終止形は「連体形以外の発話」からテロップに現れる場合が多かった。さらに、テロップに生起する言語形式として、無標の名詞や終止形に比べ、連体終止形は生産的に用いられていないのが現状である。それにも関わらず、テロップにおける連体終止形の使用は、名詞止めや終止形止めと異なって、聞き手に共感や理解を求め、臨場感を高めようとする話し手または制作者の意図によって動機づけられている。

また、「一般述語」の連体終止形の場合、圧倒的に過去・現在連体形が多く、未来連体形は殆ど観察されなかった。というのも、未来連体形は非現実を示すため、「類似性」を表す「kes-kathun」を付加することによってまだ行われていない事柄を表すことができるからである。

近年頻繁に観察されるようになってきた韓国語の連体終止形は、日常生活で使われる話し言葉というより、ネット上のブログやテレビ番組のテロップとして出現する場合が多い。今回の調査で用いたデータはブログやテロップなど、いわゆるメディア言語に限

られていたため、今後は本研究で用いた分析手法を、実際の談話に現れる連体終止形に対して適用し、話し言葉のジャンルごとの連体終止形の機能・特徴を解明していきたい。

第7章 結論

本章では、これまでの各章での議論を改めて整理した上で、本研究を通して得られた研究成果について言語学への示唆を提示する。その後、今後の課題と展望を示す。

7.1 本研究のまとめ

本研究では、形式名詞及び名詞化辞として用いられる韓国語の「kes」に着目し、「kes」に由来する「文末名詞化構文」「連体終止形」を主な研究対象としている。具体的には「認知類型論」の知見を援用し、文末に生起する「kes」に由来する諸形式（「N ke(s-ita)」 「I kes(-ita)」 「tanun ke(s-ita)」 「kes-kathun」）をはじめ、それと関連する周辺的な形式（「um-ita」「ki-ita」「一般述語」の「連体終止形」）に関して考察を行い、1つの構文としての位置づけを試みた。なお、韓国語の一部の形式においてはそれに対応する日本語との対照を通じて両言語の類似点や相違点を明らかにした。以下、各章のまとめについて述べる。

まず、第1章では、本研究の研究対象および研究背景と研究目的、そして研究方法について述べた。

第2章では、本研究の研究対象として取り上げている新奇表現を、1つの構文として捉えるため、「認知・機能言語学」と「言語類型論」、いわゆる「認知類型論」を取り入れている。また、対照言語学、文法化、ポライトネス理論など、本研究と密接な関連性を持つ知見を導入し、本研究の研究対象である既存の文末形式及び新奇表現の機能を明らかにする有用な手法として提示した。

第3章では、本研究の研究対象は「文末名詞化構文」と「従属節の主節化」現象に位置づけられる文末形式であるため、「文末名詞化構文」のうち「形式名詞+コピュラ」形式と、「従属節の主節化」現象では、「連体終止形」に関する先行研究を中心に紹介した。本研究では日本語との対照も行ったが、特に、韓国語を基準言語としているため、両者の韓国語に関する先行研究を概観した上で、日韓対照の観点からみた先行研究を紹介し、その問題点を指摘した。

第4章では、既存の「N」と「I」のような連体形語尾以外に、「tanun」も連体形語尾の1つとして見なすことによって、すでに定着した「説明」の「N kes-ita」、「推量」の

「l kes-ita」はもとより、「tanun kes-ita」も「kes-ita」構文に位置づけられる可能性を示唆している。さらに、今までコピュラ無しの文末名詞化構文に関する研究成果は殆どなかったが、すでに固定化した「命令・忠告」の「l kes」を踏まえ、「tanun ke」や「N ke」に関してもコピュラ無しの「ke(s)」構文への位置づけを試みた。

具体的には、韓国語のコピュラ付きの「tanun kes-ita」やコピュラ無しの「tanun ke」「N ke」を主な研究対象として考察を行った上で、日本語の文末名詞化構文との対比を行った。まず、韓国語のコピュラ付きの「tanun kes-ita」は「伝聞」「換言」の機能以外に、当該の事柄に対する書き手自身の感情や評価、考えなどを表す際に、「自己引用」のマーカ―として現れ、「間接説明」という新たな機能への拡張が見られた。

また、コピュラ無しの「tanun ke」は、書き手自身が置かれている当該の事柄を読み手にアピールしようとする「報告・伝達」の機能のほか、様々な語用論的機能を獲得しており、この機能は「ポジティブ・ポライトネス」や「主観化」「間主観化」のマーカ―と密接な関わりを持つ。さらに、コピュラ無しの「N ke」はコピュラ無しの「tanun ke」とは異なって読み手をあまり前提とせず、書き手自身に関わる事柄に対して「断言・主張」する機能が見られた。

次に韓国語の「tanun ke(s-ita)」と日本語の「ということ (だ)」との対比について述べる。韓国語の「tanun kes-ita」に相当する日本語の「ということだ」は、「tanun kes-ita」と同様に「伝聞」「換言」の機能を示しつつも、「tanun kes-ita」のように、書き手自身が当該の事柄に対して自分の感情や評価、考えなどを自ら引用して示す「間接説明」という機能は獲得していない。また、コピュラ無しの「tanun ke」はコピュラ付きの「tanun kes-ita」に比べ、様々な語用論的機能が生産的に見られる。これに対し、コピュラ無しの「ということ」は疑問文として用いられたり、「かな」のような疑問を表すマーカ―と共起する傾向が見られるものの、用いられる場面の丁寧度の違いを除けば、コピュラ付きの「ということだ」と機能上の相違はあまり見られないことが分かった。そして、「tanun ke(s-ita)」が含まれている韓国語の「kes(-ita)」構文は、コピュラの有無を問わず、前接する連体形による機能の分化が見られるが、「ということ (だ)」が含まれている日本語の「こと (だ)」構文はコピュラの有無を問わず、前接する連体形によって部分的な機能の分化が見られた。

第5章では、韓国語の名詞化辞「kes」「um」「ki」から文末名詞化構文「kes-ita」「um-ita」「ki-ita」への形態・機能上の拡張を主張し、考察を行った。

まず、「kes-ita」の場合、既に固定化した形式として、「N kes-ita」は「説明」、「I kes-ita」は「推量」という、前接する連体形語尾の時制による機能の分化が知られており、それぞれの個別形式に関する研究が多い。そのため、本研究では両者の文法化の程度を測る有用な分析手法として「形態の拘束性 (boundedness) (Traugott 2003)」という概念を援用し、「N kes-ita」と「I kes-ita」の文法化の度合いについて分析した。その結果、過去・現在連体形が前接する「N kes-ita」は、「kes」と「ita」の間に複数・限定を示す接辞が共起したり、「kes」が「存在・事物」を表すなど、「kes」と「ita」が分割可能な場合が、未来連体形が前接する「I kes-ita」に比べ、多少高かった。よって、「N kes-ita」のほうが「I kes-ita」に比べ、文法化が進んでいないことが確認できた。

また、「um-ita」に関しては、尊敬のマーカ―「si」が共起する「sim-ita」の分析を通して、無標の「終止形」で出現することができるにも関わらず、文末名詞化構文として出現する動機づけと、尊敬のマーカ―「si」の機能拡張について分析した。その結果、無標の「終止形」を「um-ita」のような文末名詞化構文に置き換えることによって、書き手自身の感情や評価、考えなどを直接読み手に訴えることを避ける効果が生まれることが分かった。なお、読み手にとっては、当該の事柄に対する押し付けがましさが緩和されることになり、その解釈は読み手に委ねることができた。

また、韓国語の「sim-ita」は文末名詞化構文でありながら、尊敬のマーカ―を含んでいることから、その形式に最も類似していると見られる日本語の「お～だ」文と対照を行った。元々「尊敬」を表す「si」は「皮肉」「親愛」への機能拡張が顕著に見られるなかで、「sim-ita」は「尊敬」や「皮肉」「親愛」など、「si」の語彙的意味を残したまま、名詞述語文としての役割を果たしている。これに対して、「お～だ」文は尊敬表現と名詞述語文との見分けが困難なこともあり、「お～だ」文が「状況叙述」を表す場合は、完全に「尊敬」の意味を喪失していることが分かった。

最後に、「ki-ita」に関しては、「ki」と「ita」が分割可能な場合と、一語化した場合とがある。前者は「Aは/がBだ (「A \in Bだ」)」のような構造をとっており、「ki」はBに相当するもので、名詞化辞として振る舞っていることが分かった。これに対し、後者の場合はひとまとまりの形式として「原因・理由」を表し、韓国語の「原因・理由」を表す「ki ttaymwun-ita」から「ttaymwun」が省略された可能性を示した。さらに過去を表すマーカ―と共起するコピュラ無しの「ki」を取り上げ、両者に属さない根本的な理由と、特化したその形式の機能について述べた。

第6章では、韓国語の「従属節の主節化」現象の1つとして連体終止形を取り上げ、(Ⅰ)「連体終止形」の「kes-kathun」と、(Ⅱ)「一般述語」の「連体終止形」について考察を行った。(Ⅰ)に関しては日本語の「みたいな」との対照も行った。

まず、(Ⅰ)に関しては、韓国語の「kes-kathun」は「現実」を表す過去・現在連体形と、「非現実」を表す未来連体形が共起することができる。まず、過去・現在連体形が前接する場合は、すでに行われた現実の事柄に対して「類似性」を表す「kes-kathun」で文を締めくくることによって、「断定の回避」のような「ネガティブ・ポライトネス」の機能を果たす。これに対して、未来連体形が前接する場合は、まだ行われていない事柄を将来実現されるかのように捉え、相手に理解や共感を引き起こすなど、「ポジティブ・ポライトネス」の機能が見られる。いずれにせよ「kes-kathun」の機能は、連体終止形として文末に単独で生起するものの、「類似性」を表す本来の語彙的意味によるものであることが分かった。

さらに、韓国語の「kes-kathun」と日本語の「みたいな」との対照を行った結果、「kes-kathun」はインターネットのブログを中心とした書き言葉というジャンルの限定が見られ、英語の「like」、フィンランド語の「niinku」、スウェーデン語の「liksom」などのように類似性を表す語から引用マーカーへの機能獲得はしていない。これに対して、「みたいな」は話し言葉で用いられ、引用マーカーへの機能拡張も確認できた。すなわち、韓国語の「kes-kathun」と日本語の「みたいな」は意味・形態的に類似しており、「連体終止形」という共通性を見せつつも、語用論的な機能拡張の程度の大小という対比が観察された。

(Ⅱ)に関しては、テロップに現れる「一般述語」の連体終止形の出現様相を「連体形以外の発話」、「非発話」、「連体形の発話」に3分類して調べた結果、「連体形以外の発話」の生起頻度が圧倒的に多かった。さらにテロップでは名詞や終止形が無標形式として頻繁に出現しており、それらに比べると、連体終止形の生起頻度は決して高くない。

それにも関わらず、テロップで、「現実」を示す過去・現在連体形を提示することによって、臨場感を与え、話し手の(非)言語行動に対して、聞き手の側での理解や共感、気づきなどを喚起する機能を体現していると考えられる。単に話し手の発話全体や発話の一部をそのまま再現したり、出演者の表情やジェスチャーに基づいて解釈・描写したりする際に用いられる名詞止めや終止形止めとはその機能が異なる。

また、「一般述語」の連体終止形が現れる場合、圧倒的に過去・現在連体形が多く、

未来連体形は殆ど観察されなかった。しかし、未来連体形は「類似性」を表す「kes-kathun」を付加することによってまだ行われていない事柄を表すことが確認できた。

以上、第1章から第6章において議論された分析結果について述べた。次節では本研究で得られた研究成果を基に、言語学への示唆について述べる。

7.2 言語学への示唆

本節では本研究で得られた研究成果が言語学へ応用される可能性について述べる。

本研究で取り上げた研究対象は、従来の伝統的文法研究では殆ど論じられることのない未開拓の言語形式であったが、用例の解説に基づいた綿密な分析を通して、新奇表現として体系的な記述と説明を与えることができた。しかし、なぜ、伝統的文法研究ではこのような新奇表現の記述の試みはなかったのだろうか。

その理由として、従来の研究では筆者による作例に依存していたこと、また、近年はコーパスの普及によって大量のデータを入手することはできるが、そのデータは書き言葉に偏っているということである。そのため、伝統的文法の枠組みに位置づけられる文法や言語形式が主な研究対象となり、従来は観察されなかった新奇表現が議論されることは稀であった。しかし、本研究ではインターネットのブログやテレビ番組のテロップなど、いわゆるメディア言語に見られる言語形式に注目することによって新たな文法や言語形式を見出すことができた。

メディア言語は、従来の規範的な形式から逸脱するものと思われる新奇表現が多く、「言葉の乱れ」や「誤用」と思われがちで、そのような言語使用に対する批判的な見方もあった。しかし、近年多くの言語で、電子媒体（電子メール、ブログやチャット）を介在した、話し言葉と書き言葉の両方の性質を持った、従来あまり見られなかった文法形式や語彙など、新奇表現が観察されるようになってきている (Crystal 2006)。さらに、メディアは言語使用の変化に影響を与えており (岡本他 2008)、そこで使用され始めている新奇表現の背後には普遍的な言語の変化の特徴も伺われる (窪田 2006) という指摘もなされている。つまり、本研究で取り上げられている新奇表現は、韓国語の記述文法に対する重要な貢献となると共に、メディアで現れる言語形式が有用な研究対象となり得ることを示唆している。

また本研究では、あくまで、主な研究対象は韓国語であり、一部の形式において日本語との対比を行っている。特に、本研究で取り上げている韓国語の研究対象は、日本語

の特徴を踏まえた上での新たな知見でありつつ、両言語の対比を通じてからこそ見えてくるものである点で大きな意義がある。もちろん、類型論的に類似している両言語の対照研究は相違点より類似点が際立つ可能性が高い。しかし、本研究で韓国語の新奇表現を考察する際には、日本語との形態・統語・機能的な類似点に着目しつつも、一部の形式に限られるが、両言語の対比を行うことによって、個別の言語では見えない機能や特徴を解明することができた。

このように、今までは研究対象として論じられることのなかった文末形式であるが、用例の解説に基づいた綿密な分析を通して、韓国語における新奇表現として見出せる可能性を示唆している。言い換えれば、これらの韓国語の新奇表現は、日本語との対照を通じてからこそ新たな発見が得られたという点で、本研究によるこの試みは、類型論的に類似している言語研究に対して有益な知見を提供するものと考えられる。

具体的には、韓国語の一部の形式と日本語との対比（第4章の「tanun ke(s-ita）」と「ということ（だ）」、第5章の「sim-ita」と「お〜だ」文、第6章の「kes-kathun」と「みたいな」）を行うことによって、それぞれの言語の特徴を明らかにすることができた。さらに、類似性（直喩）を表す語から引用マーカ―への機能拡張は英語の「like」、フィンランド語の「niinku」、スウェーデン語の「liksom」などにおいて観察されており（Heine and Kuteva 2002）、日本語の「みたいな」においても同様の機能拡張が報告されている（Suzuki 1995, Fujii 2006）。しかし、韓国語の「kes-kathun」の場合、類似性（直喩）を表す語でありつつ、日本語の「みたいな」のような連体形の形態をしているなど、共通点があるが、引用マーカ―への機能は獲得していないことが確認できた。

つまり、本研究では個別の言語のみでは見逃しがちな日韓両言語の機能や特徴をより緻密に分析することができ、このような対照研究のアプローチは言語間の個別的な異同のみならず、諸言語の普遍性や多様性を求めようとする言語類型論のアプローチにつながっていくものであろう。

近年韓国では従来の伝統的文法研究で取り上げられてきた様々な言語形式以外に、既存の文法体系の枠組みでは説明できない新奇表現が頻繁に見受けられている。そして、その新奇表現が完全に定着して固定化するかどうかは、現在の段階では断言できず、長い年月が経って立証されることが、残された課題であるのも事実である。

本研究では、今まで研究対象として取り上げられることのない新奇表現に対し、1つの構文として位置づけられることを試みたが、このためには言語資料として活用される

メディア言語の位相や、類型論的に類似している言語との対照研究の有効性を再認識する必要があると考えられる。

7.3 今後の課題と展望

本研究の残された課題と展望として以下の3点が挙げられる。

(1) 研究対象の拡大について

本研究では、研究対象として、大きく「文末名詞化構文」「連体終止形」という2種類の構文に注目している。しかし、文末名詞化構文といっても、名詞化辞「kes」「um」「ki」に焦点をあて、コピュラが結合した「kes-ita」「um-ita」「ki-ita」に限定した。「kes」の場合、形式名詞でもあるため、今後「形式名詞+コピュラ」という構造をとっている多くの文末形式（「moyang-ita」「seym-ita」「the-ita」「phan-ita」「nolus-ita」「cham-ita」）を研究対象に含め、文末名詞化構文の全体像を明らかにしたい。これらは特にコピュラ無しの形態で、ネット上や、テレビ番組のテロップで頻繁に観察されているため、本研究の研究対象との機能上の類似点や相違点などを究明する調査が必要となる。また、名詞化辞は「kes」「um」「ki」以外に、「i (이)」「ci (지)」もあり、コピュラとの共起可能性について分析し、今後それぞれの形式の機能や特徴を解明していきたい。

(2) データの計量化について

本研究では、第6章の「一般述語」の連体終止形に関して取り扱ったデータを除き、第4章の「tanun kes-ita」「tanun ke」「N ke」、第5章の「um-ita」「ki-ita」、第6章の「kes-kathun」に関しては、データの量的調査を行うことができなかった。というのも、これらはインターネットのブログを中心として観察される新奇表現であり、規範的なものから多少離れた形式でもあるため、現在のところ、量的調査は不可能といってよいだろう。もし新奇表現がジャンルに限らず、多様な言語要素と共起するなど広範囲に使われるようになり、それと同時に、高頻度で生起することが立証できれば、新奇表現がより固定化する可能性が高くなることとなる。

今後新奇表現に対して量的調査の代わりに、それに準ずるものとして韓国人母語話者による容認度テストを実施することが、本研究ではできなかったデータの計量化を補う有効な道具立てとなり得る。そうすることによって、新奇表現の定着の可能性が窺える

ことが期待される。

(3) 新奇表現の定着への可能性について

本研究では、伝統的文法の枠組みからすると多少離れた新奇表現を研究対象とし、それらを文末形式の1つとして位置づけることを試みた。このような新奇表現は将来独自の言語形式として固定化する可能性もあるが、ただ一時期流行り、消滅する可能性もあるわけで、その定着度は相当の時間が経ってから分かるものであると思われる。それに関わらず、本研究で新奇表現を取り上げた理由は、ネット上で数多くの言語形式が作り出されており、そのうち一時期頻繁に用いられたり、衰退したりするなど、その繰り返しを通して言語変化のパターンが得られることへの指摘が必要であると考えたからである。特に韓国ではインターネットを通して新たな言語形式が生産される傾向があるため、今後もネット上での新奇表現に目を向ける必要があると考えられる。

謝辞

この博士論文の執筆にあたり、これまで数多くの方々にお世話になりました。

本論文は名古屋大学大学院国際言語文化研究科の堀江薫先生の丁寧なご指導ご鞭撻のもと完成させることができました。指導教官であり本論文の主査を務めていただいた堀江薫先生には博士後期課程の3年半にわたって言語類型論、認知・機能言語学、対照言語学の観点より、本論文の構成から完成まで、大変有益なご指導とご助言をいただきました。この場をお借りして心より深く感謝申し上げます。

また、本論文の副査は同大学院の初山洋介先生と奥田智樹先生に担当いただくことができました。両先生からは予備審査、本審査を通じて貴重なご助言や有益なコメントを頂いたこと、大変有り難く存じます。

また、麗澤大学大学院言語教育研究科の金廷珉先生、神田外国語大学の平香織先生につきましては、韓国語における有益なコメントをいただき、大変お世話になりました。

また、私が3年半前に来日するまでには、韓国の世明大学日本語学科の金粥東先生、漢陽大学大学院日本言語文化学科の李康民先生、同大学院の貞夏美先生に大変お世話になり、留学生活の間温かい激励の言葉をいただきました。特に貞夏美先生のお陰でBK 21 (Brain Korea 21) には多くの援助と国際学会で発表する機会を与えていただき、研究に対する視野を広げることができました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

また、多くのご協力とご助言をいただいた同じ研究科の院生の方々、特に本論文の日本語の修正などで、同じ研究科の李蘭亞氏、田邊泉氏には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

最後に、父と母からの長きにわたるサポートには、どれだけの感謝を捧げても足りません。心より感謝いたします。またいつも笑顔で応援してくれた義父母にも感謝申し上げます。また、温かい言葉で励ましてくれた兄夫婦の呉湓鎭、張善永、兄の呉禎鎭、そして留学生活3年半の間、いつも精神的に大きな支えになってくれた夫の金龍民に感謝いたします。

本論文の構成と既発表論文との関連

序論 新規執筆

第2章 新規執筆

第3章 新規執筆

第4章 呉守鎮・堀江薫 (2014)「韓国語の文末名詞化構文「-KE(S)」の文法的位置づけと語用論的意味ー日本語の文末名詞化構文との対比を通してー」『KLS』34号, pp.61-72.

第5章 呉守鎮・堀江薫 (2012)「韓国語の文末形式「kes-ita」の文法的意味の分化と分割可能性：文法化の観点から」『日本言語学会第145回大会予稿集』pp.500-505.

第6章 呉守鎮・堀江薫 (2013)「韓国語の連体形「kes-kathun」の終止形化と語用論的拡張ー日本語の連体形「みたいな」との対比を通じてー」『日本語用論学会第15回大会発表論文集』第8号, pp.241-244.

呉守鎮・堀江薫・金廷珉 (2014)「韓国語の文字テロップにおける「連体終止形」ー実例に基づく機能分類を目指してー」(未刊行論文), pp.1-32.

結論 新規執筆

参考文献

- 堀江薫 (2001) 「膠着語における文法化の特徴に関する認知言語学的考察－日本語と韓国語を対象に－」 山梨正明他 (編)『認知言語学論考 No1』 ひつじ書房, pp.89-131.
- 堀江薫 (2002) 「日韓両語の補文構造の認知的基盤」 大堀壽夫 (編)『認知言語学Ⅱ：カテゴリー化』 東京大学出版会, pp.255-276.
- 堀江薫 (2004) 「談話と認知」 中村芳久 (編)『認知文法論Ⅱ』 大修館書店, pp.247-278.
- 堀江薫 (2005) 「日本語と韓国語の文法化の対照－言語類型論の観点から－」『日本語の研究』 1 (3), pp.93-106.
- 堀江薫・プラシヤント・パルデシ (2009) 『言語のタイポロジー－認知類型論のアプローチ』 研究社
- 堀江薫・金廷珉 (2011) 「日韓語の文末表現に見る語用論的意味変化」 高田博行・椎名美智・小野寺典子 (編)『歴史語用論入門』 大修館書店, pp.193-207.
- 堀江薫 (2014a) 「文末名詞化構文の相互行為機能－日韓語の自然発話データの対照を通して－」 井出祥子・藤井洋子 (編)『解放的語用論への挑戦－文化・インターアクション・言語－』 くろしお出版, pp.33-55.
- 堀江薫 (2014b) 「日本語と韓国語の文法化・借用現象に見える共起表現」 ハンドアウト, 名古屋大学ホームカミングデー公開講演会『共起表現』 2014 年 10 月 18 日
- 井出祥子 (2006) 『わきまえの語用論』 大修館書店
- 池上嘉彦 (2006) 『英語の感覚・日本語の感覚』 日本放送出版協会
- 石綿敏雄・高田誠 (1990) 『対照言語学』 桜楓社
- 陳内正敬 (2006) 「ぼかし表現の二面性－近づかない配慮と近づく配慮－」 国立国語研究所 (編)『言語行動における「配慮」の諸相 国立国語研究所報告 123』 くろしお出版, pp.115-131.
- 加藤陽子 (2005) 「話し言葉における発話末の「みたいな」について」『日本語教育』 124, pp.43-52.
- 金恩愛 (2003) 「日本語の名詞志向構造 (nominal-oriented structure) と韓国語の動詞志向構造 (verbal-oriented structure)」『朝鮮学会』 118, pp.1-83.
- 金珍娥 (2009) 「日本語と韓国語の文末における緩衝表現」『朝鮮学報』 213, pp.1-79.

- 金廷珉 (2005) 「名詞と動詞の連続性に関する認知言語学的研究—動名詞と名詞化構文の日韓語対照を通じて—」東北大学大学院修士学位論文
- 金廷珉 (2011) 「「みたいな」と「다는」に関する日韓対照研究」『日本学報』89, pp.49-60
- 金廷珉 (2012) 「韓国語と日本語、どこが似ている、どこが違う」第5回 NINJAL フォーラム 2012 年 3 月 24 日
- 金廷珉 (2014) 「韓国語の引用修飾節の主節化」益岡隆志・大島資生・橋本修・堀江薫・前田直子・丸山岳彦 (編)『日本語複文構文の研究』ひつじ書房, pp.695-717.
- 金廷珉・堀江薫 (2006) 「韓国語における名詞化構文の終結用法—名詞と動詞の連続性の観点から—」『日本認知言語学会論文集』6, pp.150-159.
- 岸本千秋 (2005) 「ネット日記における読み手を意識した表現」三宅和子・岡本能里子・佐藤彰 (編)『メディアとことば2』ひつじ書房, pp.204-231.
- 北村雅則 (2010) 「モノダ文の解釈に関する語用論的分析」『名古屋学院大学論集 人文・自然科学篇』47(1), pp.47-60.
- 甲田直美 (2013) 「名詞修飾節による「語り」の終結—「みたいな」「っていう」の表現性と談話機能」児玉一宏・小山哲春 (編)『言語の創発と身体性—山梨正明教授退官記念論文集』ひつじ書房, pp.431-447.
- 窪蘭晴夫 (2006) 「若者ことばの言語構造」『言語』35(3), pp.52-59.
- 李翊燮・李相億・蔡琬 (前田真彦 訳) (2004) 『韓国語概説』大修館書店
- 益岡隆志 (2007) 『日本語モダリティ探究』くろしお出版
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法—改定版—』くろしお出版
- メイナード・泉子・K. (1997) 『談話分析の可能性』くろしお出版
- メイナード・泉子・K. (2000) 『情意の言語学』くろしお出版
- メイナード・泉子・K. (2004) 『談話言語学』くろしお出版
- メイナード・泉子・K. (2005) 『談話表現ハンドブック』くろしお出版
- メイナード・泉子・K. (2008) 『マルチジャンル談話論：間ジャンル性と意味の創造』くろしお出版
- 初山洋介 (2009) 『日本語表現で学ぶ入門からの認知言語学』研究社
- 中島仁 (2012) 「用言の連体形と連体節をめぐって」野間秀樹 (編)『韓国語教育論講座 第2巻』くろしお出版, pp.283-315.
- 日本語記述文法研究会 (編) (2003) 『現代日本語4 第8部モダリティ』くろしお出版

- 野間秀樹 (1990) 「<할것이다>の研究ー再び現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐってー」『朝鮮学報』134, pp.1-64.
- 野間秀樹 (1997) 「朝鮮語の文の構造について」『日本語と外国語との対照研究IV 日本語と朝鮮語下巻』くろしお出版, pp.103-138.
- 野間秀樹 (2009) 「引用論小考」油谷幸利先生還暦記念論文集 刊行委員会 (編)『油谷幸利先生還暦記念論文集ー朝鮮半島のことばと社会』明石書店, pp.16-39.
- 生越直樹 (2002) 『対照言語学シリーズ言語科学 4』東京大学出版会
- 大堀壽夫 (2002) 『認知言語学』東京大学出版会
- 岡本能里子・佐藤彰・竹野谷みゆき (編) (2008) 『メディアとことば 3』ひつじ書房
- 岡本真一郎 (2010) 『ことばの社会心理学』ナカニシヤ出版
- 岡本真一郎 (2013) 『言語の社会心理学』中公新書
- 佐竹秀雄 (1997) 「若者ことばと文法」『日本語学』16(4), pp.55-64.
- 瀬戸賢一 (1997) 『認識のレトリック』海鳴社
- 新屋映子 (1989) 「文末名詞について」『国語学』159, pp.1-14.
- 新屋映子 (2014) 『日本語の名詞指向性の研究』ひつじ書房
- 塩田英子 (2003) 「関連性理論とテロップ理解」『英語英米文学研究』31, pp.69-91.
- 塩田英子 (2005) 「バラエティ番組における文字テロップの役割」三宅和子・岡本能里子・佐藤彰 (編)『メディアとことば 2』ひつじ書房, pp.32-58.
- 白川博之 (2009) 『「言いさし文」の研究』くろしお出版
- 設楽馨 (2011) 「NHK バラエティ番組に見る文字テロップの変遷ーテレビにおける表記実態と機能の分化ー」『武庫川女子大紀要』59, pp.1-9.
- 鈴木智美 (2012) 「ニュース報道およびブログ等に見られる「～です」文の意味・機能ー「～を徹底取材です」「～に期待です」「～をよろしくです」ー」『東京外国語大学論集』84, pp.341-357.
- 滝浦正人 (2008) 『ポライトネス入門』研究社
- 田中伊式 (2012) 「ニュース報道における「名詞＋です」表現について」『放送研究と調査』10月号, pp.16-29.
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味第Ⅱ巻』くろしお出版
- 土岐留美江 (2005) 「平安和文会話文における連体形終止文」『日本語の研究』4(1), pp.16-31.

- 辻大介 (2001) 「ココロの話法—アイロニー・ユーモア・風刺を中心に」『言語』 30(7), pp.54-60.
- 辻幸夫 (編) (2013) 『新編認知言語学キーワード事典』 研究社
- 塚本秀樹 (2012) 『形態論・統語論の相互作用』 ひつじ書房
- 角田太作 (1996) 「体言締め文」鈴木泰・角田太作 (編)『日本語文法の諸問題：高橋太郎先生古希記念論文集』 ひつじ書房, pp.39-161.
- 角田太作 (2005) 『世界の言語と日本語』 くろしお出版
- 角田太作 (2011) 「人魚構文：日本語学から一般言語学への貢献」『国立国語研究所論集』 1, pp.53-75.
- 上原聡 (2004) 「日韓語対照研究による敬語の文法化に関する一考察」佐藤滋・堀江薫・中村渉 (編)『対照言語学の新展開』 ひつじ書房, pp.257-277.
- 梅田博之 (1991) 『スタンダードハングル講座 2 文法・語彙』 大修館書店
- 渡辺文生 (2007) 「ブログの言葉遣い」『日本語学』 26(4), pp.26-33.
- 米倉よう子 (2013) 「類似性から派生する（間）主観的用法—直喩から引用導入機能への文法化—」山梨正明・吉村公宏・堀江薫・靱山洋介 (編)『認知日本語学講座第 7 巻 認知歴史言語学』 くろしお出版, pp.137-163.
- Brown, Penelope and Stephen C. Levinson. (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press. (田中典子監訳, 斉藤早智子・津留崎毅・鶴田庸子・日野壽憲・山下早代子訳 (2011) 『ポライトネス』 研究社)
- Bybee, Joan L. and Paul Hopper (eds.) (2001) *Frequency and the Emergence of Linguistic Structure*. Amsterdam: John Benjamins.
- Bybee, Joan, Revere Perkins and William Pagliuca. (1994) *The Evolution of Grammar: Tense, Aspect, and Modality in the Languages of the World*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Crystal, David. (2006) *Language and the Internet*. 2nd edition. Cambridge: Cambridge University Press.
- Evans, Nicholas. (2007) Insubordination and its uses. In: Irina Nikolaeva (ed.) *Finiteness: Theoretical and Empirical Foundations*. NY: Oxford University Press, pp.366-431.
- Fujii, Seiko. (2006) Quoted thought and speech using the *mitai-na* 'be-like' noun-modifying

- construction. In: Satoko Suzuki (ed.) *Emotive Communication in Japanese*. Amsterdam: John Benjamins, pp.53-95.
- Goldberg, Adele. (1995) *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago: The University of Chicago Press. (河上誓作・早瀬尚子・谷口一美・堀田優子訳 (2001)『構文文法論－英語構文への認知的アプローチ』研究社)
- Goldberg, Adele. (2006) *Constructions at Work: The Nature of Generalization in Language*. Oxford: Oxford University Press.
- Heine, Bernd, and Tania Kuteva. (2002) *World Lexicon of Grammaticalization*. Cambridge : Cambridge University Press.
- Hopper, Paul J. (1998) Emergent Grammar. In: Michael Tomasello (ed.) *The New Psychology of Language*. Mahwah, New Jersey: Lawrence Erlbaum, pp.155-175.
- Hopper, Paul J. and Elizabeth Closs Traugott. (2003) *Grammaticalization*. 2nd edition. Cambridge: Cambridge University Press.
- Horie, Kaoru. (2008) The grammaticalization of nominalizers in Japanese and Korean. In: María José López-Couso and Elena Seoane (eds.) *Rethinking Grammaticalization*. Amsterdam: John Benjamins, pp.169-187.
- Horie, Kaoru. (2011) Versatility of nominalizations. In: Foong Ha Yap *et al.* (eds.) *Nominalization in Asian Languages*. Amsterdam: John Benjamins, pp.473-496.
- Iwasaki, Shoichi. (1993) Functional Transfer in the History of Japanese Language. *Japanese/Korean Linguistics* 2, pp.21-32.
- Kemmer, Suzanne. (2003) Human Cognition and the Elaboration of Events: Some Universal Conceptual Categories. In: Michael Tomasello (ed.) *The New Psychology of Language*, Vol.2. Mahwah, New Jersey: Lawrence Erlbaum, pp.89-118.
- Kemmer, Suzanne and Michael Barlow. (2000) Introduction. In: Michael Barlow and Suzanne Kemmer (eds.) *Usage-Based Models of Language*. Stanford: CSLI, pp.vii-xxviii.
- Kim, Namkil. (1984) *The Grammar of Korean Complementation*. Univ of Hawaii Center for Korean
- Kim-Renaud, Young-key. (2012) MODERN KOREAN. In: Nicolas Tranter (ed.) *The Language of Japan and Korea*. Routledge Language Family Series, pp.123-185.
- Kumon-Nakamura, Sachiko, Sam Glucksberg and Mary Brown. (1995) How About Another

- Piece of Pie: The Allusional Pretense Theory of Discourse Irony. *Journal of experimental Psychology: General* 124, pp.3-21.
- Maynard, Senko K. (1997) *Japanese Communication*. Honolulu: University of Hawaii Press.
- Ohuri, Toshio. (1995) Remarks on suspended clauses: A contribution to Japanese phraseology. In: Masayoshi Shibatani and Sandra A. Thompson (eds.) *Essays in Semantics and Pragmatics*. Amsterdam: John Benjamins, pp.201-281.
- Ohuri, Toshio. (1998) Polysemy and Paradigmatic Change in the Japanese Conditional Marker *Ba*. In: Toshio Ohori (ed.) *Studies in Japanese Grammaticalization*. Tokyo: Kurosio Publishers, pp.135-162.
- Okamoto, Shinichiro. (2000) Irony Comprehension: The Role of Over-polite Honorifics. Presentation Paper at : 27th International Congress of Psychology, Stockholm.
- Okamoto, Shinichiro. (2002) Politeness and Perception of Irony: Honorifics in Japanese. *METAPHOR AND SYMBOL* 17(2), pp.119-139.
- Park, Meejeong and Sungock Sohn. (2002) Discourse, grammaticalization and intonation: An analysis of *ketun* in Korean. *Japanese/Korean Linguistics* 10, pp.306-319.
- Rhee, Seongha. (2002) From silence to grammar: Grammaticalization of ellipsis in Korean. Paper presented at the New Reflections on Grammaticalization II Conference, April 3-6, University of Amsterdam, The Netherlands.
- Rhee, Seongha. (2008) On the rise and fall of Korean nominalizers. In: María José López-Couso and Elena Seoane (eds.) *Rethinking Grammaticalization*. Amsterdam: John Benjamins, pp.239-264.
- Rhee, Seongha. (2011) Nominalization and stance marking in Korean. In: Foong Ha Yap *et al.* (eds.) *Nominalization in Asian Languages*. Amsterdam: John Benjamins, pp.393-422.
- Rhee, Seongha. (2012) Context-induced reinterpretation and (inter)subjectification: the case of grammaticalization of sentence-final particles. *Language Sciences* 34, pp.284-300.
- Rhee, Seongha. (2013) I know I'm shameless to say this: Grammaticalization of the mitigating discourse marker *Makilay* in Korean. *Procedia-Social and Behavioral Sciences* 97, pp.480-486.
- Rhee, Seongha. (2014) Subjectification and Intersubjectification in Grammatic-alization in Korean. Powerpoint slides, Linguistics Colloquium Talk, February 6, 2014, Nagoya

University.

- Shinzato, Rumiko. (2007) (Inter)subjectification, Japanese syntax and syntactic scope increase. In: Noriko Onodera and Ryoko Suzuki (eds.) *Journal of Historical Pragmatics* 8(2) Special Issue: Historical Change in Japanese, pp.171-206.
- Sohn, Homin. (1999) *The Korean language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Sohn, Sungock. (1995) On the development of sentence-final particles in Korean. *Japanese/Korean Linguistics* 5, pp.219-234.
- Sohn, Sungock. (2003) On the emergence of intersubjectivity: An analysis of sentence-final *nikka* in Korean. *Japanese/Korean Linguistics* 12, pp.52-63.
- Suzuki, Ryoko. (1998) From a Lexical Noun to an Utterance-Final Pragmatic Particle: *Wake*. In: Toshio Ohori (ed.) *Studies in Japanese Grammaticalization*. Tokyo: Kurosio Publishers, pp.67-92.
- Suzuki, Ryoko. (2007) (Inter)subjectification in the quotative *tte* in Japanese conversation: Local change, utterance-ness and verb-ness. In: Noriko Onodera and Ryoko Suzuki (eds.) *Journal of Historical Pragmatics* 8(2) Special Issue: Historical Change in Japanese, pp.207-237.
- Suzuki, Satoko. (1995) A Study of the sentence-final *mitai na*. *Journal of the Association of Teachers of Japanese* 29(2), pp.55-78.
- Suzuki, Satoko. (1999) *Grammaticalization in Japanese: A Study of Pragmatic Particle-ization*. Doctoral Dissertation. University of California, Santa Barbara.
- Tomasello, Michael (ed.) (1998) *The New Psychology of Language*. Mahwah, New Jersey: Lawrence Erlbaum. (大堀壽夫・秋田喜美・古賀裕章・山泉実訳 (2013) 『認知・機能言語学—言語構造への10のアプローチ』研究社)
- Tomasello, Michael (ed.) (2003) Introduction. *The New Psychology of Language*, Vol.2. Mahwah, New Jersey: Lawrence Erlbaum, pp.1-14.
- Traugott, Elizabeth Closs. (1995) Subjectification in grammaticalization. In: Dieter Stein and Susan Wright (eds.) *Subjectivity and subjectivization: Linguistic perspectives*. Cambridge: Cambridge University Press, pp.31-54.
- Traugott, Elizabeth Closs. (2003) From Subjectification to Intersubjectification. In: Raymond Hickey (ed.) *Motives for Language Change*. Cambridge: Cambridge University Press,

pp.124-139.

Wray, Alison. (2002) *Formulaic Language and the Lexicon*. Cambridge: Cambridge University Press.

Yap, Foongha and Stephen Matthews. (2008) The development of nominalizers in East Asian and Tibeto-Burman languages. In: María José López-Couso and Elena Seoane (eds.) *Rethinking Grammaticalization*. Amsterdam: John Benjamins, pp.309-341.

안효경 (2001) 『현대국어의 의존명사 연구』 (『現代国語の依存名詞研究』) 図書出版
ヨクラク

안주호 (1997) 『한국어 명사의 문법화 현상 연구』 (『韓国語名詞の文法化現象研究』)
韓国文化社

최정도 (2007) 「국어 의존명사 구성에 대한 연구」 (『国語依存名詞構成に関する
研究』) 延世大学大学院修士学位論文

한명주 (2005) 「현대국어 형식명사 구성의 양태성 연구」 (『現代国語形式名詞構成の
様態性研究』) 西江大学大学院博士学位論文

한송화 (2013) 「‘다는’ 인용과 인용명사의 사용 양상과 기능—신문텍스트에 나타난
인용을 중심으로—」 (「‘tanun’ 引用と引用名詞の使用様相と機能—新聞テキスト
に現れた引用を中心に—」) 『外国語としての韓国語教育』 39, pp.447-472.

홍사만 (2006) 「국어 의존명사 {것} 의 사적 연구」 (「国語依存名詞 {kes} の
史的研究」) 『語文論総』 44, pp.101-144.

정희정 (2000) 『한국어 명사 연구』 (『韓国語名詞研究』) 韓国文化社

김종복 · 이승한 · 김정민 (2008) 「연설문 말뭉치에서 나타나는 ‘것’ 구문의 문법적
특징」 (「演説文コーパスで現れる ‘kes’ 構文の文法的特徴」) 『認知科学』 19(3),
pp.257-281.

김정민 (2011) 「体言締め文에 관한 고찰—일본어와 한국어의 대조를 통하여—」
(「体言締め文に関する考察—日本語と韓国語の対照を通じて—」) 『人文研究』 63,
pp.151-182.

김상기 (1994) 「‘관형형어미+것이다’ 구문에 관한 연구」 (『‘冠形形語尾+kes-ita’
構文に関する研究』) 東亜大学大学院修士学位論文

김선효 (2004) 「인용구문 ‘-다고 하는’ 과 ‘-다는’ 의 특성」 (「引用構文 ‘-tako hanun’

- と ‘-tanun’ の特性」) 『語学研究』 40(1), pp.161-176.
- 이관규 (2007) 「관형사 어미 ‘다는’ 에 대한 고찰」 (「冠形詞語尾 ‘tanun’ に関する考察」) 『새 국어 교육』 77, pp.489-504.
- 이광호 (2001) 「명사화소 ‘-기’ 의 의미 기능과 그 기원에 대한 소고」 (「名詞化素 ‘-ki’ の意味機能とその起源に対する小考」) 『국어문법의 이해 I』 태학사, pp.319-344.
- 이익섭 (2006) 『한국어문법』 (『韓國語文法』) 서울대학교출판부
- 이익섭 · 임홍빈 (1994) 『국어문법론』 (『國語文法論』) 학研社
- 이원표 (2001) 『담화분석』 (『談話分析』) 한국문화사
- 임홍빈 (1998) 「명사화의 의미특성에 대하여」 (「名詞化の意味特性について」) 『國語文法の深層 I』 태학사, pp.529-554.
- 남가영 (2009) 「문법지식의 응용화 방향－신문텍스트에 나타난 ‘(다)는 것이다’ 구문의 의미기능을 중심으로－」 (「文法知識の応用化方向－新聞テキストに現れた ‘(ta)nun-kes-ita’ 構文の意味機能を中心に－」) 『形態論』 11(2), pp.313-334.
- 남길임 (2004) 『현대 국어 「이다」 구문 연구』 (『現代國語 「ita」 構文研究』) 한국문화사
- 박석준 (2002) 「현대국어 선어말어미 ‘-시’ 에 대한 연구」 (「現代國語先語末語尾 ‘si’ に関する研究」) 延世大学大学院修士学位論文
- 신선경 (1993) 「‘것이다’ 구문에 관하여」 (「‘kes-ita’ 構文について」) 『國語學』 23, pp.119-158.
- 왕문용 · 민현식 (1993) 『국어문법론의 이해』 (『國語文法論の理解』) 開文社
- 東亞새 국어辭典 (2003) 『第 3 版斗山東亞』